



軽量型電動車いす

JW アクティブ PLUS+

車いす用電動ユニット

JW X-1 PLUS+

取扱説明書



お使いいただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。

安全に快適にご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みください。

またお読みになったあともいつでも読み返せるように、大切に保管してください。

最初にお読みください

はじめに

このたびは、JWアクティブ PLUS+ / JWX-1 PLUS+をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、軽量型電動車いす『JWアクティブ PLUS+』および車いす用電動ユニット『JWX-1 PLUS+』の取扱説明書です。

電動車いすは、誤った使いかたをした場合、けがをしたり、製品が破損したりするおそれがあります。また、障がいの種類や程度、お乗りになる方の体調によっては、介助者の同行または介助操作が必要な場合があります。

本書では、安全で快適に製品をお使いいただくための情報を記載しています。

車いすにお乗りになる方だけでなく、介助する方、車いすを管理する方も必ず本書をお読みいただき、十分ご理解いただいたうえで車いすをご使用ください。

- 本製品は、車いすとしての用途以外には使用しないでください。
- JWアクティブ PLUS+、およびJWX-1 PLUS+を装着した車いすは、法令上、身体障がい者用車いすに分類され、道路上では歩行者として扱われます。歩行者としての交通ルールやマナーを守ってご使用ください。
- 安全にご使用いただくため、本製品の各所に警告ラベルが貼られています。警告ラベルに示されている内容は、必ずお守りください。
▶P.13 “警告ラベル配置図”
- 介助用操作部、および介助用ブレーキの装備の有無は、製品購入時の仕様選択によります。また、これらは別売部品として購入も可能です。本書では、『装備つきの仕様を選択した場合の部品』という扱いで記載しています。
- 製品の仕様変更により、本書の内容が実際にお使いの製品と異なる場合がありますのでご了承ください。

説明書の構成

取扱説明書のほかに、製品のご使用前にお読みいただく『初めてお使いいただく方へ』の2冊で構成されています。

- 本書は、各部の取り扱い、操作、点検、保管、運搬、トラブルに対する対処や仕様諸元など製品を取り扱うための情報を記載しています。
- 『初めてお使いいただく方へ』では、電動車いすの特徴、介助者による運転や同行の要不要を判断するための診断チェック、運転・操作の基本練習、交通ルールなど電動車いすを安全にお使いいただく上で、製品のご使用前に理解いただきたい基本的なことを記載しています。取扱店の取り扱い説明を受けていただくとともに、本書とあわせてお読みください。
- JWX-1 PLUS+を取り付けた車いすフレームの取り扱いについては、フレームの取扱説明書をご覧ください。

本書のみかた



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡、重傷、又は傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。



安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

OP

装備つきの仕様を選択した場合の部品を示します。

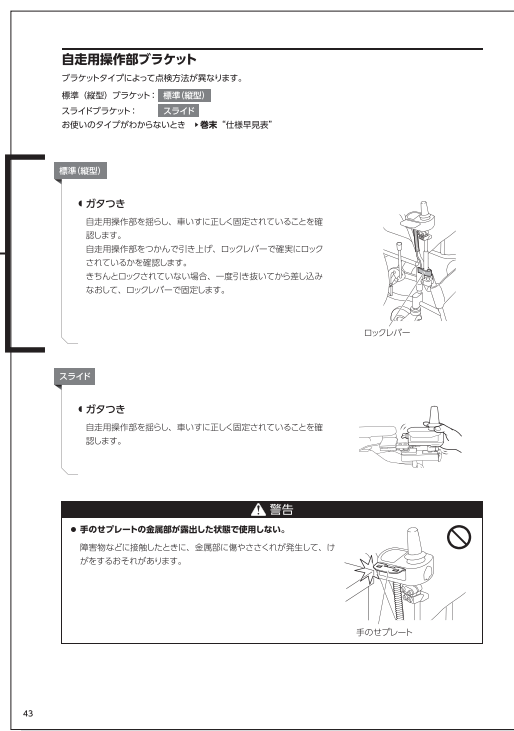


位置や角度を調整できる部品を示します。



標準(縦型)

お使いの製品や装備によって説明内容が異なることを示します。



下記のイラストで、お使いの製品をご確認ください。

本書内のイラストは、JWアクティブ PLUS+ Pタイプを基本として表現しています。仕様やJWX-1 PLUS+を装着したフレームの違いなどにより、実際にお使いの製品と異なる場合があります。ご了承ください。

軽量型電動車いす『JWアクティブ PLUS+』

Pタイプ

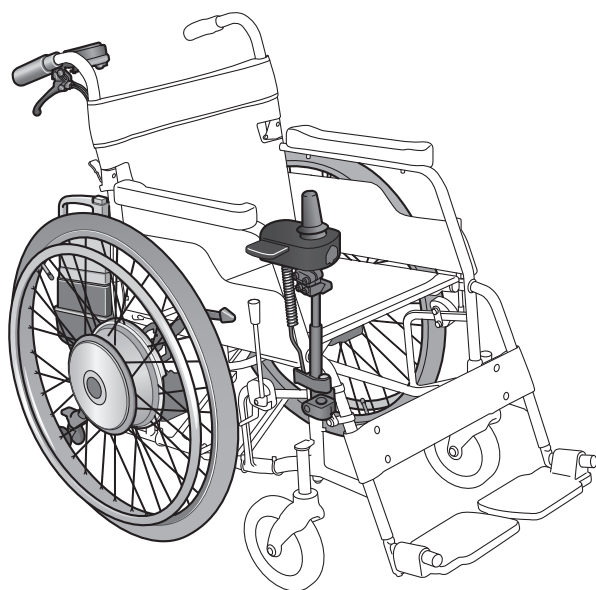


Sタイプ



JWアクティブ PLUS+の使用者最大体重（積載物を含む）は100kgです。

車いす用電動ユニット『JWX-1 PLUS+』



JWX-1 PLUS+のユニット耐荷重（乗員、荷物、フレーム重量を含む）は125kgです。
車いすフレームの重量および耐荷重は、フレームの取扱説明書や保証書などをご確認ください。

もくじ

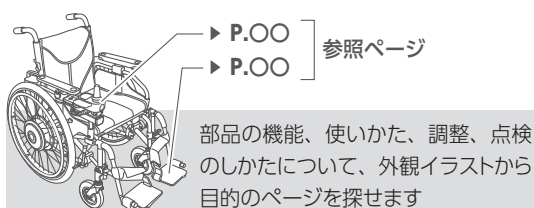
最初にお読みください

- はじめに i
- 説明書の構成 i
- 本書のみかた ii

1 本製品の使用にあたって 1

- 運転適正チェック 11
- 介助適正チェック 12
- 警告ラベル配置図 13

2 各部の名称と使いかた 15



- JWアクティブ PLUS+ 15
- JWX-1 PLUS+ 17
 - ニッケル水素バッテリー〔型式：JWB2〕 19
 - リチウムイオンバッテリー〔型式：ESB1〕 20
 - 充電器（ニッケル、リチウム共用）〔型式：ESC3〕 21
- 自走用操作部 32
- 介助用操作部 43

3 車いす各部の点検 45

- 点検箇所 45

4 車いすの運転 53

- 車いすに乗り移る準備 56
- 車いすに乗り移る 58
- 運転前のチェック 60
- 車いすを運転する 62
- 運転の練習 65
- 車いすから降りる 67

5 介助者による運転 69

- 車いすへの乗り移りの準備 72
- 車いすへの乗り移り 74
- 運転前のチェック 76
- 車いすの運転 77
- 運転の基本 79
- 車いすからの降車 80

本製品の特長

手動車いすの取り回しの良さと電動車いすの走行性を併せ持ち、お使いの環境に合わせた設定や仕様を選ぶことができます。

電動  手動

走行切り替え

▶P.30
クラッチレバー

選べる
専用バッテリー

ニッケル・リチウム

▶P.81
バッテリーと充電器の
取り扱いについて

自分好みの
操作感を
セッティング
できる

▶P.127
走行パラメーター

- | | | |
|-----------|------------------------------|---|
| 6 | バッテリーと充電器の取り扱いについて 81 | <ul style="list-style-type: none">■ バッテリーの種類 81■ バッテリーの着脱 86■ ニッケル水素バッテリー〔型式：JWB2〕 91■ リチウムイオンバッテリー〔型式：ESB1〕 101 |
| 7 | 運搬、手入れ、保管 111 | <ul style="list-style-type: none">■ 車いすの折りたたみ 112■ 自動車などへの積載 115■ 航空機での取り扱い 117■ 車いすのお手入れ 118■ 車いすの保管 120 |
| 8 | 寸法、仕様諸元 123 | <ul style="list-style-type: none">■ 寸法 123■ 仕様諸元 125 |
| 9 | こんなときは 127 | <ul style="list-style-type: none">■ 自走用操作部の設定変更 127■ 故障と思ったら 129■ よくある質問 138■ 車いす、バッテリーの処分 140■ お問い合わせと保証 140 |
| 10 | 定期点検のすすめ 141 | <ul style="list-style-type: none">■ 点検内容 141
■ 仕様早見表 巻末 |

1 本製品の使用にあたって

この章では、電動車いすを使用するにあたってご理解いただく必要のある警告情報を記載しています。
また、JWアクティブ PLUS+、およびJWX-1 PLUS+を装着した車いすは、一般的な鉛バッテリーを使用した電動車いすに比べて重量が軽い代わりに、重心位置が高くなりやすい特徴があります。お使いいただく環境や場所によっては一層の注意が必要です。

車いすに乗る人だけでなく、介助者も警告情報を正しくご理解ください。

本製品の使用にあたって

警告

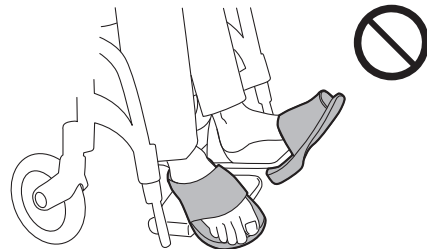
- 車いすを使用する前に、必ず介助者がどうか適性を判断する。
また、介助者がどうかは理学療法士、作業療法士など専門家の意見を参考に判断する。
誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 操作に慣れるまでは、介助者の同伴のもと、平坦で安全な場所で運転の練習をする。
不慣れな状態で道路に出ると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 車いすをぶついたり、壁などでこすったりしたときは、傷やささくれなどがいないことを確認する。
傷やささくれなどに触れたときに、ご自身がけがをするおそれがあります。
- ユニットや車軸周辺のユニット取り付け部を改造しない。
改造すると安全性を損なったり、性能が低下したりする場合があります。
- 体調が悪い場合や、お酒や眠くなる薬を飲んだときは、運転をしない。
ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 下記のような服装で車いすを運転をしない。

不適切な服装で運転すると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

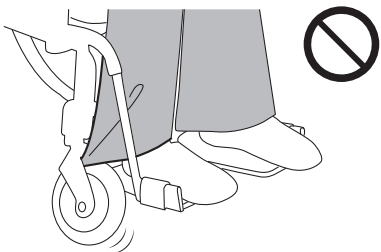
丈の長いマフラー



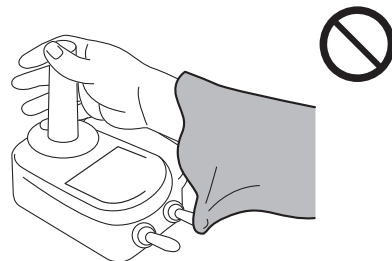
素足または下駄・サンダル履き、
足のサイズに合っていない履き物など



裾の広いズボン・スカート



袖口の広い服



注意

- ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。

本体ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

危険が生じやすい路面

警告

- 緊急時は、介助者がクラッチレバーを手動側にして安全な場所に移動させる。

- 下記のような環境や場所では、介助者が同行する。

単独での走行は、けがをするおそれがあります。

- あらかじめ日常よく使うルートに、下記のような危険がないか確認する。

危険な箇所がある場合は、危険な箇所を避けてルートを選択してください。

● 砂利道や泥道

キャスターやリヤタイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。



● 側溝や下水溝のフタ

すき間がある場合は、キャスターやリヤタイヤを落とすおそれがあります。



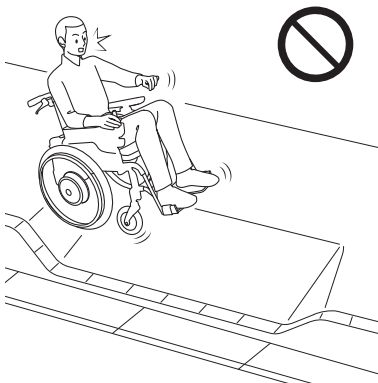
● 雪・水たまりのある道路

- ・ スリップして車いすのコントロールができなくなったり、ブレーキが効かなくなったりするおそれがあります。
- ・ 駆動部が水に浸かると停止するおそれがあります。



● 大きなくぼみ

道路のくぼみ、車出入り用スロープなどによる歩道のくぼみは、避けてください。そのまま走行すると転倒するおそれがあります。やむを得ず走行しなくてはならない場合は、介助者が同行して、安全を確認し走行してください。



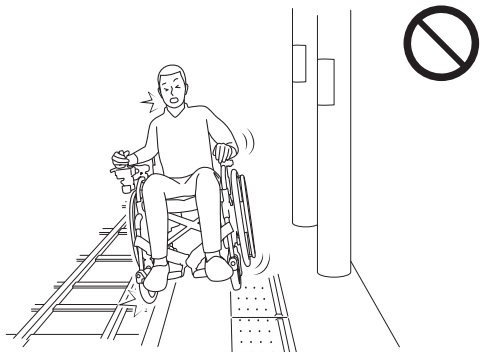
危険が生じやすい環境

警告

- 緊急時は、介助者がクラッチレバーを手動側にして安全な場所に移動させる。
- 下記のような環境や場所では、介助者が同行するか、駅やバスの停留所などでは係員に声をかける。
単独での走行は、けがをするおそれがあります。
- あらかじめ日常よく使うルートに、下記のような危険がないか確認する。
危険な箇所がある場合は、危険な箇所を避けてルートを選択してください。

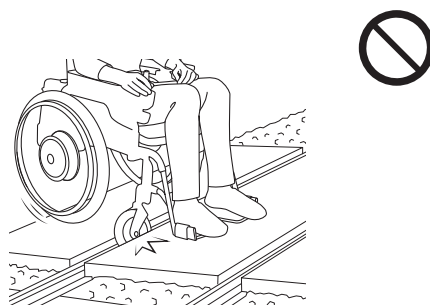
● 駅のプラットフォーム

線路に転落するおそれがあります。



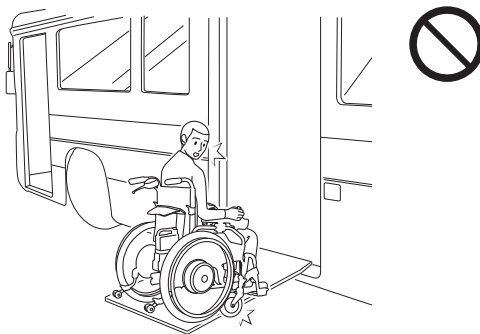
● 踏切や路面電車の線路

線路のすき間にキャストを落とすおそれがあります。



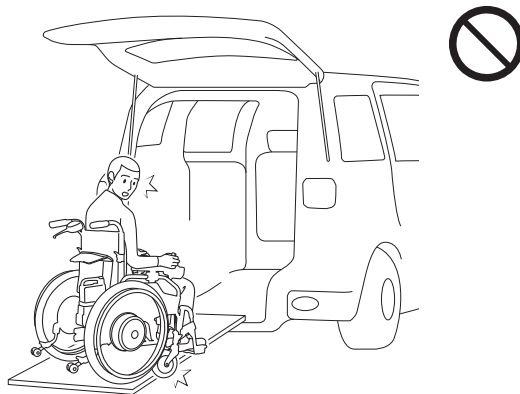
● バス・電車の乗降

スロープから脱輪したり、プラットフォームと電車のすき間にキャストを落とすおそれがあります。



● リフト付車両への乗降

スロープから脱輪するおそれがあります。



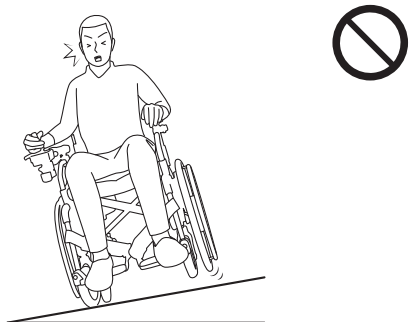
警告

● 不慣れな坂道の上下り

不慣れな坂道や初めての坂道では、介助者が同行して、安全を確認する。

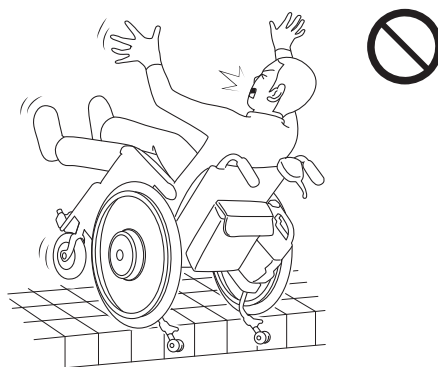
● 車いすが左右に大きく傾く場所

車いすが横に倒れるおそれがあります。



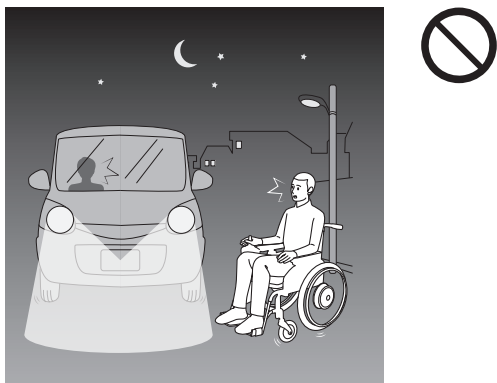
● 段差の上下り

- ・周りの状況を常に注意し、安全を確認してください。
- ・電動走行で上下りできる段差は最大25mmです。(JWX-1 PLUS+はフレームやキャスターの大きさなどで異なります。) 初めて上下りする段差は介助者が同行して、安全を確認してください。



● 夜間の走行

- ・路面状態がわからず転倒や衝突するおそれがあります。
- ・周りの人や車から認識されずに衝突されるおそれがあります。



● 柵がない歩道

車いすが車道側に落ちるおそれがあります。



● 不慣れな道路の横断

- ・特に信号機のない横断歩道では、交通状況に十分注意して渡ってください。
- ・信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。余裕を持ち、信号が次の青に変わるまで待ってから渡ってください。
- ・狭い車道を走行することは大変危険です。できるだけ安全な道を選択してください。
- ・バッテリー残量が少ない場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。横断前にバッテリー残量を確認してください。

● 強い電波を発生させる設備の近く

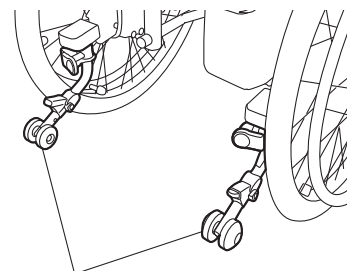
電動ユニットが故障したり、誤作動を起こしたりするおそれがあります。

転倒防止バーの取り扱い

警告

- 走行前に必ず転倒防止バーを出して、ロックされた状態にする。

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、転倒するおそれがあります。



転倒防止バー

- バスやタクシー、電車などから降りたときは、必ず転倒防止バーが出ていることを確認してから車いすに乗る。

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

クラッチレバーの取り扱い

警告

- 傾斜のある場所では、クラッチレバーを手動側に切り替えない。

不意に車いすが動き出して、衝突や転倒のおそれがあります。

- 車いすが動いているときは、クラッチレバーを操作しない。

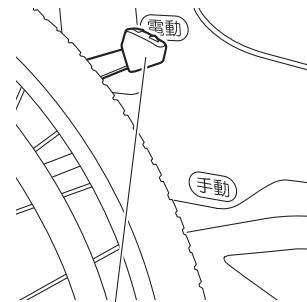
衝突や転倒のおそれがあります。

- 電動走行中に、クラッチレバーを手動側に切り替えない。

モーターによるブレーキ効果がなくなります。特に坂道では車いすが暴走するおそれがあります。

- 手動走行中に、クラッチレバーを電動側に切り替えない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



クラッチレバー

運転中に守るべきこと

警告

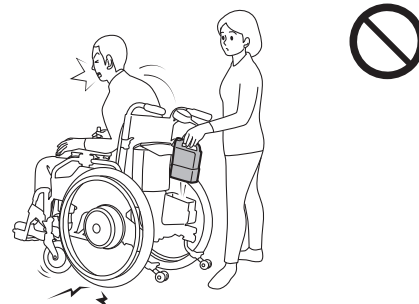
- 携帯電話やスマートフォンなどを使用するときは、安全な場所に停止して車いすの電源を切る。

携帯電話やスマートフォンを使用しながら運転すると、事故の原因となるおそれがあります。



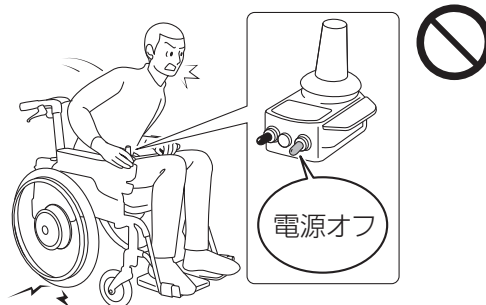
- 走行中にバッテリーを抜かない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



- 走行中に電源スイッチを切らない。

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



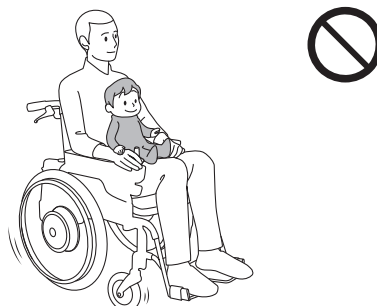
- USB電源ポートにUSB機器を接続したまま走行しない。

障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力が加わり、自走用操作部が破損するおそれがあります。
接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックやクラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。



- 二人乗りやけん引をしない。

車いすが故障したり、乗っている人がけがをしたりするおそれがあります。



荷物について

警告

- **バックサポート（背もたれ）に重い荷物をかけたり、小物入れに重いものを入れたりして走行しない。**

特に上り坂では後ろに倒れやすくなり、ご自身や周囲の人がけがをすることがあります。



- **アームサポートやサイドガードへ物をかけない。**

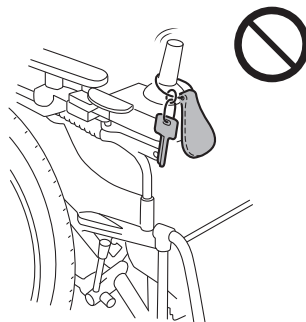
物がリヤタイヤに干渉するとリヤタイヤがロックして、衝突や転倒のおそれがあります。

物がクラッチレバーに干渉すると、不意にクラッチレバーが手動側に切り替わり、衝突や転倒のおそれがあります。



- **自走用操作部のジョイスティックに物をかけない。**

物の重さで手を放してもジョイスティックが戻らず、車いすが停止しなかったり、操作の邪魔になったりするおそれがあります。



- **自走用操作部のジョイスティックに輪ゴムをかけない。**

輪ゴムが自走用操作部の中に入り込むと、ジョイスティックが戻らず、車いすが停止しないおそれがあります。

その他注意が必要な場面



警告

- 混雑した場所で車いすを運転するときは、周りに十分注意する。

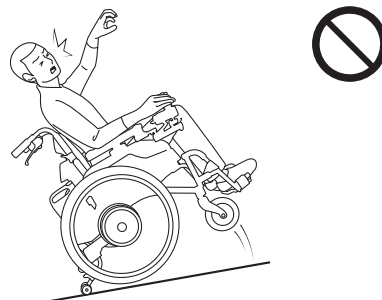
人や物にぶつかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。

- 混雑した場所で停止したときは、必ず電源を切る。

周りの人の手や腕がジョイスティックに接触して、不意に車いすが動き出して、周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 勾配10% (6°) 以上の坂道で車いすを使用しない。

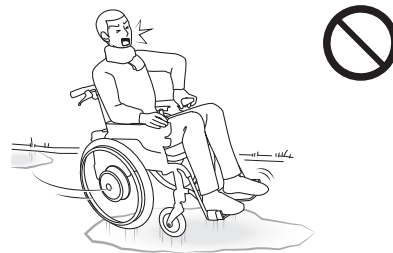
転倒したり、制動が効かなくなったりするおそれがあります。



勾配10% (6°) 以上

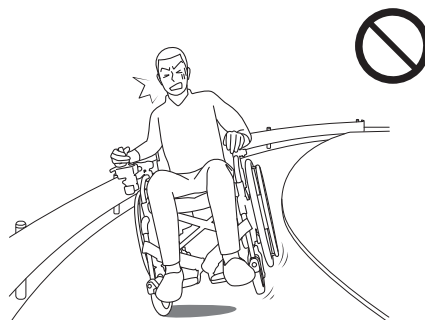
- 凍結した場所で車いすを走行させない。

車いすをコントロールできなくなったり、ブレーキが効かなくなったりするおそれがあります。



- 下り坂で急に曲がらない。

バランスを崩しやすく、車いすが転倒するおそれがあります。



- 急な下り坂で横断や斜め走行をしない。

バランスを崩しやすく、車いすが転倒するおそれがあります。

- 垣根や樹木の脇を走行するときは、枝などがリヤタイヤと接触しないように十分な距離をあけて走行する。

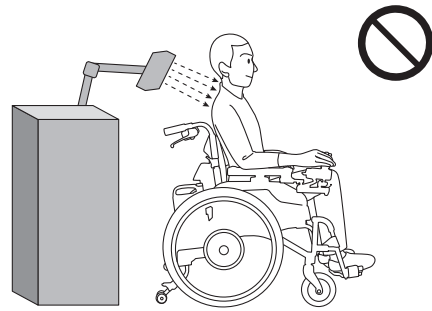
電動走行中に垣根や樹木の枝などがリヤタイヤに巻き込まれた場合、リヤタイヤがロックしたり、クラッチレバーが手動側に切り替わり、衝突や転倒のおそれがあります。

警告

- 電動車いすに乗ったまま、マイクロ波温熱治療を受けない。

電磁波によって電動ユニットが故障したり、誤作動を起こしたり、金属部が発熱してやけどしたりするおそれがあります。

電動車いすは電源を切り、マイクロ波治療器から離れた場所に置いてください。

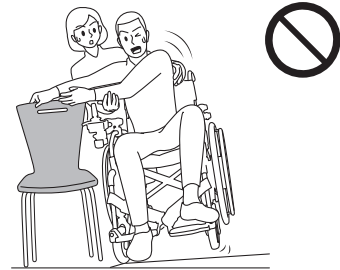


介助操作を行なう際に

警告

- 車いすへの乗り移りは、平坦な場所で行なう。

傾いた場所で車いすに乗り移ると、バランスを崩して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

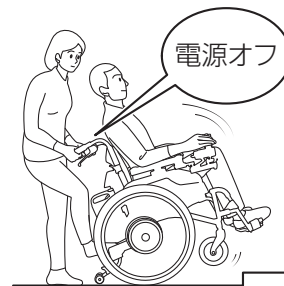


- クラッチレバーを手動側にするときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切る。

不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 段差や障害物を上り下りするときは、介助用操作部の電源スイッチを切り、手動操作で上り下りする。

電動操作で上り下りすると、バランスを崩して車いすが転倒するおそれがあります。

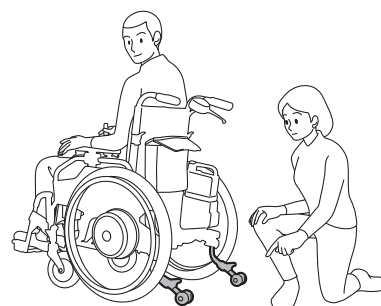


- 段差を乗り越えたあとは、必ず転倒防止バーを元の位置に戻して、ロックされた状態にする。

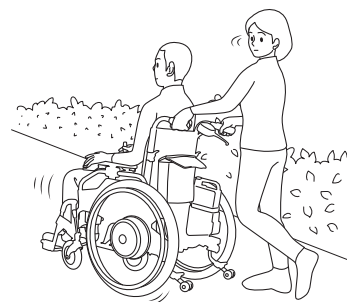
段差の高さによっては、転倒防止バーを一時的に折りたたんで乗り越える場合があります。しかし、そのまま転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

警告**● 走行前に必ず転倒防止バーを出して、ロックされた状態にする。**

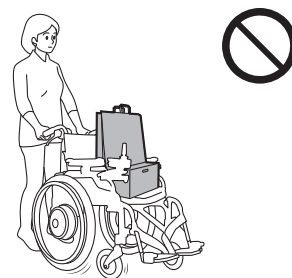
転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、転倒するおそれがあります。

**● 下り坂や段差を下りる場合は、後進で下りる。**

前進で下りると、車いすに乗る人が前のめりになり、車いすから落ちるおそれがあります。

**● 介助目的以外の使いかたをしない。**

車いすが破損し、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



運転適正チェック

障がいの程度や身体の具合によっては、ひとりで運転することが危険な場合があります。この適正チェックをご利用いただき、本製品をひとりで安全に扱えるかどうかの判断の目安にしてください。

警告

- 車いすを運転する前に、必ず介助者が必要かどうか適性を判断する。
また、介助者が必要かどうかは理学療法士、作業療法士など専門家の意見を参考に判断する。
誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

チェック1

- (1) 自走用操作部のスイッチの操作ができますか？
- (2) ジョイスティックを前後左右に動かして車いすを思ったとおりに動かし、停止したいときにジョイスティックを中央に戻すことができますか？
- (3) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？



すべて
できる

1つでも
不安がある

介助者に介助操作をしてもらって
本製品をお使いください。

チェック2

- (1) 駐車ブレーキやクラッチレバーの操作ができますか？
- (2) ひとりで車いすの乗り降りができますか？
- (3) バッテリーの着脱ができますか？

すべて
できる

1つでも
不安がある

介助者に同行してもらって
ください。

ひとりで運転することは可能です。安全のために慎重な運転を心がけてください。
注意が必要な場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して運転してください。

▶P.2 “危険が生じやすい路面”、▶P.3 “危険が生じやすい環境”

介助適正チェック

車いすに乗る人だけでなく、介助操作をする方も本製品を安全に扱えるかどうかの判断の目安として、適正チェックをご利用ください。

警告

- **介助者が同行・操作するときは、必ず介助者の適性を判断する。**
また、介助者の適性判断は理学療法士、作業療法士など専門家の意見を参考にする。
誤った判断をすると、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- **介助操作の適性がない人は、介助操作しない。**
ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

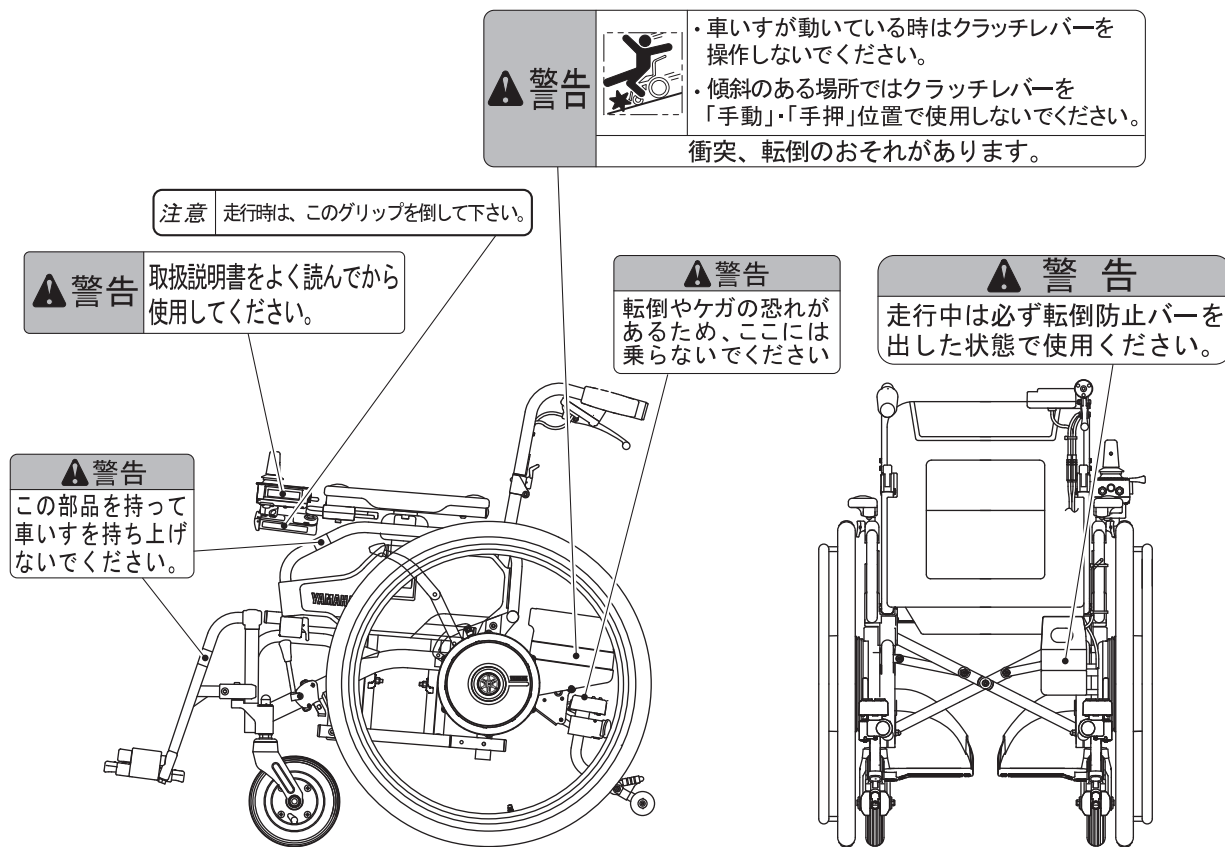
チェック

下記の項目のうち1つでも不安がある場合は、介助操作をしないでください。

- (1) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？
- (2) 車いすの乗り降りの補助ができますか？
- (3) バッテリーの着脱ができますか？
- (4) 手動での介助操作ができますか？

警告ラベル配置図

車いす全体



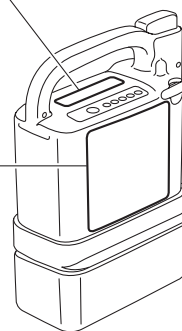
● ニッケル水素バッテリー [型式: JWB2]

警告 このグリップを持って車いすを持ち上げないでください。

警告

- 専用充電器以外の物で充電したり、指定の車いす以外に使用しない。
- 分解・改造をしない。
- 火に近づけたり、端子をショートさせない。
- 水没させたり、落下させたり、衝撃を与えない。
- 車いすを自動車などに積載する際は、バッテリーを外すこと。
- 使用しない時は、付属の端子保護キャップを装着すること。
- バッテリーのヒューズは指定のものを使用すること。

発熱、破裂の原因になります。



● リチウムイオンバッテリー [型式: ESB1]

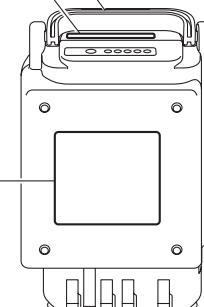
注意 走行時は、このグリップを倒して下さい。

警告 グリップで指を挟まないよう注意下さい。

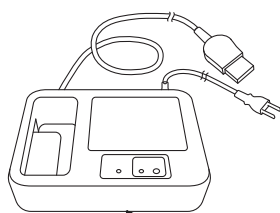
警告

- 専用充電器以外の物で充電したり、指定の車いす以外に使用しない。
- 分解・改造をしない。
- 火に近づけたり、水没させたり、端子をショートさせない。
- 落下させたり、衝撃を与えた電池は使用しない。
- 車いすを自動車などに積載する際は、バッテリーを外すこと。
- 使用しない時は、付属の端子保護キャップを装着すること。

発熱、破裂、発火の原因になります。



● 充電器 (ニッケル、リチウム共用) [型式: ESC3]



<p>BATTERY CHARGER 제품명칭: 전프충전기 / 充電器 MODEL / 모델명 / 型號: ESC3 Ni-MH / Li-ion</p> <p>INPUT / 입력전압 / 輸入規格: 100V-240V~ (額定電圧) 50/60Hz 1.1A-0.5A OUTPUT1 / 출력출력1 / 輸出規格1: 29V $\overline{\text{---}}$ 2.6A OUTPUT2 / 출력출력2 / 輸出規格2: 29.2V $\overline{\text{---}}$ 3A</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p>CAN ICES-3 (B)/NMB-3 (B) YAMAHA MOTOR CO., LTD. MADE IN CHINA / FABRIQUE EN CHINE 商品原産地: 中国</p> <p>제조연월 500345801 2019-10 19105000001</p>	<p>WARNING</p> <p>Before charging, read the owner's manual. Indoor use only. Charge only YAMAHA JWB2 Ni-MH / ESB1 Li-ion rechargeable batteries. To reduce risk of injury and/or equipment damage, do not use other battery types. Don't use the charger if the input plug does not fit the power outlet.</p> <p>AVERTISSEMENT</p> <p>Avant de charger, lisez le manuel d'utilisation. Usage intérieur seulement. Ne chargez que des batteries rechargeables YAMAHA JWB2 Ni-MH / ESB1 Li-ion. Pour réduire les risques de blessures et/ou de dommages matériels, n'utilisez pas d'autres types de batteries. N'utilisez pas le chargeur si la fiche d'entrée ne correspond pas à la prise de courant.</p> <p>警告</p> <p>ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。本機は、ニッケル水素/バッテリー (JWB2) およびリチウム/バッテリー (ESB1) の専用充電器です。JWB2およびESB1以外のバッテリーの充電や充電以外の行為に使用しないでください。</p>
--	--

(裏面に貼付)

2 各部の名称と使いかた

この章では、電動車いすを構成する部品の名称と、機能、取り扱いかたを説明します。
下記イラスト内で示された部品についての詳細は、個別の説明ページへお進みください。

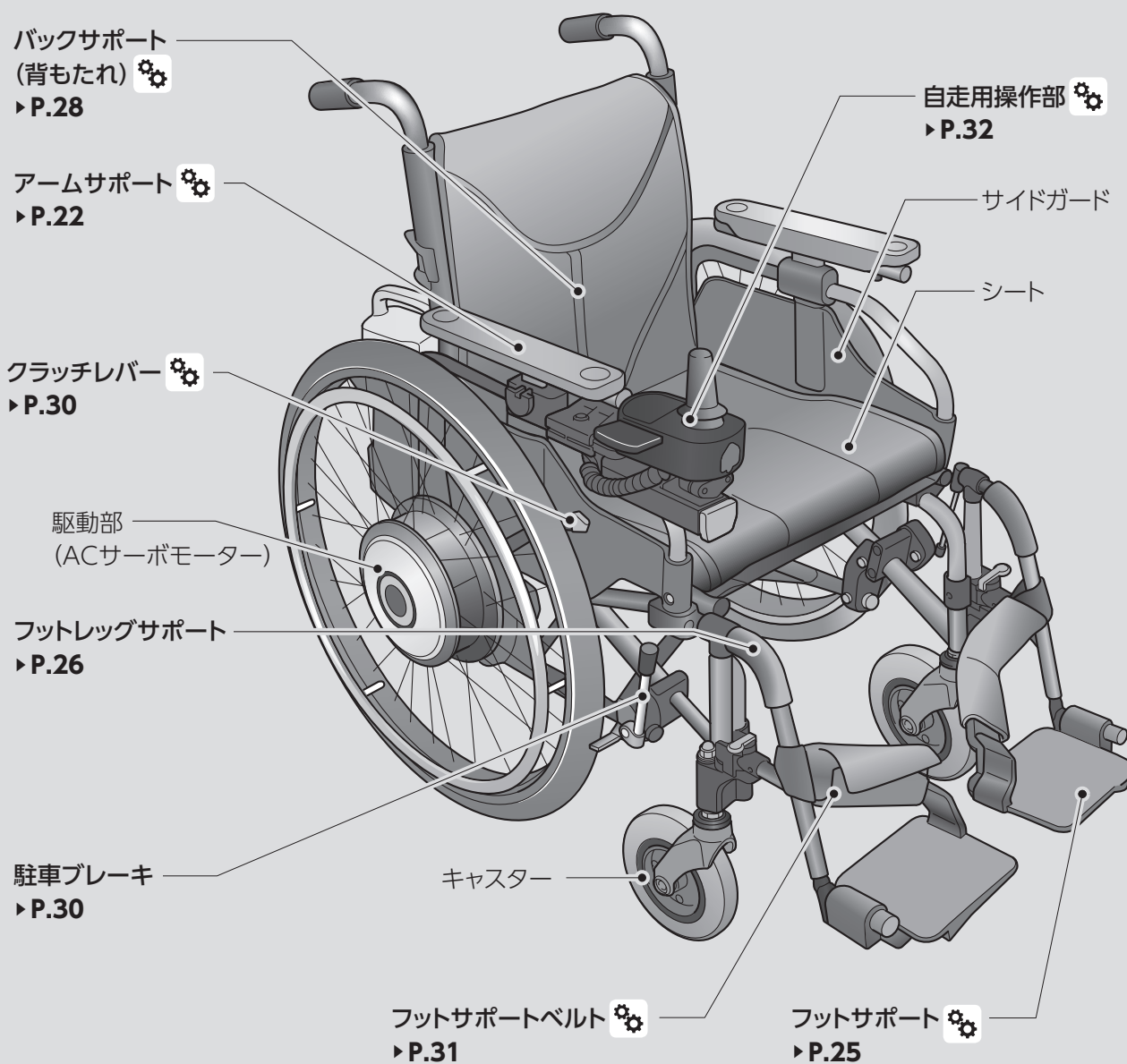
JWアクティブ PLUS+

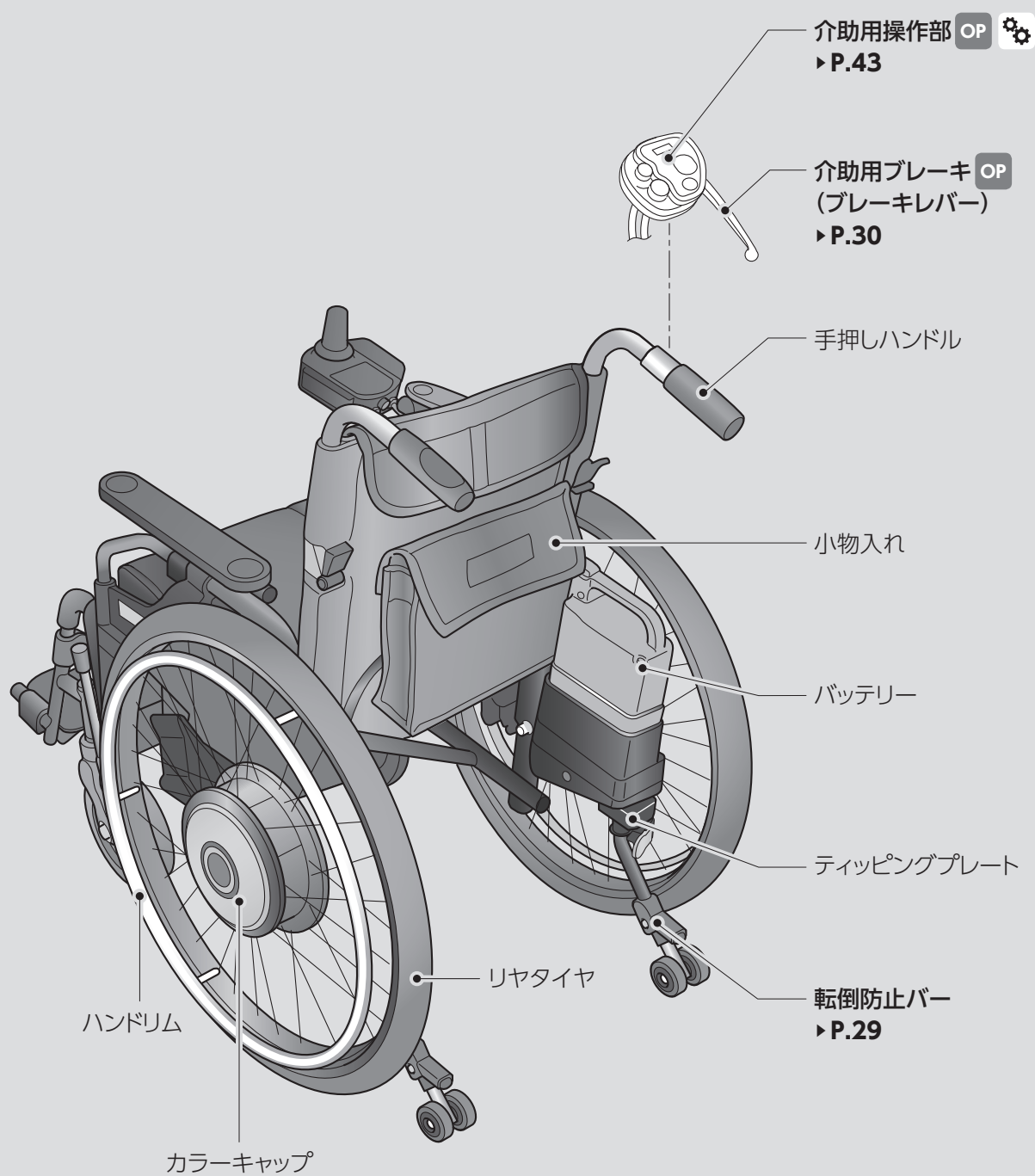


位置や角度を調整できる
部品です。

OP

装備つきの仕様を選択した
場合の部品です。





この章では、電動車いすを構成する部品の名称と、機能、取り扱い方を説明します。
下記イラスト内で示された部品についての詳細は、個別の説明ページへお進みください。

JWX-1 PLUS+



位置や角度を調整できる
部品です。

OP

装備付きの仕様を選択した
場合の部品です。

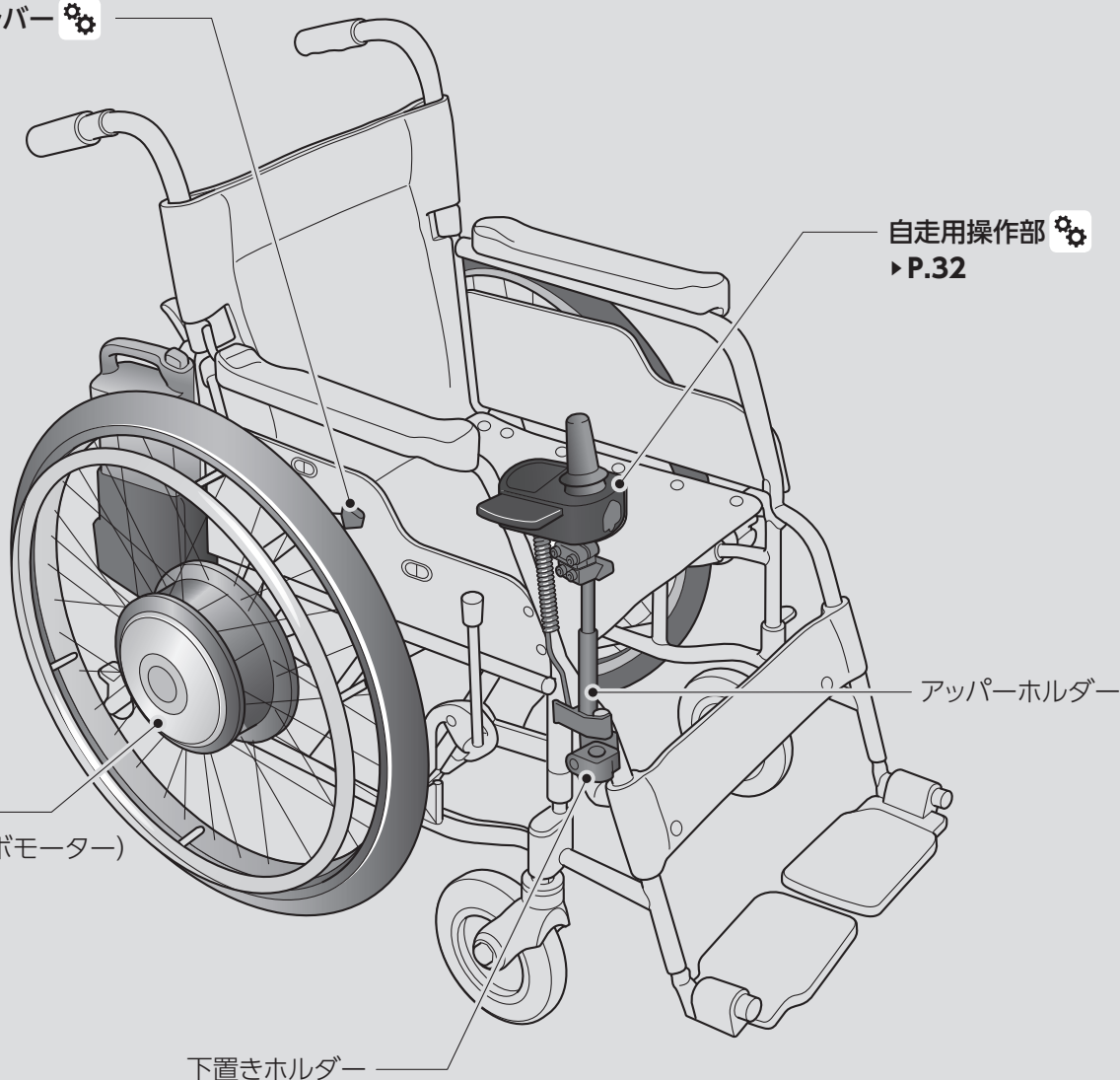
クラッチレバー 
▶ P.30

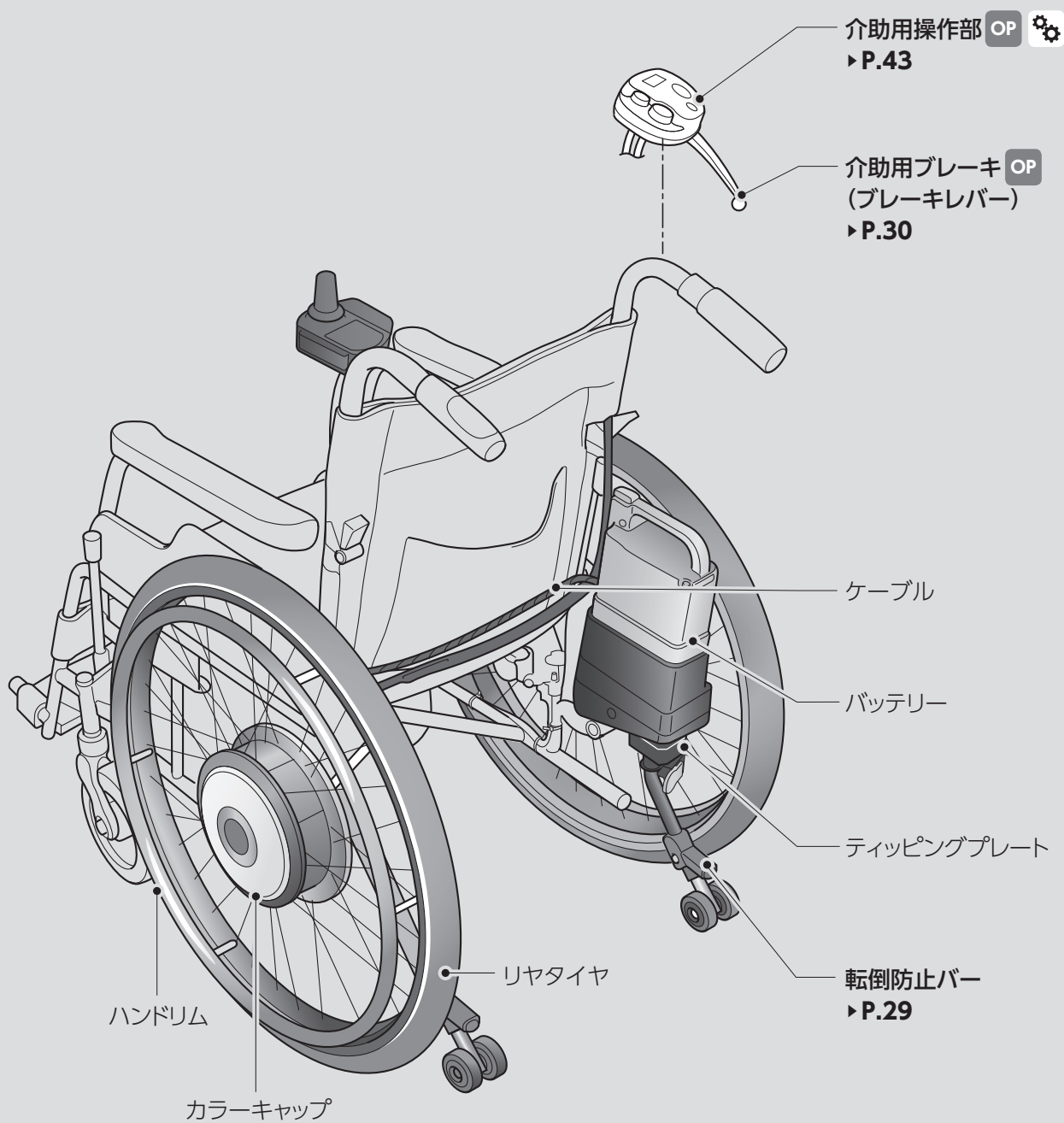
自走用操作部 
▶ P.32

駆動部
(ACサーボモーター)

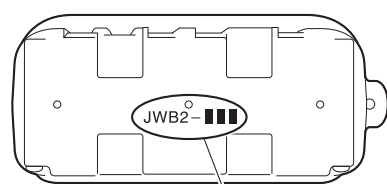
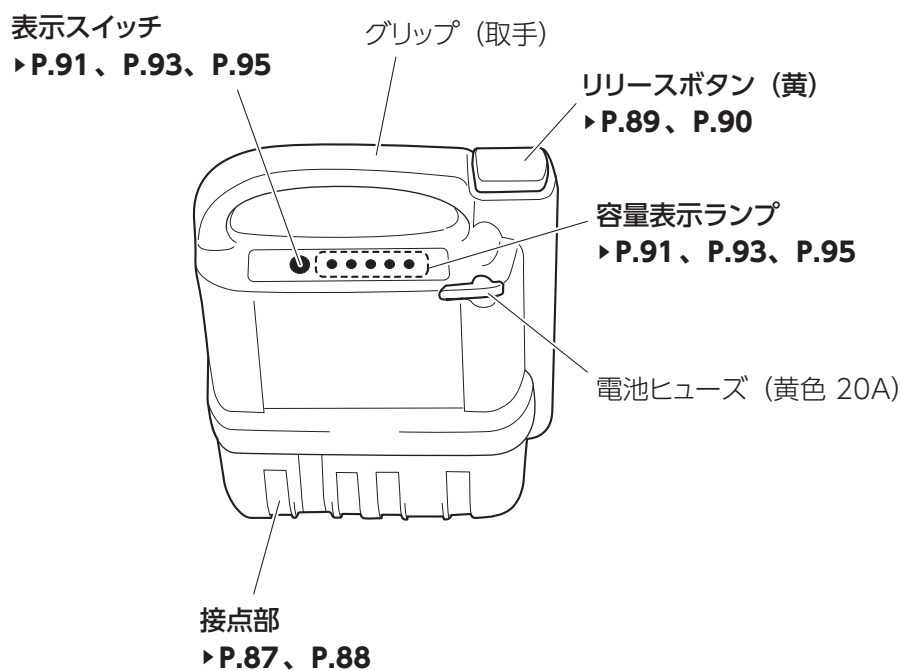
アッパーホルダー

下置きホルダー

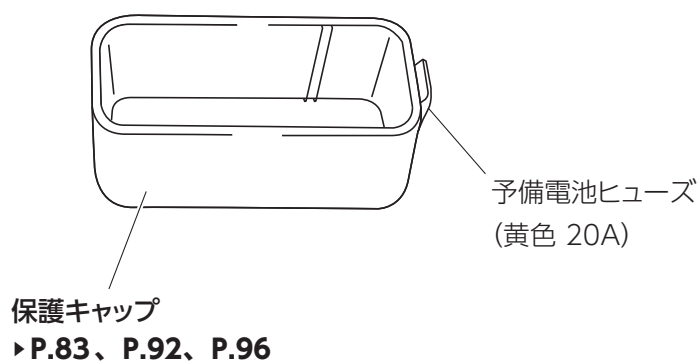




ニッケル水素バッテリー〔型式：JWB2〕



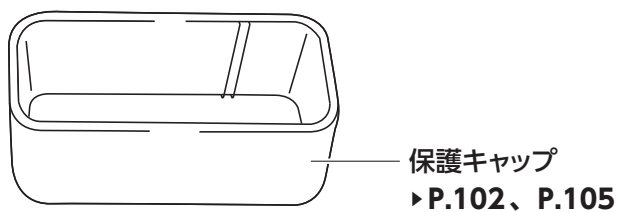
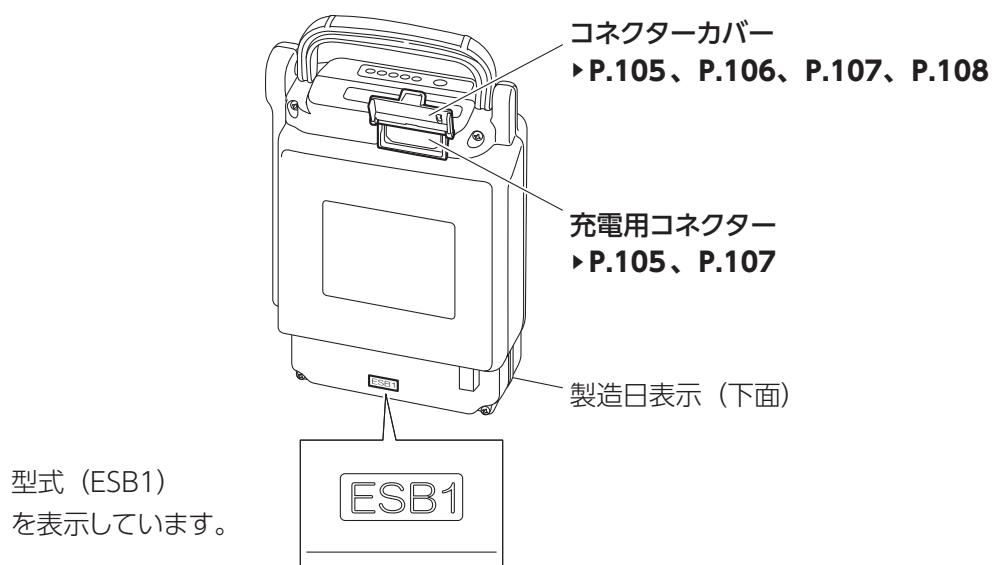
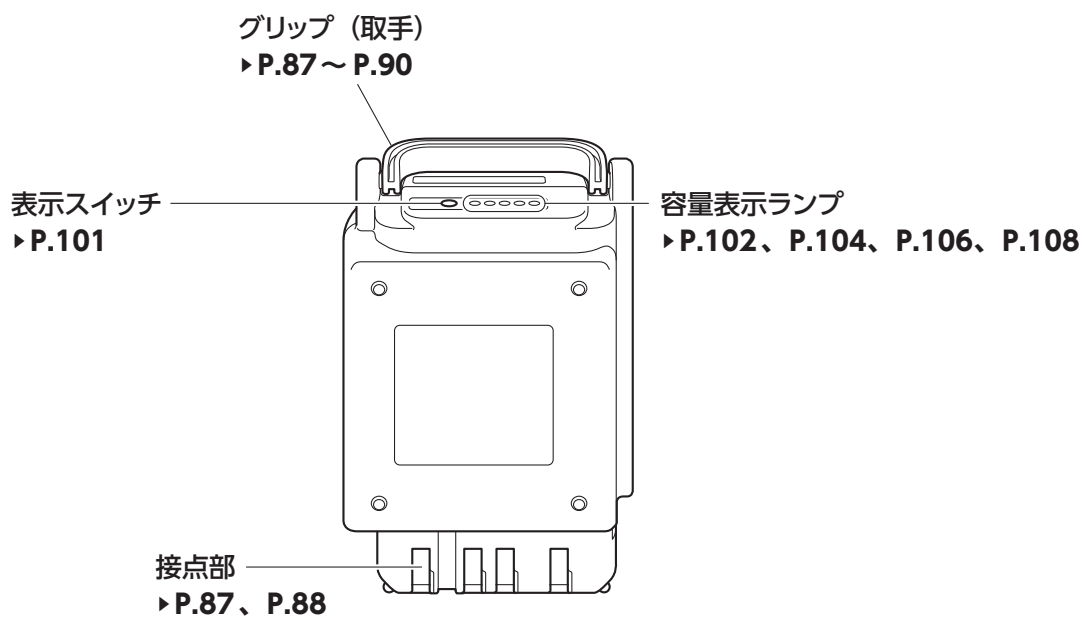
型式 (JWB2) と製造ロットを表す記号を印刷しています。



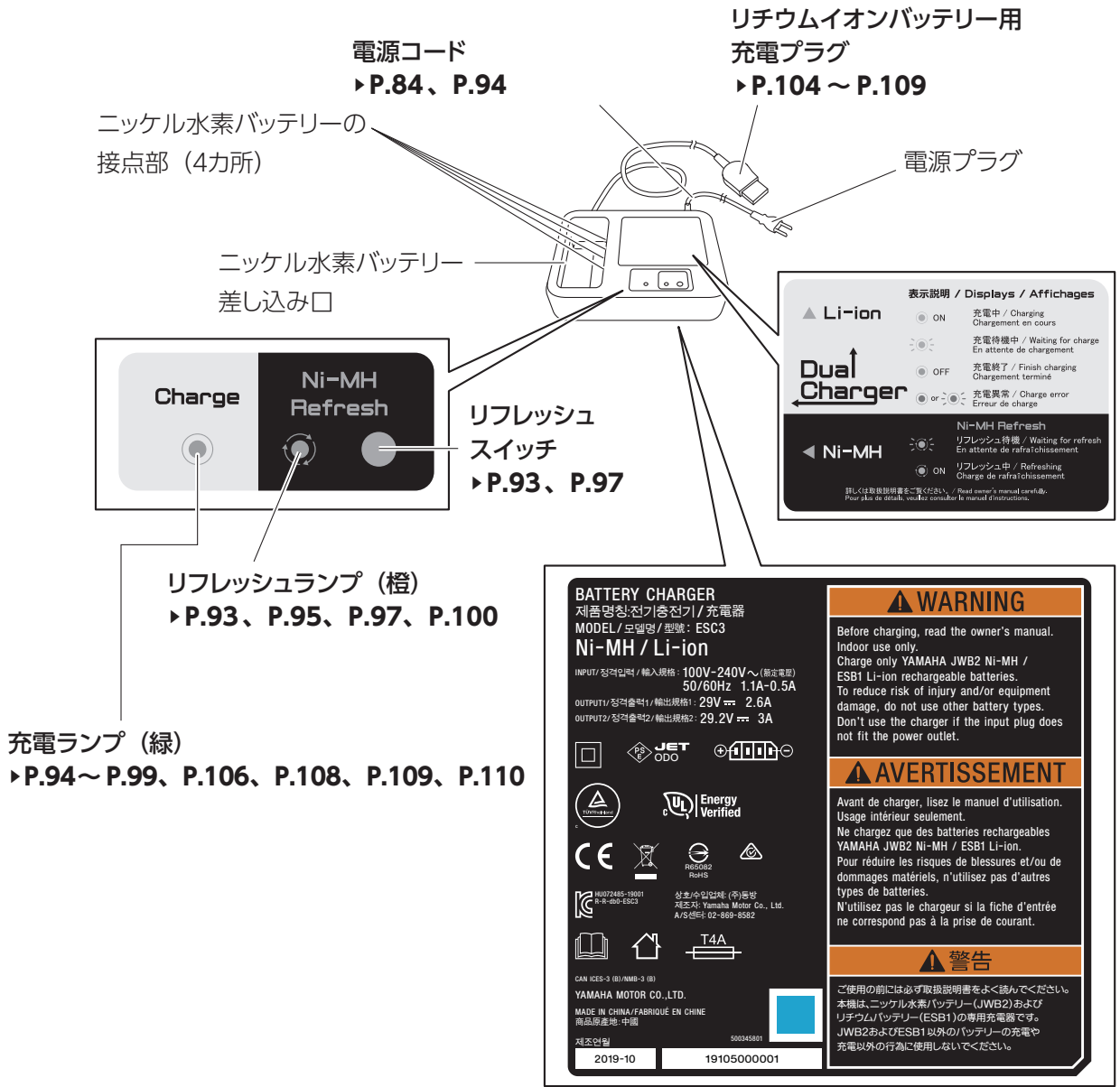
注意

- バッテリーのヒューズが切れた場合、ご自身で交換せず取扱店に相談してください。ヒューズが切れた原因を取り除かずにヒューズを交換すると、ふたたびヒューズが切れたり、本体ユニットが故障したりするおそれがあります。

リチウムイオンバッテリー〔型式：ESB1〕



充電器 (ニッケル、リチウム共用) (型式: ESC3)



アームサポート

車いすのフレームによって取り扱いが異なります。

JWアクティブ PLUS+ Pタイプ: **Pタイプ**

JWアクティブ PLUS+ Sタイプ: **Sタイプ**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

警告

- JWアクティブ PLUS+や跳ね上げ式アームサポート付きのフレームを使用したJWX-1 PLUS+は、下記のことを守る。

- 電源スイッチを入れたあとにアームサポートを上げない
- アームサポートを上げた状態で電源スイッチを入れない
- アームサポートを上げた状態では絶対に走行しない

ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

● 高さ調整

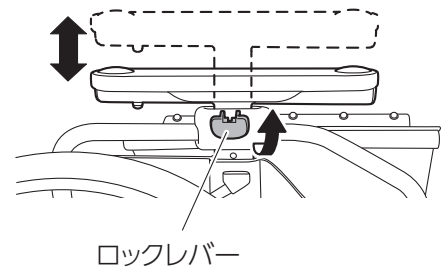
アームサポートの高さを4段階に調整することができます。

● 跳ね上げ

車いすの乗り降りなど、アームサポートが妨げになる場合は、アームサポートを跳ね上げることができます。

高さ調整のしかた

- 1 ロックレバーを引き上げます。



- 2 アームサポートを上下に調整します。

- 3 ロックレバーを降ろして、アームサポートを少し上下に動かすと、ロックの位置が合った段でアームサポートがロックされます。

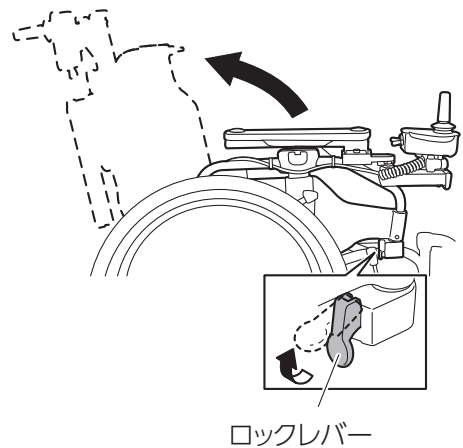
- 4 アームサポートを揺らして、確実にロックされていることを確認します。

跳ね上げかた・戻しかた

- 1 ロックレバーを引き上げながら、アームサポートを跳ね上げます。

要 点

跳ね上げた状態で固定する機能はありません。一番後ろまで跳ね上げてください。



- 2 元の位置に戻すと、「カチッ」と音がしてアームサポートがロックされます。

● 高さ調整

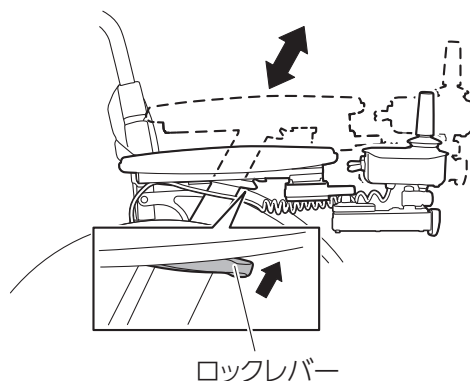
アームサポートの高さを5段階に調整することができます。

● 跳ね上げ

車いすの乗り降りなど、アームサポートが妨げになる場合は、アームサポートを跳ね上げることができます。

高さ調整のしかた

- 1 ロックレバーを引き上げながら、アームサポートを上下に調整します。

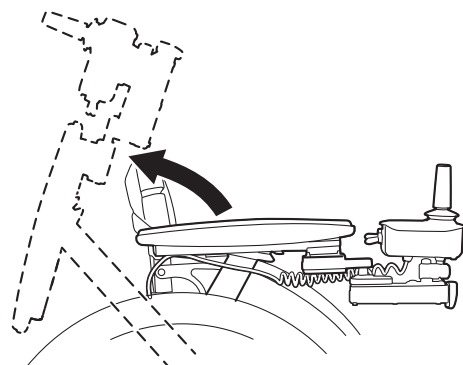


- 2 ロックレバーを放して、アームサポートを少し上下に動かすと、ロックの位置が合った段でアームサポートがロックされます。

- 3 アームサポートを揺らして、確実にロックされていることを確認します。

跳ね上げかた

アームサポートを跳ね上げます。



要点

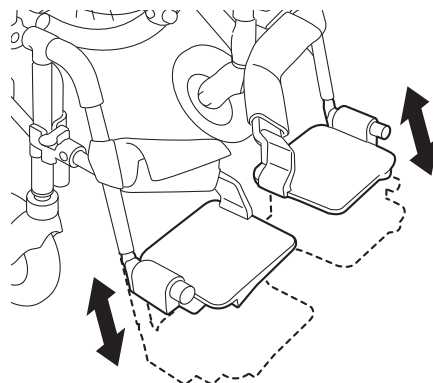
跳ね上げた状態で固定する機能はありません。一番後ろまで跳ね上げてください。

フットサポート

安全の確保のため足を載せます。

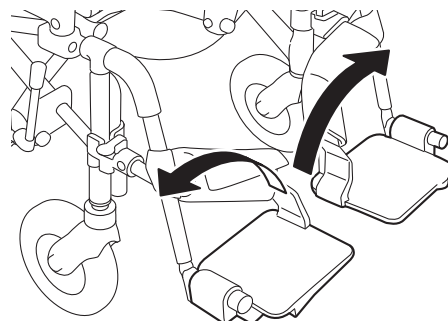
◀ 高さ調整

フットサポートは、お体に合った高さに調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。



◀ 跳ね上げ

車いすの乗り降りするときなどに、フットサポートを跳ね上げることができます。



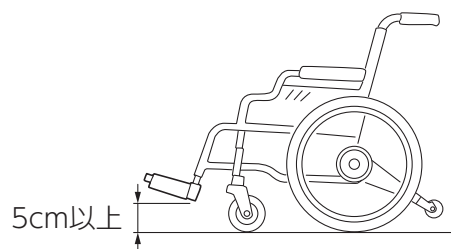
⚠ 警告

- フットサポートの高さを調整しても、フットサポートが走行中に路面と当たることがある場合は、取扱店に相談する。

走行中にフットサポートが段差などに当たり車いすが急停止して、ご自身がけがをしたり、フットサポートの下面側が削れたりするおそれがあります。

- フットサポートの高さは、地面から5cm以上離して使用する。

低過ぎると凸凹路面や障害物にフットサポートが当たり、車いすが転倒するおそれがあります。



- フットサポートの上にとったり、乗り降りの際にステップとして使用したりしない。

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。また、フットサポートが破損する原因となります。

フットレッグサポート

車いすのフレームによって取り扱いが異なります。

JWアクティブ PLUS+ Pタイプ: **Pタイプ**

JWアクティブ PLUS+ Sタイプ: **Sタイプ**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

◀ フットレッグサポートの開閉

車いすの乗り降りするときなどに、フットレッグサポートを外側に開くことができます。

◀ 取り外し

車いすの乗り降りするときや車いすを折りたたむときなどに、フットレッグサポートを取り外すことができます。



警告

- **フットレッグサポートの取り外しができる車いすを持ち上げる時は、絶対にフットレッグサポートを持たない。**

不意にフットレッグサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。

- **フットレッグサポートが外側に開いた状態で、走行しない。**

フットレッグサポートが動いて、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

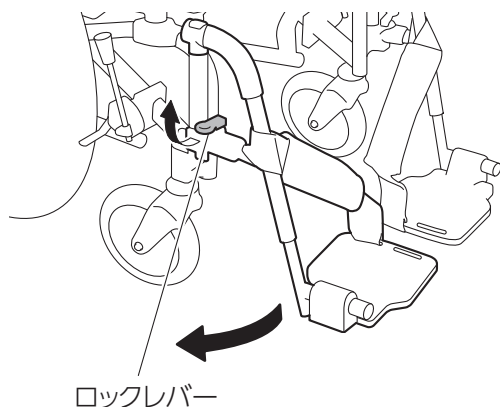
- **走行するときは、絶対にフットレッグサポートを取り外した状態にしない。**

正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。

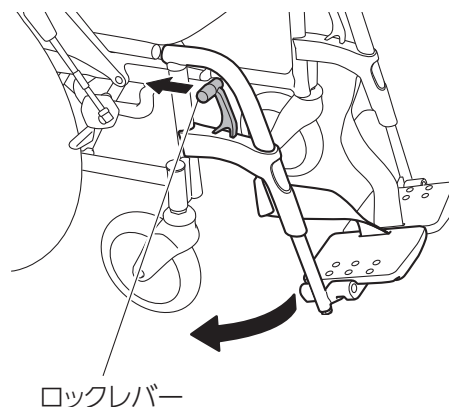
開きかた・戻しかた

- 1 ロックレバーを矢印方向に引きながら、フットレグサポートを外側に回転させます。

Pタイプ



Sタイプ

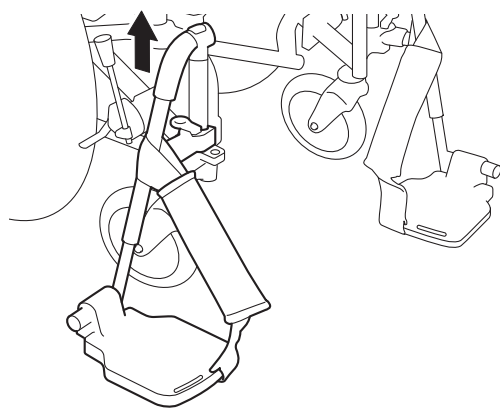


- 2 フットレグサポートを元の位置まで戻すと、「カチッ」と音がしてロックされます。
- 3 フットレグサポートを左右に揺らして、確実にロックされていることを確認してください。

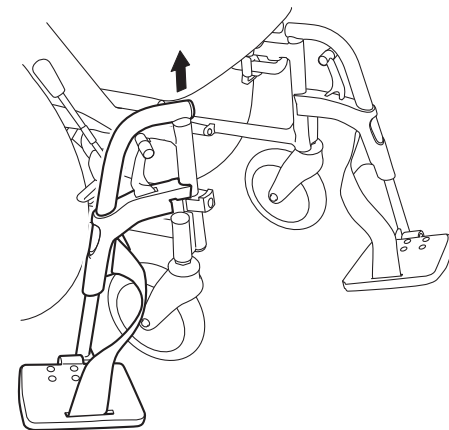
取り外しかた・戻しかた

- 1 フットレグサポートを外側に開いてから、上に引き抜きます。

Pタイプ



Sタイプ



- 2 戻すときは、フットレグサポートを外側に開いた向きで差し込んで、元の位置に戻します。
- 3 元の位置まで戻すと、「カチッ」と音がしてロックされます。
- 4 フットレグサポートを左右に揺らして、確実にロックされていることを確認してください。

バックサポート（背もたれ）

JWアクティブ PLUS+ Sタイプをお使いの場合、下記の調整ができます。
 お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

● バックサポートの張り調整

バックサポートをお体に合った張りに調整することができます。

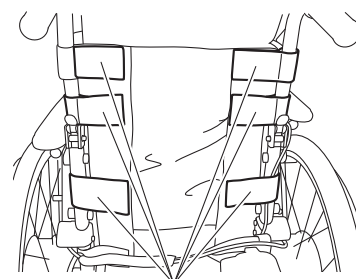
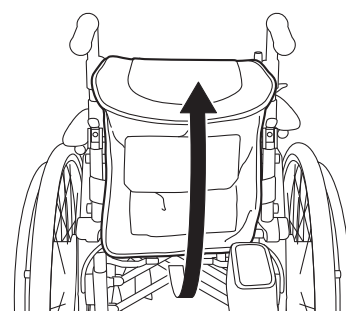
⚠ 警告

- バックサポート(背もたれ)は、適切な張り状態になるように面ファスナー 6ヶ所で調整して固定する。

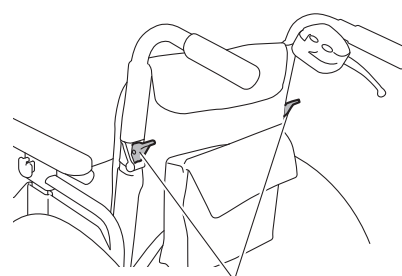
バックサポートが適切な張り状態で固定されていないと、正しい姿勢を保つことができず、ご自身がかげをするおそれがあります。

張り調整のしかた

- 1 小物入れを空にします。
- 2 バックサポートのクッションを取り外します。
- 3 面ファスナー（6ヶ所）をはがし、バックサポートの張りを調整して留めなおします。
- 4 バックサポートのクッションを取り付けます。
- 5 手押しハンドルのロックレバーが外れていないか確認します。



面ファスナー



ロックレバー

転倒防止バー

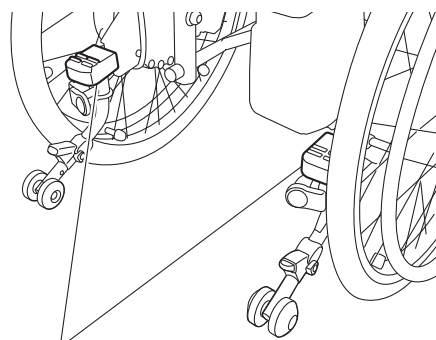
車いすの後方への転倒を防ぎます。

段差を乗り越えるときなどやむを得ない場合は、転倒防止バーを折りたたむことができます。

警告

- 転倒防止バーのティッピングプレート部に乗らない。

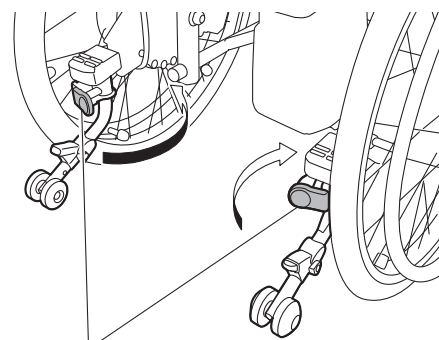
バランスを崩して、転倒するおそれがあります。



ティッピングプレート

折りたたみかた・出しかた

- 1 ロックレバーを押し込むと、転倒防止バーが内側に回転して折りたたまれます。



ロックレバー

- 2 転倒防止バーを元の位置に戻すと、「カチッ」と音がしてロックされます。
- 3 転倒防止バーを左右に揺らし、確実にロックされていることを確認してください。

転倒防止バー出し忘れお知らせ機能

どちらか片方でも転倒防止バーがロックされていない場合、液晶画面にお知らせランプが点灯して、『C3』の表示が点滅します。同時に「ピピー」という断続音が鳴ります。

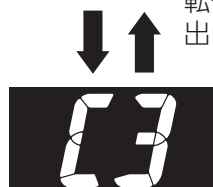
転倒防止バーが両方ロックされると、ブザーが止まって液晶表示が通常画面に戻ります。

要点

介助用操作部にはブザーやランプによるお知らせ機能はありません。



転倒防止バー
出し忘れお知らせランプ



クラッチレバー

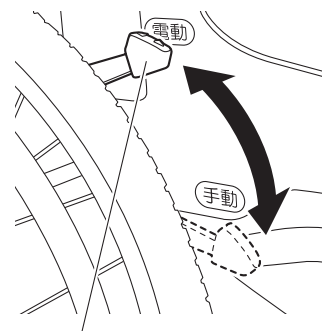
電動走行と手動走行を切り替えます。

●『電動』

電動走行ができます。走行していないときは、電磁ブレーキがかかります。

●『手動』

電磁ブレーキが解除され、手動走行ができます。ハンドリムで運転するとき、または介助者が手押しハンドルで運転するとき以外は、クラッチレバーは電動側にしてください。



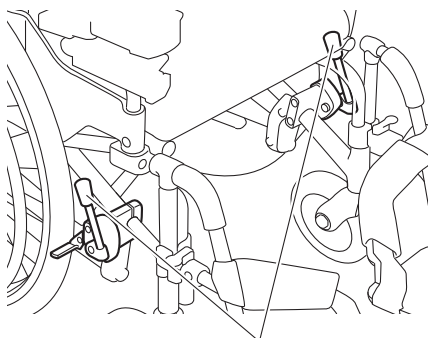
クラッチレバー

クラッチレバーの位置調整

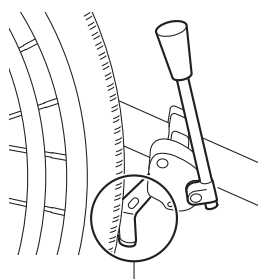
クラッチレバーの左右位置、取付角度は変更できます。
変更する場合は取扱店にご相談ください。

駐車ブレーキ

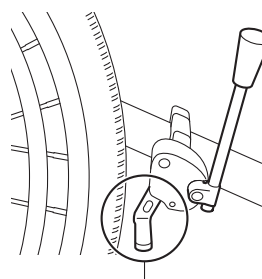
左右の駐車ブレーキをかけるとリヤタイヤが固定されます。
運転するときには必ず左右の駐車ブレーキを解除してください。



駐車ブレーキ



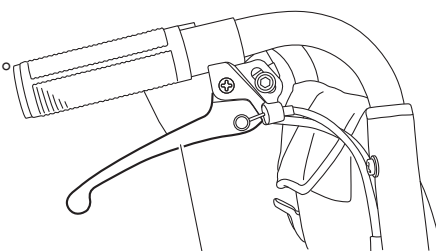
ブレーキ状態



ブレーキ解除状態

介助用ブレーキ（ブレーキレバー）

装備つきの仕様を選択した場合の部品です。
手動で介助操作をしているときに、リヤタイヤにブレーキをかけます。



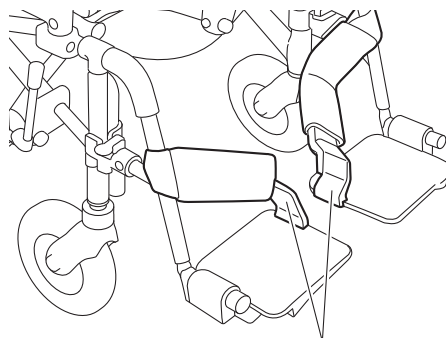
ブレーキレバー

フットサポートベルト

かかとがキャスターに接触しないように、フットサポートに載せた足を保持します。

● 張り調整

フットサポートベルトは、お体に合った張りに調整できます。
調整する場合は取扱店にご相談ください。

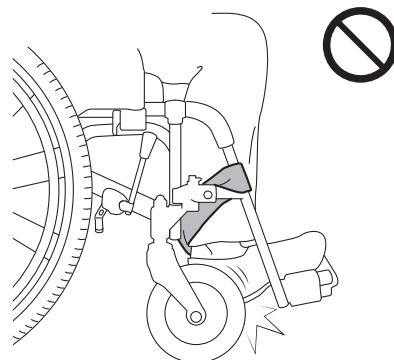


フットサポートベルト

⚠ 警告

- かかとがフットサポートベルトで適切に保持されるように、取扱店でベルトの張りを調整する。

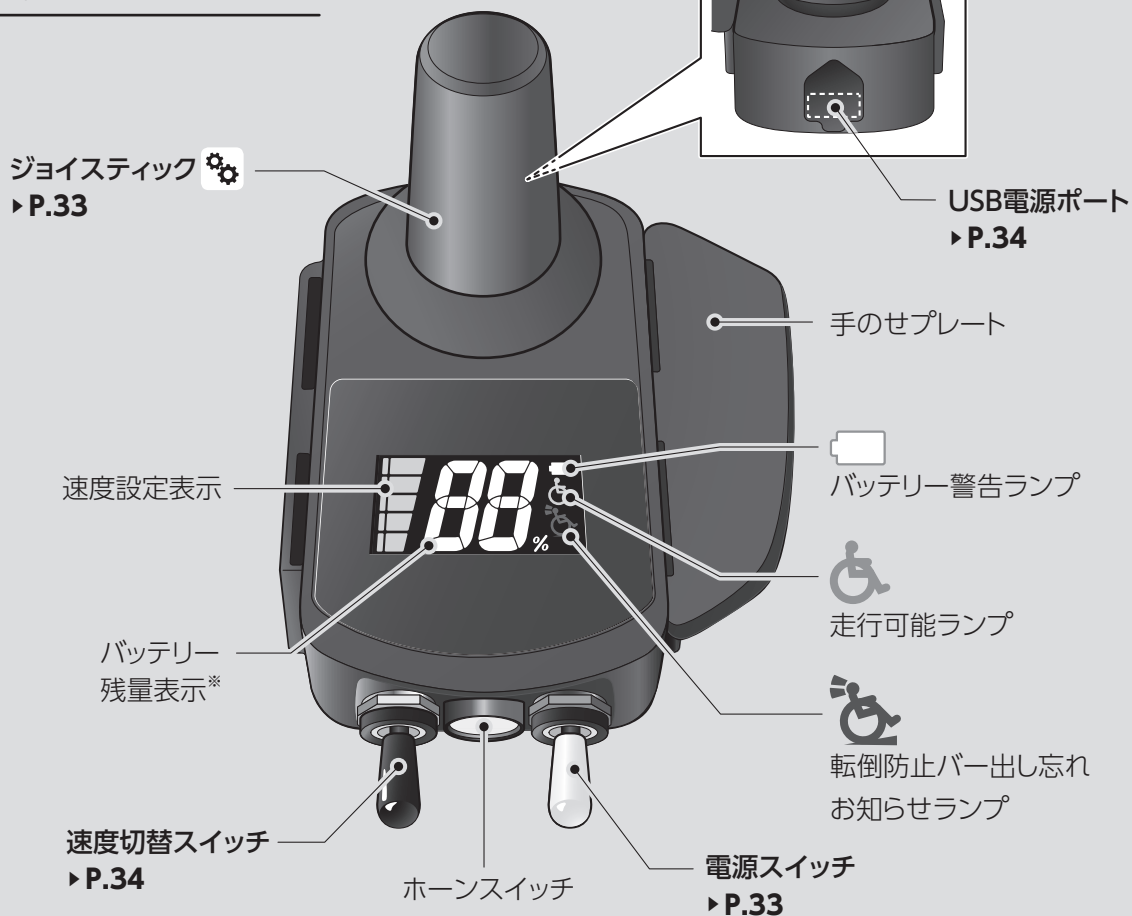
かかとがキャスターと接触して、けがをするおそれがあります。



自走用操作部

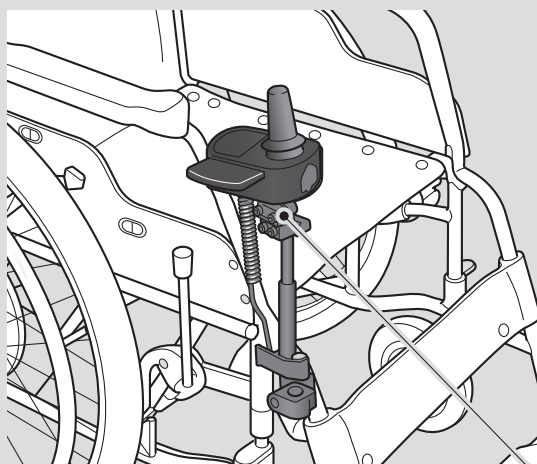


位置や角度を調整できる
部品です。

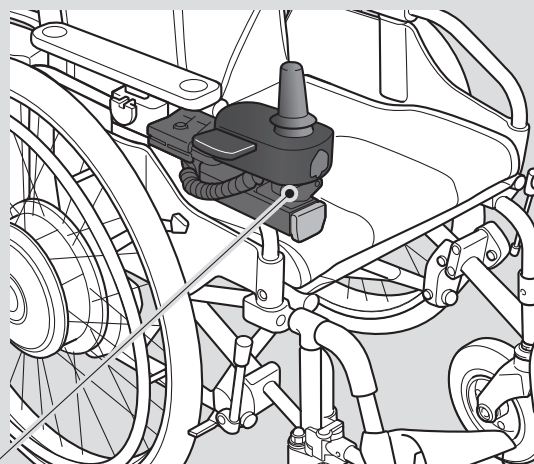


※ 車いすになんらかの不具合が生じた場合には、ブザー音と合わせてエラーコードが表示されます。 **▶P.129** “故障と思ったら”

標準（縦型）ブラケット



スライドブラケット



自走用操作部ブラケット **▶P.39**

電源スイッチ

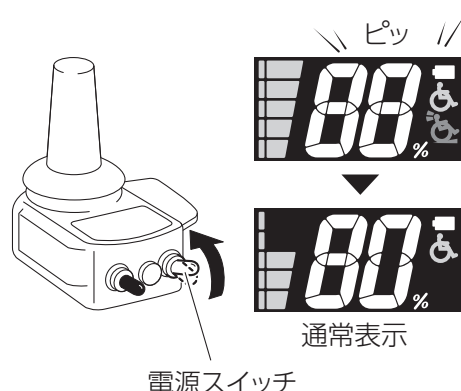
電源スイッチを入れると電動走行ができます。

電源を入れる

スイッチを上げると自走用操作部の電源が入り、液晶画面が点灯します。「ピッ」という操作音が鳴り、液晶画面が通常表示になると、電動走行ができる状態です。

電源を切る

スイッチを下げると自走用操作部の電源が切れ、液晶画面が消灯します。



ジョイスティック

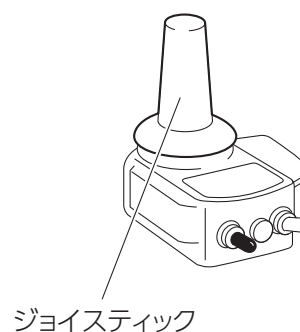
ジョイスティックを操作して車いすを運転します。

車いすの操作

ジョイスティックを傾けた方向に車いすが動き、中央に戻すと車いすが停止します。真横に傾けると旋回します。

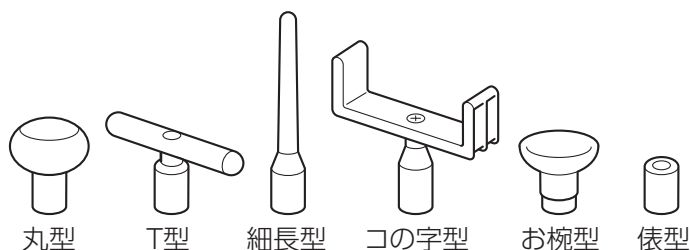
速度の加減

ジョイスティックの傾け具合で速度を加減できます。



ジョイスティックの交換

身体の具合に応じて、さまざまな形状のジョイスティックに交換することができます。(別売) 交換する場合は取扱店にご相談ください。



操作荷重の調整

内部のバネを別売バネと交換することで、身体の具合に応じてジョイスティックの操作荷重（ジョイスティックを動かすのに必要な力）を調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。

- 操作荷重が強い
- 標準（初期設定）
- 操作荷重が弱い
- 操作荷重がさらに弱い

要点

ジョイスティックの形状によっては、使用できるバネに制限があります。

速度切替スイッチ

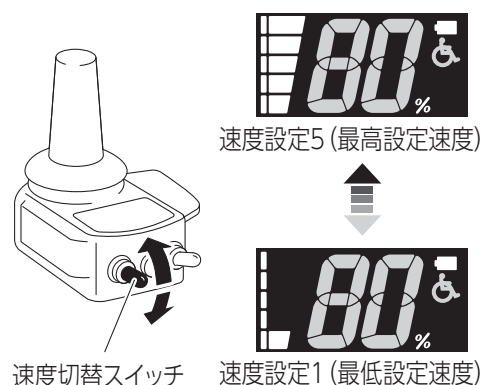
最高速度を5段階に切り替えることができます。

速度を上げる

スイッチを上げると、「ピッ」と操作音が鳴って速度設定が上がります。

速度を下げる

スイッチを下げると、「ピッ」と操作音が鳴って速度設定が下がります。



USB電源ポート

USB電源ポートは500mAまでの給電が可能です。

要点

USB電源ポートに通信機能はありません。

注意

- **USB電源ポートを使用しないときは、ゴムキャップを閉める。**
雨水などが浸入して電子機器を傷め、故障の原因となります。
- **USB電源ポートにUSBコネクタ以外のものを差し込まない。**
USB電源ポートが破損する可能性があります。

いたずら防止機能

ほかの人にジョイスティックを操作されても作動しないようにすることができます。
作業手順は動画でも紹介しております。動画は下記リンクよりご確認ください。

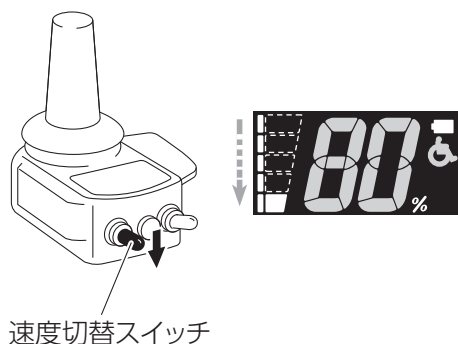
<https://youtu.be/zoGSyCUwjTQ>

※動画は解除方法から設定方法の順で紹介しています。

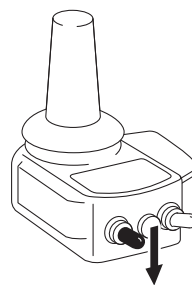


設定のしかた

- 1 電源を入れ、速度設定を1まで下げます。



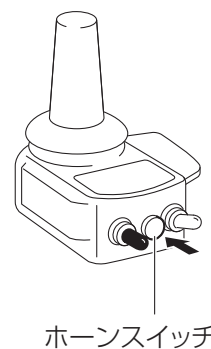
- 2 一度手を放してから、速度切替スイッチを下に長押しします。



- 3 「ピッ」という操作音が鳴ったら、速度切替スイッチから手を離し、すぐにホーンスイッチを長押しします。

要点

ホーンスイッチを長押ししてホーンが鳴った場合、設定ができていません。『手順2』からやりなおしてください。



- 4 もう一度「ピッ」という操作音が鳴って、液晶画面がイラストのような表示に切り替わったら設定完了です。

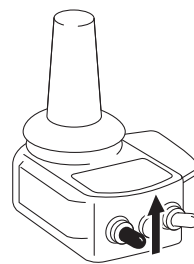
要点

設定完了したあとに電源を入れなおした場合も、いたずら防止機能は設定されたままです。



解除のしかた

- 1 いたずら防止機能が作動している状態で、速度切替スイッチを上長押しします。



- 2 「ピッ」という操作音が鳴ったら、速度切替スイッチから手を離し、すぐにホーンスイッチを長押しします。

要点

ホーンスイッチを長押ししてホーンが鳴った場合、設定解除ができていません。『手順1』からやりなおしてください。

- 3 もう一度「ピッ」という操作音が鳴って、液晶画面が通常表示に切り替わったら解除は完了です。

転倒防止バー警告音解除

転倒防止バー警告音解除を行うことで一時的に警告音を消すことができます。解除には2つの方法があります。

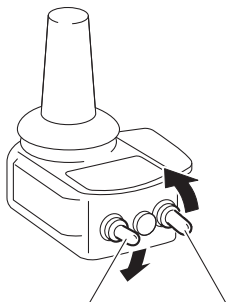


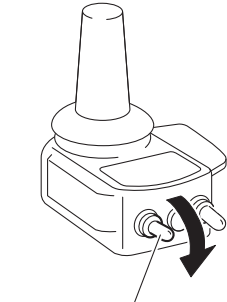


警告音解除を行っても一度電源をOFFにし、再度電源をONにした場合や一度転倒防止バーを出し、再度たたんだ場合は、再び警告音は鳴りますのでご注意ください。

作業手順は動画でも紹介しております。動画は下記リンクよりご確認ください。

https://youtu.be/KngfB3j_F6Q



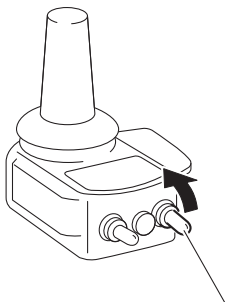


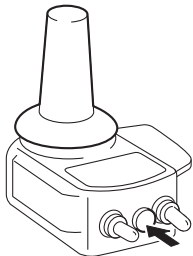


(1) 解除方法 1

操作の目的	操作の方法	この操作時のパラメータの状態、意味
[1] [自走用操作部の操作]	 <p>速度切替スイッチ 電源スイッチ</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 転倒防止バーをたたんだ状態で電源をON、もしくは電源ON状態で、転倒防止バーをたたむと警告音と警告表示が出ます。 ② 電源ON状態のまま、安定した場所に停止し、駐車ブレーキをかけます。 ③ 速度切替スイッチを下げ、最低速にし、一度速度スイッチから手を離します。  <p style="text-align: center;">↓ ↑</p> 
[2] [警告解除の入力]	 <p>速度切替スイッチ</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 速度切替スイッチを下方向に長押しします。 ② ピットブザーが1度鳴り、警告音が解除されるので、速度切替スイッチから手を離します。  <p style="text-align: center;">↓ ↑</p> 

要 点

- 転倒防止バー戻し忘れ時の動作が「お知らせのみ」を選択されている場合（工場出荷設定）の操作になります。
- JW Smart Tuneにて速度スイッチ形状を「プッシュスイッチ」に設定している場合は、解除方法1では転倒防止バー警告音を解除することはできません。
解除方法2にて実施してください。
- 転倒防止バー警告音解除は、ジョイスティックを操作中にはできません。
必ず、停止した状態で行ってください。
- 警告音は停止しますが、警告表示は継続します。
- JW Smart Tuneで転倒防止バー戻し忘れ時の動作が「停止」を選択されている場合、警告表示はされず警告音は鳴りません。

(2) 解除方法 2

操作の目的	操作の方法	この操作時のパラメータの状態、意味
[1] [自走用操作部の操作]	 <p>電源スイッチ</p>	<p>①転倒防止バーをたたんだ状態で電源をON、もしくは電源ON状態で、転倒防止バーをたたむと警告音と警告表示が出ます。</p> <p>②電源ON状態のまま、安定した場所に停止し、駐車ブレーキをかけます。</p>  <p>↓ ↑</p> 
[2] [警告解除の入力]		<p>①ホーンボタンを5秒間長押しします。このときホーンが鳴り続けます。</p> <p>②5秒間の長押し後、ホーンボタンから指を離すと警告音が解除されています。</p>  <p>↓ ↑</p> 

要 点

- 転倒防止バー戻し忘れ時の動作が「お知らせのみ」を選択されている場合（工場出荷設定）の操作になります。
- 転倒防止バー警告音解除は、ジョイスティックを操作中にはできません。
必ず、停止した状態で行ってください。
- 警告音は停止しますが、警告表示は継続します。
- JW Smart Tuneで転倒防止バー戻し忘れ時の動作が「停止」を選択されている場合、警告表示はされず警告音は鳴りません。

自走用操作部ブラケット

お使いのブラケットタイプによって取り扱いが異なります。

標準（縦型）ブラケット： **標準（縦型）**

スライドブラケット： **スライド**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

● 自走用操作部の位置調整

操作しやすい位置や角度に調整することができます。

● 自走用操作部の格納

テーブルや机に近づくときなどに、自走用操作部が妨げになる場合は、自走用操作部を格納することができます。

⚠ 警告

- **電源スイッチを入れたまま、自走用操作部をアンダーホルダーから外さない。**

ジョイスティックが倒れて、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **自走用操作部をアンダーホルダーから外したまま、電源スイッチを入れない。**

ジョイスティックが倒れて、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **自走用操作部をアンダーホルダーから外した状態で、絶対に電動走行をしない。**

正常に車いすを操作できず、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **走行中は、自走用操作部をアンダーホルダーから外さない。**

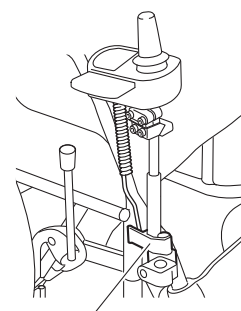
正常に車いすを操作できず、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **走行前に自走用操作部が固定されていることを確認する。**

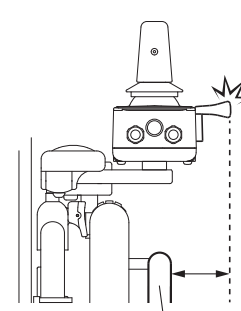
自走操作部が固定されていないと、車いすのコントロールができなくなるため、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **自走用操作部をハンドリムよりも外側に調整した場合は、周囲の人や壁などに注意する。**

人に接触してけがを負わせたり、ものと接触して破損したりする可能性があります。



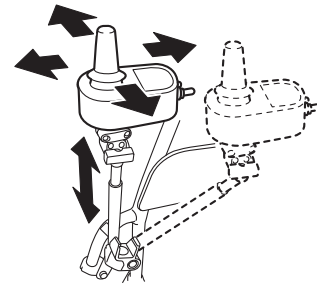
アンダーホルダー



ハンドリム

自走用操作部の位置調整

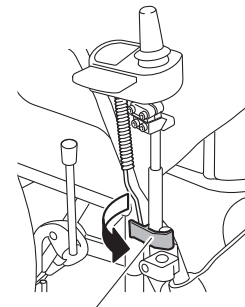
自走用操作部の位置、高さを調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。



格納のしかた・戻しかた

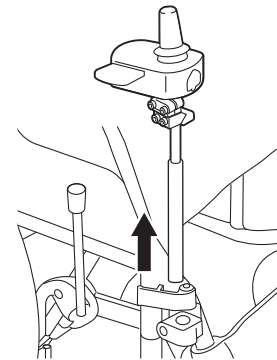
1 電源スイッチが切れていることを確認します。

2 ロックレバーを外します。

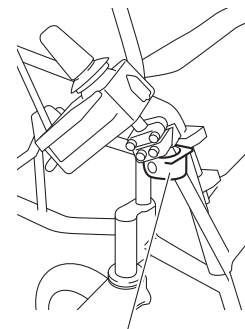


ロックレバー

3 自走用操作部を引き抜きます。



4 下置きホルダーに差し込みます。



下置きホルダー

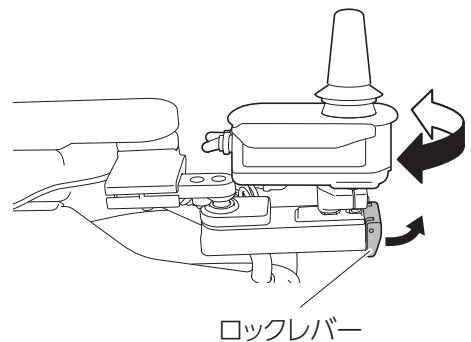
5 元に戻すには、逆の手順で行なってください。

自走用操作部の位置調整

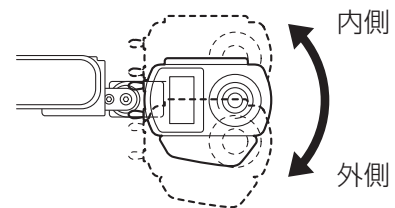
水平位置の調整

自走用操作部の位置をアームサポートに対して水平方向へ、内側、中央、外側の3箇所に調整することができます。

- 1 電源スイッチが切れていることを確認します。
- 2 ロックレバーを引き上げながら、操作部の位置をお好みの位置に調整します。
- 3 ロックレバーを放すと、ロックが合った位置で操作部が固定されます。



ロックレバー



内側

外側

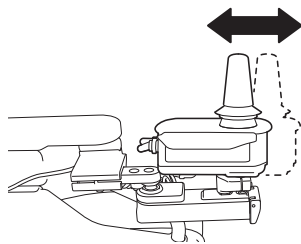
要点

アームサポートの高さや操作部の取付状態によっては、内側の位置で固定しにくくなる場合があります。

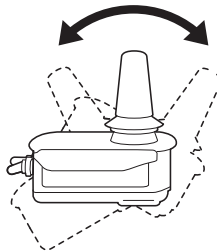
前後位置、傾き、向きの調整

調整する場合は取扱店にご相談ください。

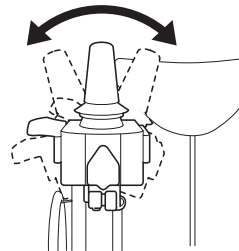
・ 前後位置



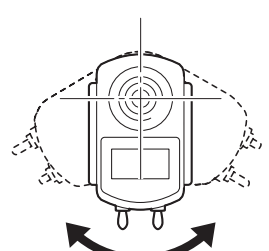
・ 前後の傾き



・ 左右の傾き

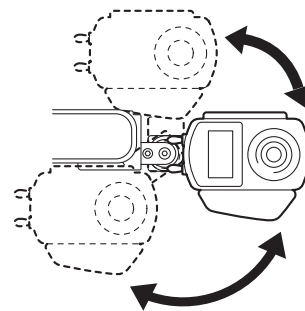
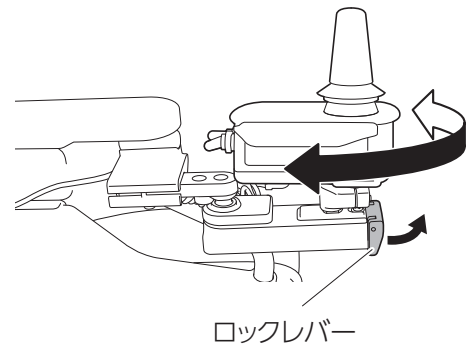


・ 水平方向の向き



格納のしかた

- 1 電源スイッチが切れていることを確認します。
- 2 ロックレバーを引き上げながら、操作部を動かします。
- 3 自走用操作部が固定される位置よりさらに内側、または外側に動かすことができます。

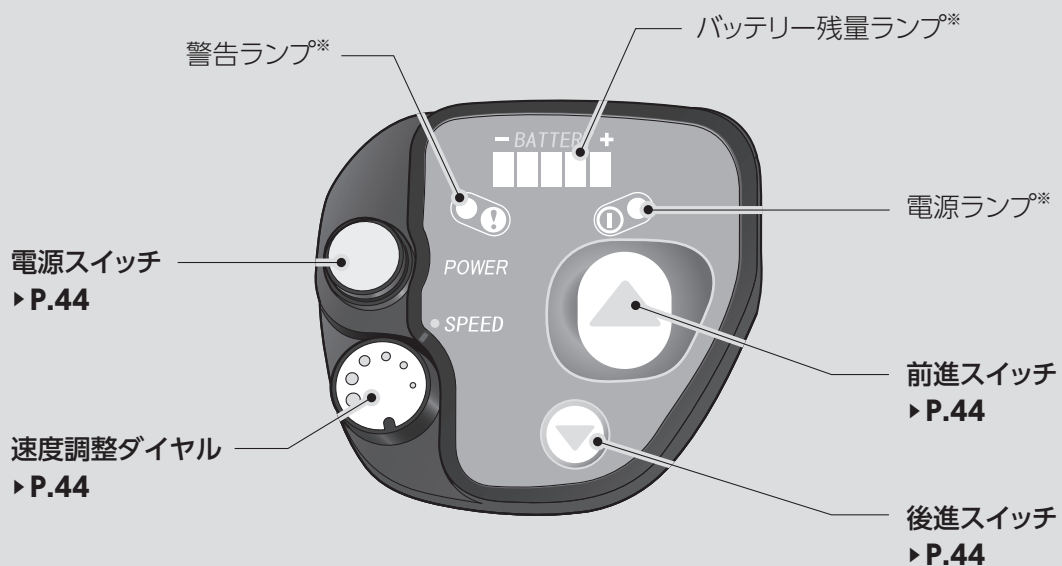


要点

格納位置では自走用操作部は固定されません。

介助用操作部

装備つきの仕様を選択した場合の部品です。

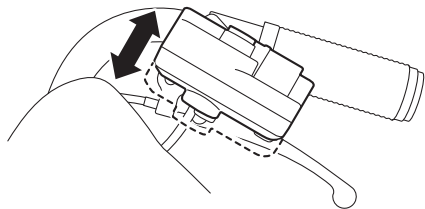


※ 車いすになんらかの不具合が生じた場合には、点灯・点滅・消灯の組み合わせでエラー内容を表示します。 ▶P.129 “故障と思ったら”

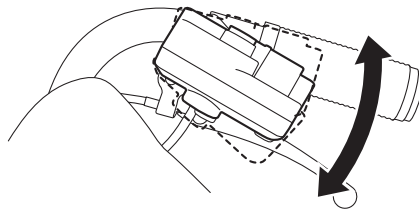
介助用操作部の位置調整

介助用操作部の高さ、角度は調整できます。調整する場合は取扱店にご相談ください。

• 高さ



• 角度



電源スイッチ

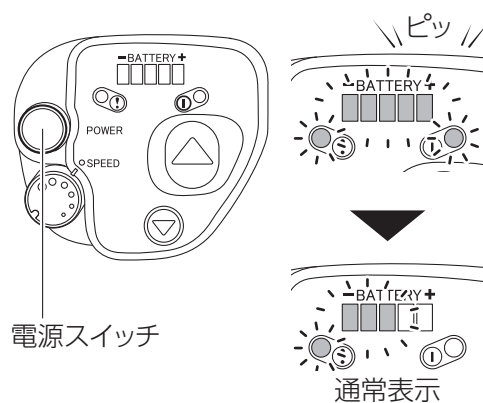
電源スイッチを入れると介助用操作部で電動走行ができます。

電源を入れる

電源スイッチを押すと介助用操作部の電源が入り、各ランプが点灯します。「ピッ」という操作音が鳴り、ランプが通常表示になると、電動で介助操作ができる状態になります。

要点

介助用操作部の電源を入れるより前に自走用操作部の電源が入っていると、介助用操作部の電源ランプが点滅し、操作を受け付けません。



電源を切る

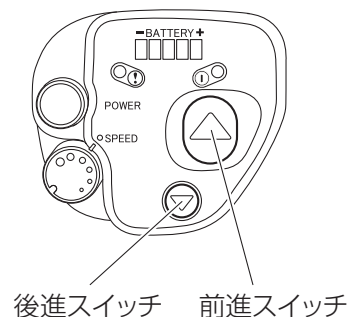
電源スイッチを押すと介助用操作部の電源が切れ、ランプが消灯します。

前進スイッチ、後進スイッチ

スイッチを操作して車いすを運転します。

前進スイッチ

前進スイッチを押している間、車いすが前進します。スイッチを放すと車いすは停止します。



後進スイッチ

後進スイッチを押している間、車いすが後進します。スイッチを放すと車いすは停止します。

要点

進行方向を変えるときは、手押しハンドルで車いすの向きを変えてください。

速度調整ダイヤル

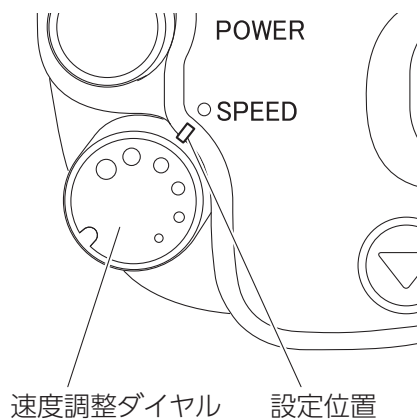
最高速度を無段階で調整することができます。

速度を上げる

ダイヤルを時計回りにまわすと最高速度が上がります。

速度を下げる

ダイヤルを反時計回りにまわすと最高速度が下がります。



3 車いす各部の点検

この章では、車いすを安全に使用するうえで、日常的に点検が必要な項目を説明します。

点検箇所 (12項目)

注意

- ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。

本体ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

OP

装備付きの仕様を選択した場合の部品です。

リヤタイヤ ▶P.47

- 表面のすり減り・亀裂
- 空気圧

ハンドリム ▶P.48

- 変形・キズ
- ガタつき

ホイール、スポーク

▶P.48

- 変形・キズ
- ガタつき
- スポークの破損
- カラーキャップの取り付け状態

駐車ブレーキ ▶P.48

- ガタつき
- 正常な制動

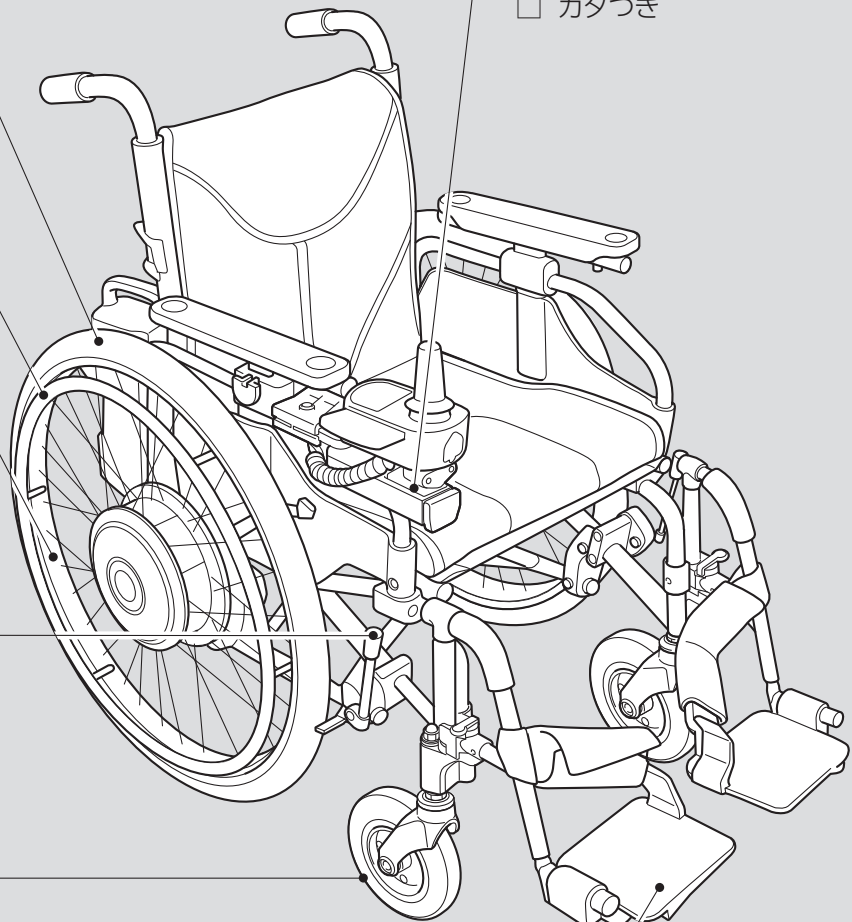
キャスター ▶P.51

- キズ・亀裂
- グラつき
- 表面のすり減り

自走用操作部ブラケット

▶P.49

- ガタつき

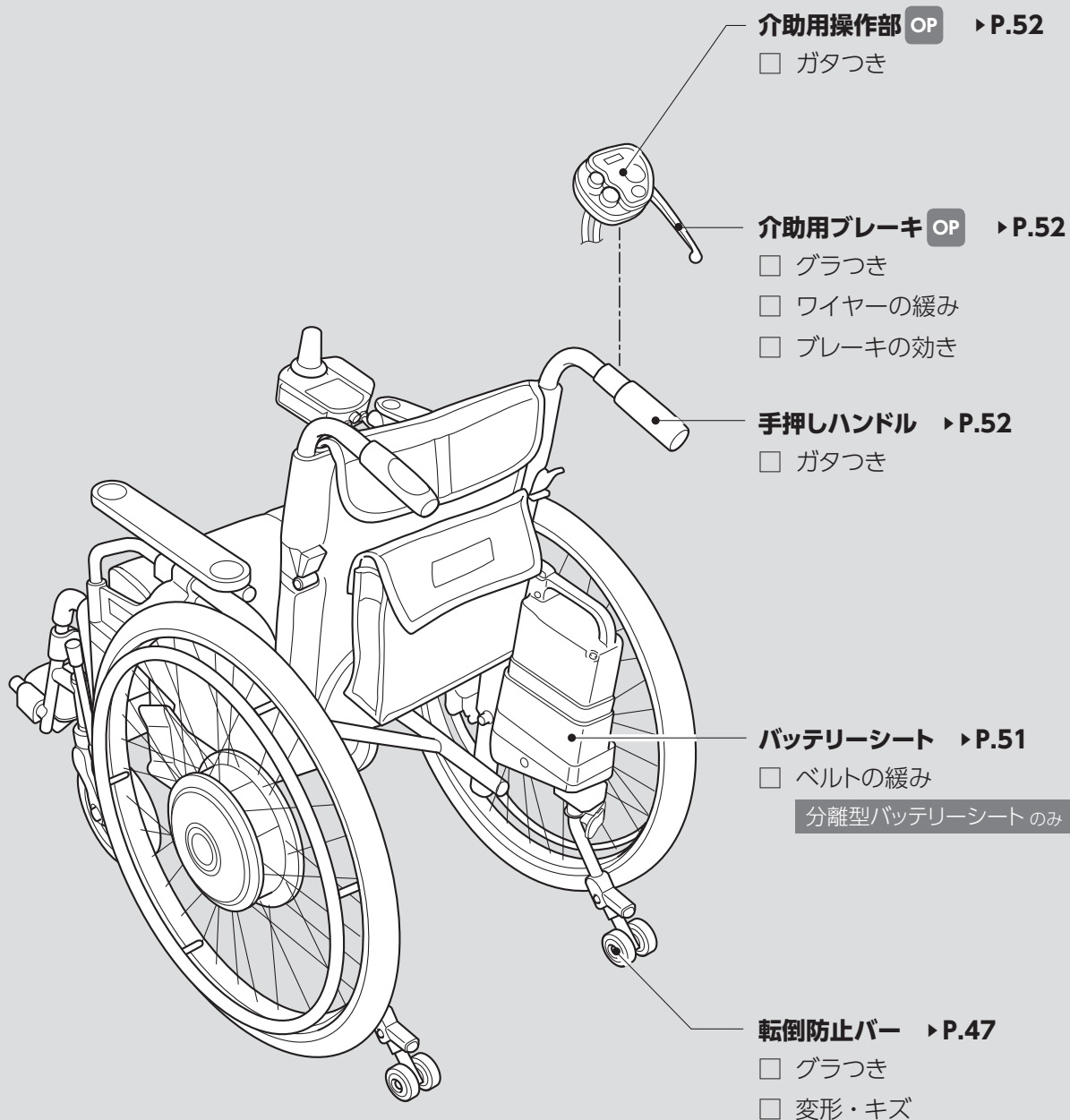


フットサポート ▶P.50

- 地面からの高さ
- キズ・ささくれ

警告

- 車いす本体、キャスターやリヤタイヤに異常がある状態で使用しない。
走行中に車いすが壊れて、車いすが転倒や転落するおそれがあります。

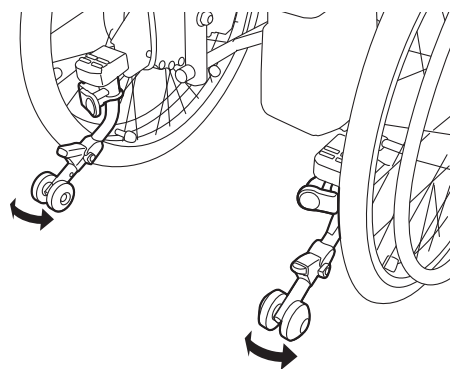


転倒防止バー

● グラつき

外側に出した状態で左右に揺らして、グラつきがなく、きちんとロックされているかを確認します。

ロックされていない場合、バーを左右に振ってください。ロック位置に合うと、「カチッ」と音がしてロックされます。



● 変形・キズ

転倒防止バーに大きなゆがみや傷がないかを確認します。

リヤタイヤ

タイヤサイズによって適正空気圧が異なります。

お使いのタイヤサイズがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

● 表面のすり減り・亀裂

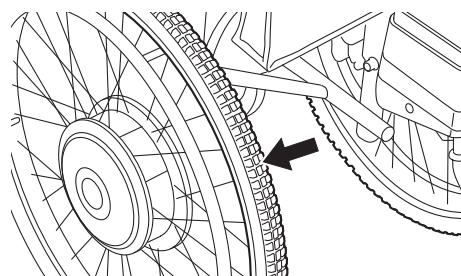
タイヤ表面の溝がすり減っていないかを確認します。

タイヤ表面に亀裂が入っていないかを確認します。

● 空気圧

タイヤを指で押して、空気が十分に入っていることを確認します。

空気圧が十分でない場合、空気入れで空気を補充してください。



要 点

リヤタイヤの適正空気圧は、下記の通りです。

20インチ 420kPa (4.2kg/cm², 60PSI)

22インチ **24インチ** 450kPa (4.5kg/cm², 65PSI)

⚠ 警告

● リヤタイヤの空気圧を確認し、不適正の場合は空気圧を調整する。

空気圧が下がると、駐車ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

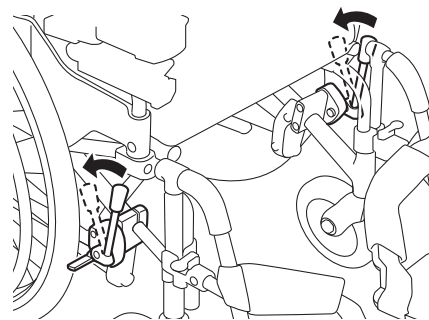
駐車ブレーキ

● ガタつき

駐車ブレーキのレバーにガタつきがないことを確認します。

● 正常な制動

リヤタイヤの空気圧が適切な状態で駐車ブレーキをかけて、リヤタイヤが確実にロックされることを確認します。



ホイール、スポーク

● 変形・キズ

ホイールに変形やキズがないことを確認します。

● ガタつき

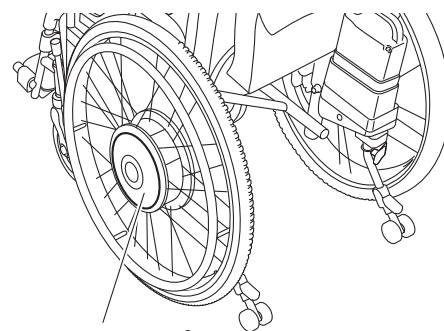
ホイールにガタつきがないことを確認します。

● スポークの破損

スポークが折れていないことを確認します。

● カラーキャップの取り付け状態

カラーキャップが浮いていたり、外れていたりしないことを確認します。



カラーキャップ

ハンドリム

● 変形・キズ

ハンドリムに変形やキズがないことを確認します。

● ガタつき

ハンドリムにガタつきがないことを確認します。

クラッチレバー

● クラッチレバーの取り付け状態

クラッチレバーとフレーム（駐車ブレーキやサイドガードなど）に干渉がなく、スムーズに操作できることを確認します。

● 正常な切り替え

クラッチレバーの操作にしたがい、電動／手動の切替が正しくできていることを確認します。

自走用操作部ブラケット

ブラケットタイプによって点検方法が異なります。

標準（縦型）ブラケット： **標準（縦型）**

スライドブラケット： **スライド**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

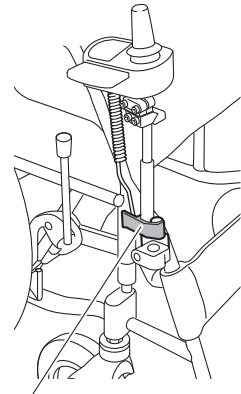
標準（縦型）

● ガタつき

自走用操作部を揺らし、車いすに正しく固定されていることを確認します。

自走用操作部をつかんで引き上げ、ロックレバーで確実にロックされているかを確認します。

きちんとロックされていない場合、一度引き抜いてから差し込みなおして、ロックレバーでロックします。

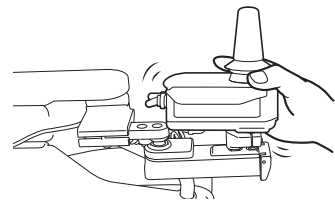


ロックレバー

スライド

● ガタつき

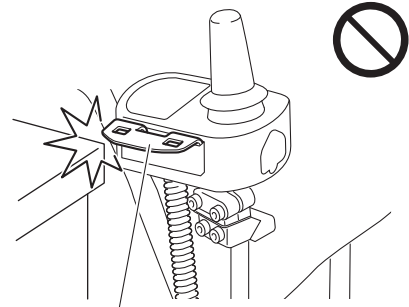
自走用操作部を揺らし、車いすに正しく固定されていることを確認します。



⚠ 警告

● 手のセプレートが露出した状態で使用しない。

障害物などに接触したときに、金属部に傷やささくれが発生して、けがをするおそれがあります。



手のセプレート

フットサポート

車いすのフレームによって点検方法が異なります。

JWアクティブ PLUS+ Pタイプ: **Pタイプ**

JWアクティブ PLUS+ Sタイプ: **Sタイプ**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

◀キズ・ささくれ

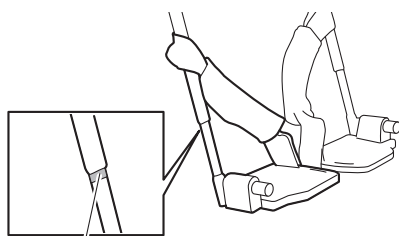
フットサポートの上面と下面に、キズやささくれがないことを確認します。

◀地面からの高さ

フットサポートの一番低い部分が、地面から5cm以上離れていることを確認します。

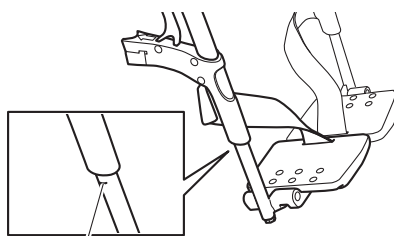
フットサポートパイプに黄色マークまたは調整ラインが見えている状態は、フットサポートの調整位置が低過ぎることを示しています。調整位置が低過ぎる場合は、取扱店にご相談ください。

Pタイプ



黄色マーク

Sタイプ

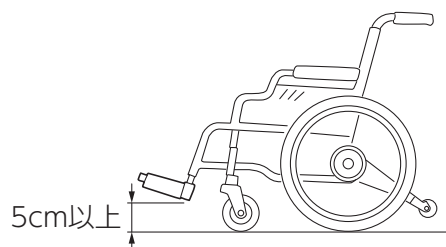


調整ライン

⚠ 警告

- フットサポートの高さは、地面から5cm以上離して使用する。

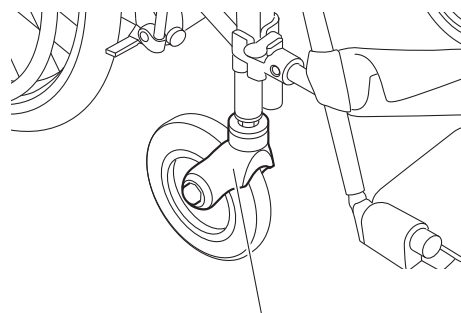
低過ぎると凸凹路面や障害物にフットサポートが当たり、車いすが転倒するおそれがあります。



キャスター

◀ キズ・亀裂

車輪表面に深い傷や亀裂が入っていないことを確認します。
キャスターフォークに亀裂がないことを確認します。



キャスターフォーク

◀ グラつき

キャスター全体にグラつきがないことを確認します。

◀ 表面のすり減り（溝つきのキャスター）

車輪表面の溝がすり減っていないかを確認します。

バッテリーシート

分離型バッテリーシート仕様をお使いの場合は、下記の点検を行なってください。
お使いのタイプがわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

◀ ベルトの緩み

分離型バッテリーシートの固定用ベルトが緩んでいないことを確認します。また、固定用ベルトが転倒防止バー、リヤタイヤ、その他可動部に干渉していないことを確認します。
ベルトが緩んでいる場合、可動部に干渉しないことを確認して締め付けます。

⚠ 警告

● 分離型バッテリーシートの固定用ベルトが緩んでいないことを確認する。

分離型バッテリーシートが脱落したり、緩んだ固定用ベルトがリヤタイヤなどの可動部に巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。

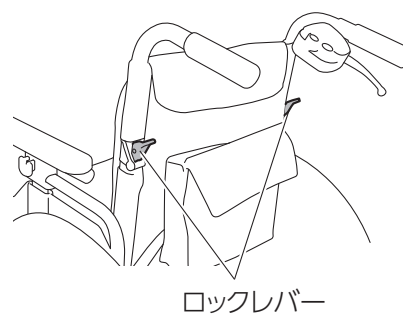
手押しハンドル

◀ ガタつき

手押しハンドルを揺らし、正しくロックされていることを確認します。

ロックレバーが外れていないことを確認します。

ガタつきがある場合、ロックレバーでロックしなおします。



警告

- **手押しハンドルがロックされていることを確認してから運転する。**

ロックされていないと、正しい姿勢を保持することができず、けがをするおそれがあります。

介助用操作部

装備付きの仕様を選択した場合の部品です。

◀ ガタつき

介助用操作部を揺らし、車いすに正しく固定されていることを確認します。

介助用ブレーキ

装備付きの仕様を選択した場合の部品です。

◀ グラつき

ブレーキレバーにグラつきがないことを確認します。

◀ ワイヤーの緩み

ブレーキレバーを握り、不自然な遊びがないかを確認します。

◀ ブレーキの効き

クラッチレバーを手動側にし、ブレーキレバーを握りながら車いすを押して、車いすが動かないことを確認します。

車いすを押しながらブレーキレバーを握ったとき、進行方向が左右どちらかに偏ったりしないかを確認します。

4 車いすの運転

この章では、電動車いすに乗って運転するまでの手順を説明します。電動走行を始めるための流れを理解し、安全に運転してください。具体的な手順と注意すべきことに関しては、次ページ以降をよくお読みください。

十分に充電された
バッテリーを
取り付ける。

▶P.81 “バッテリーと充電器の
取り扱いについて”

車いすに 乗り降りするために

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 電源を切る。
- クラッチレバーは電動側にする。
- 駐車ブレーキをかける。
- 転倒防止バーは外に出す。
- フットサポートを跳ね上げる。

クラッチレバーの役割

クラッチレバーは
電動走行 ⇔ 手動走行の切り替え
を行いません。

▶P.30 “クラッチレバー”

- 車いすを手動で運転するとき以外は電動側にしてお使いください。
- 電動側をしていると、停止中は常に電磁ブレーキが働きます。

電動走行を始める前に

- 車いすにしっかりと座る。
- フットサポートを降ろして足を載せる。
- 自走用操作部は固定されている。
- ジョイスティックはスムーズに動かせる。
- 電源を入れて、液晶が通常画面になる。

電動走行

- 自走用操作部の電源を入れる。
- 駐車ブレーキを解除する。
- ジョイスティックで運転する。

・・・クラッチレバーで切り替え・・・

手動走行

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 駐車ブレーキをかける。
- 自走用操作部の電源を切り、クラッチレバーを手動側に切り替える。
- 駐車ブレーキを解除してハンドリムで運転する。

- クラッチレバーの切り替えは、車いすを停止させてから行なってください。

警告

- **クラッチレバーを手動側にするときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源スイッチを切る。**

不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **傾斜のある場所では、クラッチレバーを手動側に切り替えない。**

不意に車いすが動き出して、衝突や転倒のおそれがあります。

- **車いすが動いているときは、クラッチレバーを操作しない。**

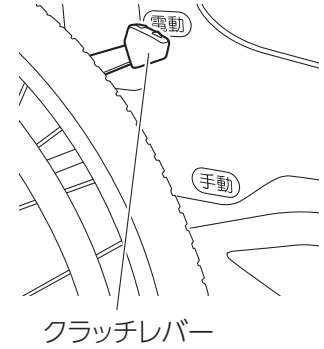
衝突や転倒のおそれがあります。

- **電動走行中に、クラッチレバーを手動側に切り替えない。**

モーターによるブレーキ効果がなくなります。特に坂道では車いすが暴走するおそれがあります。

- **手動走行中に、クラッチレバーを電動側に切り替えない。**

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



車いすに乗り移る準備

車いすが固定されて動かないことを十分に確認してください。

電動走行を始める前に、バッテリーを十分に充電してください。バッテリーの充電量の確認、取り付けかたについては、バッテリーの取り扱いを参照してください。 ▶P.81 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

警告

● **車いすへの乗り移りは、平坦な場所で行なう。**

傾いた場所で車いすに乗り移ると、バランスを崩して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

● **車いすに乗り移るときには、下記のような状態にする。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

- 電源スイッチを切る
- クラッチレバーを電動側にする
- 駐車ブレーキをかける
- 転倒防止バーを外に出して固定する

● **車いすに乗り移るときは、必ず電源スイッチを切ってから乗り移る。**

電源スイッチが入っていると、体がジョイスティックに当たった場合、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

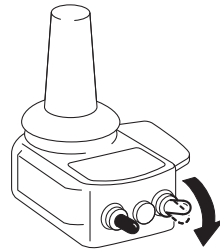
● **転倒防止バーを正しくセットしても、路面の大きな凹み、穴、段差前後の凸凹、傾斜など路面の状態に注意する。また、あらかじめ日常よく使うルート of 安全確認も行なう。**

バランスを崩して、転倒するおそれがあります。

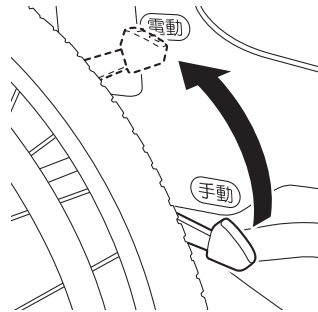
停車のしかた

1 車いすを平坦な場所に置きます。

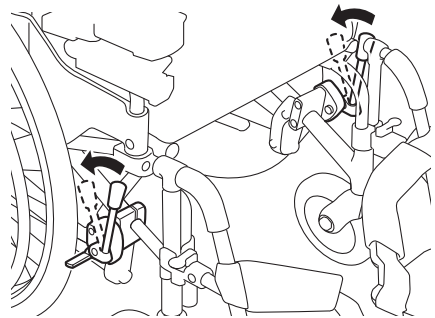
2 電源スイッチを切ります。



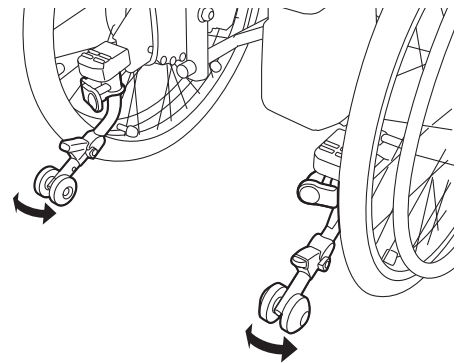
3 クラッチレバーを電動側にします。



4 駐車ブレーキをかけます。



5 転倒防止バーが外に出ている状態で左右に揺らし、確実にロックされていることを確認します。



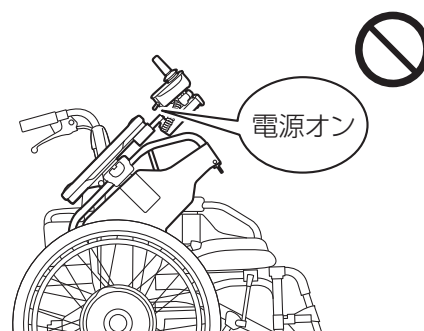
車いすに乗り移る

乗り移る前には、必ずフットサポートを跳ね上げて、足を地面に着けて乗り移ってください。

警告

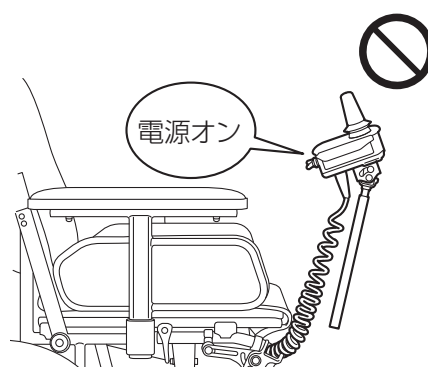
- JWアクティブ PLUS+や跳ね上げ式アームサポート付きのフレームを使用したJWX-1 PLUS+は、下記のことを守る。
 - 電源スイッチを入れたあとにアームサポートを上げない
 - アームサポートを上げた状態で電源スイッチを入れない
 - アームサポートを上げた状態では絶対に走行しない

ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



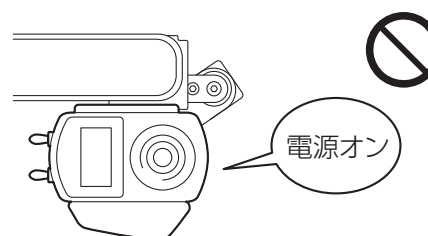
- 自走用操作部の取り付けに標準（縦型）ブラケットを使用したJWX-1 PLUS+は、下記のことを守る。
 - 電源スイッチを入れたあとに自走用操作部をアンダーホルダーから外さない
 - 自走用操作部をアンダーホルダーから外したあとに電源を入れない
 - アンダーホルダーから自走用操作部を外した状態では絶対に走行しない

ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



- JWアクティブ PLUS+や自走用操作部の取り付けにスライドブラケットを使用したJWX-1 PLUS+は、下記のことを守る。
 - 電源スイッチを入れたあとに自走用操作部を格納しない
 - 自走用操作部を格納したあとに電源を入れない
 - 自走用操作部を格納した状態では絶対に走行しない

ジョイスティックが倒れて、車いすが不意に動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



- 走行するときは、フットサポートを跳ね上げた状態にしない。

正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。

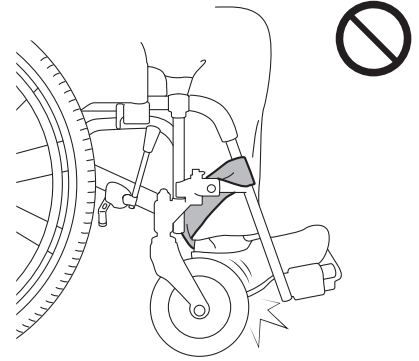
- フットサポートの上に立ったり、乗り降りの際にステップとして使用したりしない。

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。また、フットサポートが破損する原因となります。

警告

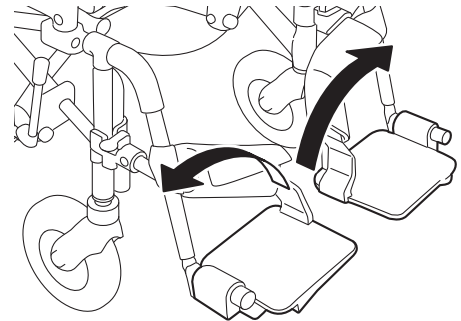
- かかとがフットサポートベルトで適切に保持されるように、取扱店でベルトの張りを調整する。

かかとがキャストと接触して、けがをするおそれがあります。



スペースの確保

- 1 フットサポートを跳ね上げます。

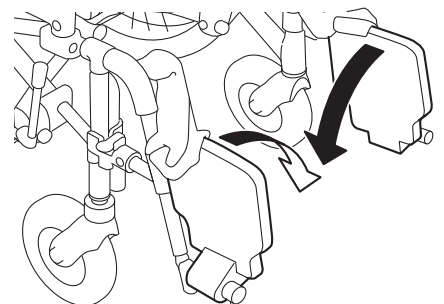


- 2 必要に応じて下記の可動部も動かして、乗り移りがしやすい状態にします。
 - フットレッグサポートを外に開く、取り外す ▶P.26 “フットレッグサポート”
 - 自走用操作部を動かす ▶P.39 “自走用操作部ブラケット”
 - アームサポートを跳ね上げる ▶P.22 “アームサポート”

車いすへの座りかた

- 1 車いすに乗り移り、体が安定するようにしっかり座ります。

- 2 フットサポートを降ろし、フットサポートベルトにかかとが当たるように、しっかりと足を載せます。



- 3 その他の可動部を動かした場合は、元の位置に戻し、確実に固定されていることを確認します。

運転前のチェック

警告

- 走行前に自走用操作部が固定されていることを確認する。

自走操作部が固定されていないと、車いすのコントロールができなくなるため、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

自走用操作部の電源を入れる前に

● 服装の引っかかり

ズボンやスカート、ひざかけなどの裾が、車いすの各部に引っかかったり挟まったりしていませんか。

● ジョイスティック

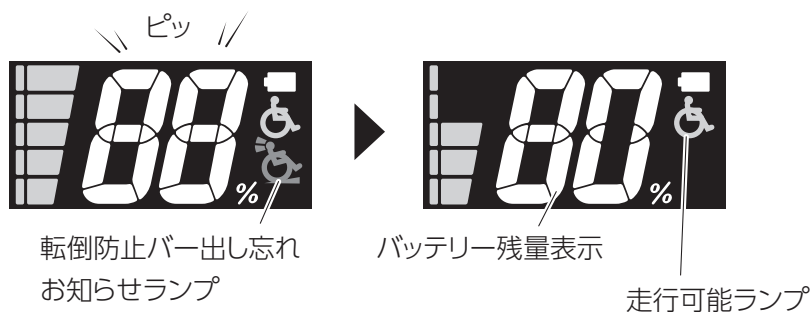
電源を切った状態でジョイスティックを動かして、引っかかりがなくスムーズに動きますか。また、手を放すと中央に戻りますか。

自走用操作部の動作チェック

駐車ブレーキをかけた状態で、自走用操作部の電源を入れます。

● 正常な表示

電源を入れると、一度液晶画面が全て点灯し、「ピッ」という操作音が鳴ります。転倒防止バー出し忘れお知らせランプが消えて、走行可能ランプが点灯状態になれば、電動走行が可能です。バッテリー残量表示は現在のバッテリー残量を数字で表示します。



● こんな表示が出たら

液晶表示

対処方法



一度電源を切り、ジョイスティックから手を放して電源を入れなおしてください。



一度電源を切り、介助用操作部の電源を切ってから、電源を入れなおしてください。



いたずら防止機能を解除してください。 ▶P.34 “いたずら防止機能”

これ以外の表示が出るなどして解決しない場合は、『故障と思ったら』もあわせてご確認ください。

▶P.129 “故障と思ったら”

車いすを運転する

運転前のチェックで問題が無ければ、駐車ブレーキを解除して運転を始めます。

警告

- **バッテリー残量警告ブザーが鳴ったときは、速やかに安全な場所に移動する。**

道路横断などに身動きが取れなくなると、事故の原因となるおそれがあります。安全な場所に移動してから予備バッテリー（別売）に交換するか、バッテリーを充電してください。

- **転倒防止バー出し忘れお知らせブザーが鳴った状態で、単独での走行はしない。**

車いすが転倒するおそれがあります。

- **転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行しない。**

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

- **USB電源ポートにUSB機器を接続したまま走行しない。**

障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力がかかり、自走用操作部が破損するおそれがあります。接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックやクラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。

- **アームサポートを跳ね上げたまま走行しない。**

跳ね上げたまま走行すると、衣服が巻き込まれたり、リヤタイヤに体が触れたりして、ご自身がけがをするおそれがあります。

注意

- **ご自身で解決できない不具合（「故障と思ったら」の対処方法で解決できない故障など）が発生する場合は車いすの使用を止め、販売店に相談する。**

本体ユニットの破損や走行中に車いすが止まるおそれがあります。

ジョイスティックの操作

はじめにジョイスティックを前後左右に少しだけ動かして、車いすが操作通りに動くことを確認してください。

◀ 前進、後進、曲がる

ジョイスティックを前方に傾けると前進し、手前に傾けると後進します。
ジョイスティックを斜めに傾けると前進または後進しながら左右に曲がります。

◀ 旋回

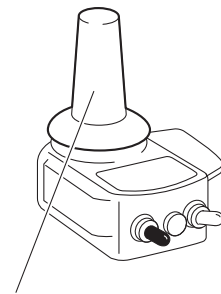
ジョイスティックを真横に傾けると旋回します。

◀ 速度の加減

ジョイスティックの傾け具合で速度を加減できます。

◀ 減速、停止

ジョイスティックを中央に戻すと減速、停止します。
ジョイスティックが中央にある状態では、ブレーキがかかったままになります。



ジョイスティック

要点

速度のでかたや、ジョイスティック操作を反応させやすくする、反応させにくくするなどの調整ができます。

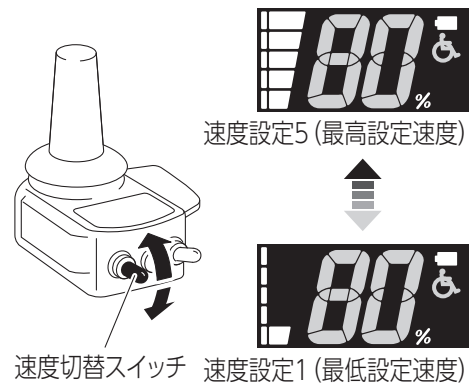
▶P.127 “自走用操作部の設定変更”

最高速度の設定

自走用操作部の液晶画面で、現在の最高速度の設定（ジョイスティックをいっぱいに傾けたときに出る速度）が確認できます。

◀ 速度の設定

速度切替スイッチを上げると速度設定が上がり、下げると速度設定が下がります。



バッテリー残量の確認

自走用操作部の液晶画面で、バッテリー残量の確認ができます。

● バッテリー残量表示

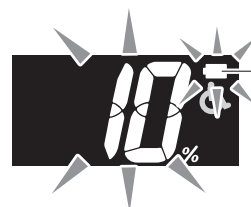
満充電時は右図のように『FL』で表示します。80%から50%までは10%刻み、50%以下は5%刻みでバッテリー残量を表示します。



● バッテリー残量警告

バッテリー残量が10%以下になると、バッテリー警告ランプと残量表示が点滅し、「ピピピピッ」というブザーが4回鳴ります。

\\ ピピピピッ //

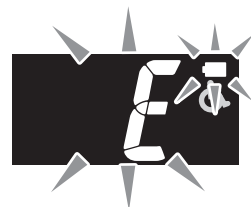


バッテリー警告ランプ

● バッテリー切れ

バッテリー残量がなくなると、バッテリー警告ランプが点滅、残量表示が『E』で点滅し、「ピー」とブザーが長く鳴ってから車いすが停止します。

\\ ピー //



オートパワーオフ機能

電源が入ったままジョイスティックの操作がない状態が10分間続くと、自動的に電源が切れて操作を受け付けなくなります。電源が切れた場合は電源スイッチを一度切り、1秒以上待ってから電源を入れなおしてください。

要点

オートパワーオフ機能は、作動するまでの時間を60分に延長、または作動しないように変更できます。

▶P.127 “自走用操作部の設定変更”

運転の練習

電動車いすを初めてお使いになる場合は、まず平坦な広い場所で基本操作を練習してください。
必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行なってください。

基本操作

(1) 最初に最高速度を低速に設定してから、ジョイスティックの使いかたを覚えましょう。

- 進みたい方向にジョイスティックを倒します。
- ジョイスティックはゆっくり動かしてください。

(2) 最高速度は低速のまま、ジョイスティックの操作感覚を身に着けましょう。

- ゆっくり走るときは、ジョイスティックを浅めに倒します。
- 速く走るときは、ジョイスティックを深めに倒します。
- 減速、停止するには、ジョイスティックを中央に戻します。

(3) 下記のような走りかたを練習しましょう。

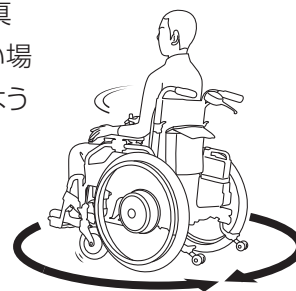
■後進

- 後進時の動きと特性を理解しましょう。
- 後方の安全を確認しましょう。



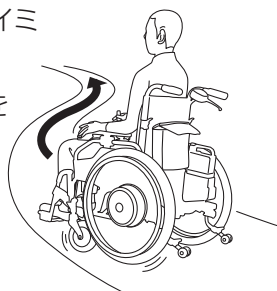
■旋回

- ジョイスティックを真横に倒して、せまい場所でも旋回できるようになりましょう。
- 左右それぞれ回ってみましょう。



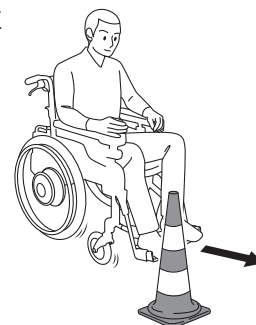
■S字クランク走行

- 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。
- 思いどおりのコースを走れるようになりましょう。



■障害物回避

- 回避動作ができるようになりましょう。
- 障害物にぶつからないように、停止してみましょう。



(4) 最高速度を徐々に上げて、同じ練習をしましょう。



警告

- 介助者がいるときは、後進時にぶつからないように注意する。

介助者がけがをするおそれがあります。

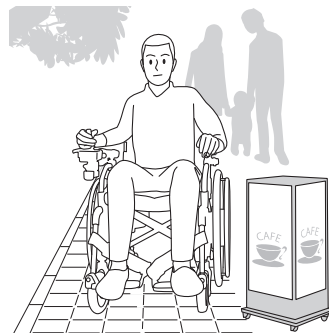
操作に慣れてきたら、実際に電動車いすを使う場所で安全に気をつけながら運転する練習をしましょう。必ず介助者が付き添って安全を確認しながら行ってください。

また、よく使う場所に大きな段差、急な坂道、荒れた路面などがいないか確認し、このような危険な場所を通らないルートを運転するようにしましょう。

運転練習

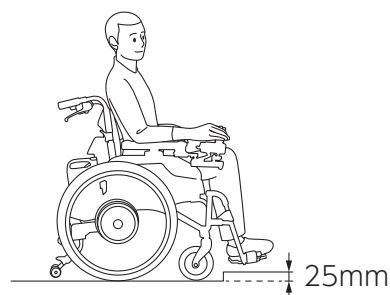
(1) 歩道

- 路面に応じた運転方法を覚えましょう。
- 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。



(2) 段差の上り下り

- 転倒防止バーが出ていることを確認しましょう。
- 段差の高さが25mm以下であることを確認しましょう。(乗り越えられる段差はキャスターの大きさなどで異なります。)
- 段差に対して直角に通過できるように、車いすの向きを変えましょう。
- 段差の手前ではいったん停止し、慎重に進みましょう。
- 低い段差では後ろ向きに乗り越える方法もあります。



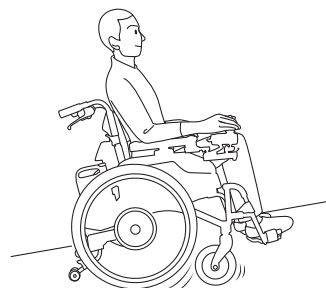
(3) 横断歩道

- 車道と歩道の段差に注意しましょう。
- 横断途中で信号が変わらないように、余裕を持って横断歩道を渡りましょう。



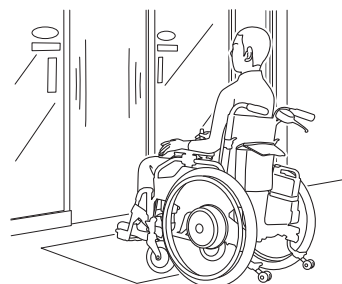
(4) 坂道

- 上り下りの感覚を身に覚えましょう。
- 勾配が10% (6°) 以内であることを確認しましょう。
- 上り坂の途中からの再発進は慎重にしましょう。



(5) 自動ドア

- 停止する位置の感覚を身に覚えましょう。



車いすから降りる

降りるときは必ずフットサポートを跳ね上げて、足を地面に着けて、安全に降りてください。

警告

- **電動走行が終わったら、必ず電源スイッチを切る。**

車いすから降りるときに電源スイッチが入っていると、体がジョイスティックに当たった場合に、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **平坦な場所で車いすから降りる。**

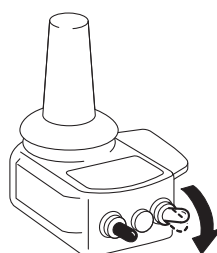
傾いた場所に駐車して車いすから椅子やベッドなどに乗り移ると、バランスを崩して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

- **車いすから椅子やベッドなどに乗り移るときは、必ずクラッチレバーを電動側にして、駐車ブレーキをかける。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

停車のしかた

- 1 | ジョイスティックを操作し、平坦な場所に停めます。
- 2 | 駐車ブレーキをかけ、クラッチレバーが電動側にあることを確認します。
- 3 | 自走用操作部の電源を切ります。



車いすからの降りかた

乗り移るときと同じ手順です。必要に応じてスペースを確保してから安全に降りてください。

▶ P.59 “スペースの確保”

バッテリーの取り外し

車いすから降りたあと、充電が必要な場合や、車いすを長期間使わない場合は、バッテリーを車いすから取り外して充電または保管します。 ▶ P.81 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

5 介助者による運転

この章では、電動で介助操作をするための手順を説明します。介助用操作部、および介助用ブレーキは、装備つきの仕様を選択した場合の部品です。

電動走行を始めるための流れを理解し、安全に運転してください。具体的な手順と注意すべきことに関しては、次ページ以降をよくお読みください。

十分に充電された バッテリーを 取り付ける。

▶P.81 “バッテリーと充電器の
取り扱いについて”

車いすに 乗り降りするために

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 電源を切る。
- クラッチレバーは電動側にする。
- 駐車ブレーキをかける。
- 転倒防止バーは外に出す。
- フットサポートを跳ね上げる。

クラッチレバーの役割

クラッチレバーは

電動走行 ⇔ 手動走行の切り替え

を行ないます。

▶P.30 “クラッチレバー”

- 車いすを手動で運転するとき以外は電動側にしてお使いください。
- 電動側をしていると、停止中は常に電磁ブレーキが働きます。

電動走行を始める前に

- 車いすにしっかりと座ってもらう。
- フットサポートを降ろして足を載せてもらう。
- 乗る人の服装に問題はない。
- 乗る人は車いすの可動部に触れていない。
- 電源を入れてランプが通常表示になる。

電動走行

- 介助用操作部の電源を入れる。
- 駐車ブレーキを解除する。
- **手押しハンドルと介助用操作部で運転する。**

● クラッチレバーで切り替え ●

手動走行

- 平坦な場所に車いすを停める。
- 駐車ブレーキをかける。
- 介助用操作部の電源を切り、クラッチレバーを手動側に切り替える。
- **駐車ブレーキを解除して、手押しハンドルと介助用ブレーキで運転する。**

- クラッチレバーの切り替えは、車いすを停止させてから行なってください。

警告

- **クラッチレバーを手動側にするときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源スイッチを切る。**

不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

- **傾斜のある場所では、クラッチレバーを手動側に切り替えない。**

不意に車いすが動き出して、衝突や転倒のおそれがあります。

- **車いすが動いているときは、クラッチレバーを操作しない。**

衝突や転倒のおそれがあります。

- **電動走行中に、クラッチレバーを手動側に切り替えない。**

モーターによるブレーキ効果がなくなります。特に坂道では車いすが暴走するおそれがあります。

- **手動走行中に、クラッチレバーを電動側に切り替えない。**

リヤタイヤにブレーキがかかり、反動で体が前方に投げ出されたり、ご自身や周囲の人がけがをしたり、車いすが壊れたりするおそれがあります。



車いすへの乗り移りの準備

車いすが固定されて動かないことを十分に確認してください。

電動走行を始める前に、バッテリーを十分に充電してください。バッテリーの充電量の確認、取り付けかたについては、バッテリーの取り扱いを参照してください。 ▶P.81 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”



警告

● **車いすへの乗り移りは、平坦な場所で行なう。**

傾いた場所で車いすに乗り移ると、バランスを崩して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

● **車いすへの乗り移りをするときは、下記のような状態にする。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

- 電源スイッチを切る
- クラッチレバーを電動側にする
- 駐車ブレーキをかける
- 転倒防止バーを外に出して固定する

● **車いすへの乗り移りは、必ず自走用操作部の電源スイッチを切ってから行なう。**

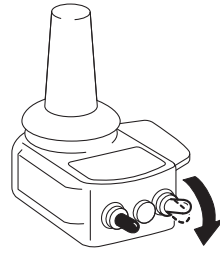
電源スイッチが入っていると、車いすに乗る人の体がジョイスティックに当たった場合、不意に車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

● **転倒防止バーを正しくセットしても、路面の大きな凹み、穴、段差前後の凸凹、傾斜など路面の状態に注意する。また、あらかじめ日常よく使うルート of 安全確認も行なう。**

バランスを崩して、転倒するおそれがあります。

停車のしかた

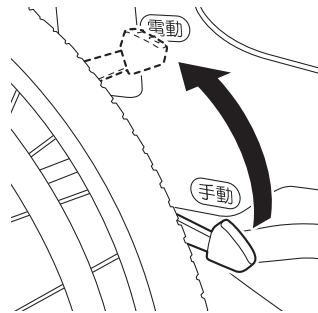
- 1 車いすを平坦な場所に置きます。
- 2 自走用操作部の電源スイッチを切ります。



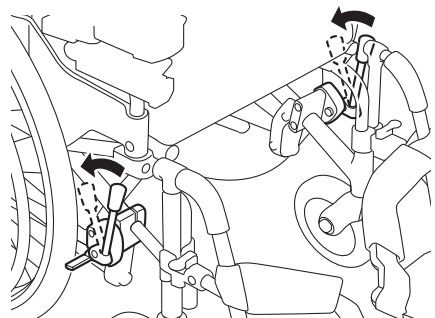
要点

介助用操作部の電源を入れるより前に自走用操作部の電源が入っていると、介助用操作部の電源ランプが点滅し、操作を受け付けません。

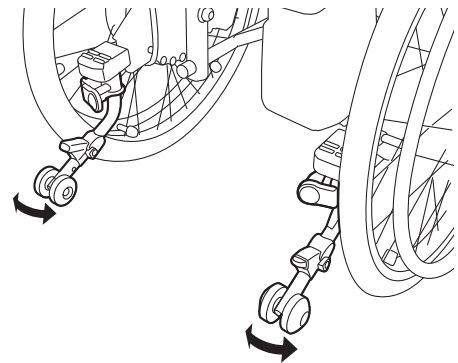
- 3 クラッチレバーを電動側にします。



- 4 駐車ブレーキをかけます。



- 5 転倒防止バーが外に出ている状態で左右に揺らし、確実にロックされていることを確認します。



車いすへの乗り移り

乗り移りの前に、必ずフットサポートを跳ね上げて、足が地面に着くようにしてください。

警告

- 走行するときは、フットサポートを跳ね上げた状態にしない。

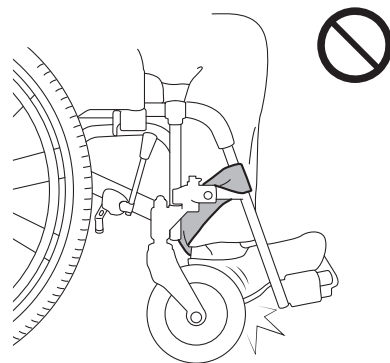
車いすに乗る人が正しい姿勢が保てなかったり、足を巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。

- フットサポートの上に立たせたり、乗り降りの際にステップとして使用させたりしない。

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。また、フットサポートが破損する原因となります。

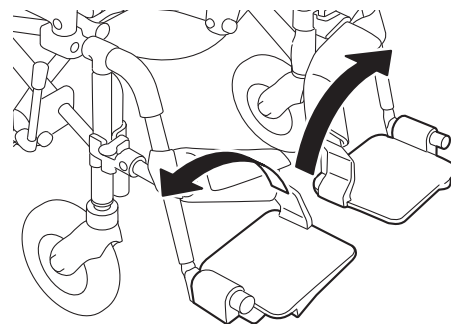
- かかとがフットサポートベルトで適切に保持されるように、取扱店でベルトの張りを調整する。

かかとがキャストと接触して、けがをするおそれがあります。



スペースの確保

- 1 フットサポートを跳ね上げます。



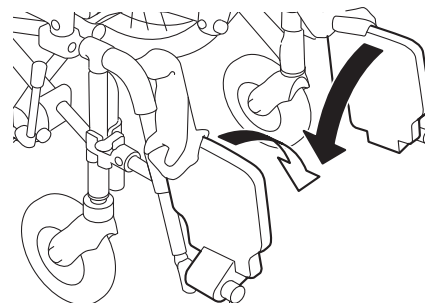
- 2 必要に応じて下記の可動部も動かして、乗り移りがしやすい状態にします。

- フットレッグサポートを外に開く、取り外す ▶P.26 “フットレッグサポート”
- 自走用操作部を動かす ▶P.39 “自走用操作部ブラケット”
- アームサポートを跳ね上げる ▶P.22 “アームサポート”

着座の確認

車いすに乗り移ったら、下記の状態であることを確認します。

- しっかり座り、姿勢が安定している
- フットサポートを降ろして、フットサポートベルトにかかるとが当たるようにしっかりと足を載せている



- その他の可動部を動かした場合は、元の位置に戻して固定されている

運転前のチェック

警告

- 車いすに乗る人の手がリヤタイヤやハンドリムの近くにあるときは、介助操作をしない。
衣服や指が巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

介助用操作部の電源を入れる前に

● 服装の引っかかり

ズボンやスカート、ひざかけなどの裾が、車いすの各部に引っかかったり挟まったりしていませんか。

● 車いすに乗る人の姿勢

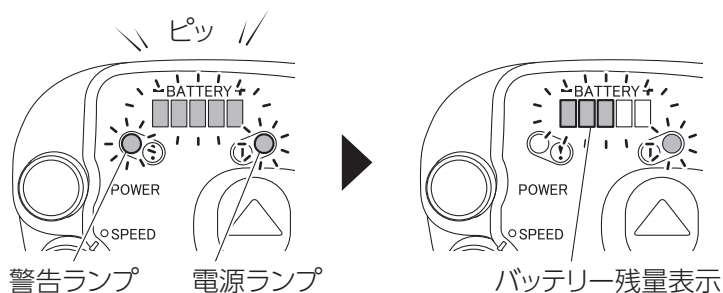
車いすに乗る人はきちんと座っていますか。また、手がリヤタイヤやハンドリムに触れていませんか。

介助用操作部の動作チェック

駐車ブレーキをかけた状態で、介助用操作部の電源を入れます。

● 正常な表示

電源スイッチを押すと、全てのランプが一度点灯し、「ピッ」という操作音が鳴ります。警告ランプが消えて、電源ランプが点灯状態になれば、電動走行が可能です。バッテリー残量表示は現在のバッテリー残量をランプの数で表します。



● こんな表示が出たら

ランプ表示

「ピー」というブザーが鳴り、
電源ランプが点滅している

電源ランプが点滅している

対処方法

一度電源を切り、前進・後進スイッチから手を放して電源を入れなおしてください。

一度電源を切り、自走用操作部の電源を切ってから、電源を入れなおしてください。

これ以外の表示が出るなどして解決しない場合は、『故障と思ったら』もあわせてご確認ください。

▶ P.129 “故障と思ったら”

車いすの運転

動作チェックで問題が無ければ、駐車ブレーキを解除して運転を始めます。

警告

- **バッテリー残量警告ブザーが鳴ったときは、速やかに安全な場所に移動する。**

道路横断中などに身動きが取れなくなると、事故の原因となるおそれがあります。安全な場所に移動してから予備バッテリー（別売）に交換するか、バッテリーを充電してください。

- **転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行しない。**

介助操作で段差を乗り越えるときなどに限って、転倒防止バーを折りたたんだ状態で使用できます。しかし、そのまま転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

- **USB電源ポートにUSB機器を接続したまま走行しない。**

障害物に衝突したときにUSB電源ポートに力が加わり、自走用操作部が破損するおそれがあります。接続したUSB機器のケーブルがジョイスティックやクラッチレバー、リヤタイヤなどに巻きつき、事故の原因となるおそれがあります。

- **アームサポートを跳ね上げたまま走行しない。**

跳ね上げたまま走行すると、車いすに乗る人の体がリヤタイヤに触れたり、衣服が巻き込まれたりして、けがをするおそれがあります。

前進・後進スイッチの操作

はじめに速度を最低に設定し、前進または後進スイッチを短く押して、車いすが操作通りに前進または後進することを確認してください。

◀ 前進、後進

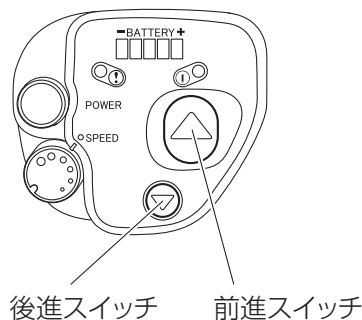
前進スイッチを押している間、車いすが前進します。
後進スイッチを押している間、車いすが後進します。

◀ 方向変換

前進または後進スイッチを押しながら、手押しハンドルで車いすの向きを変えます。

◀ 減速、停止

前進または後進スイッチを放すと減速、停止します。
前進・後進スイッチを押さなければブレーキがかかったままになります。

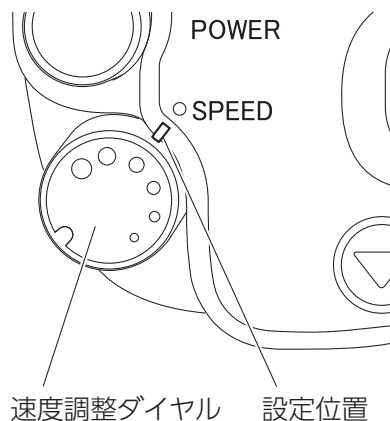


最高速度の設定

はじめは速度を遅めに設定し、運転に慣れてから徐々に速度を調整してください。

● 速度の設定

速度調整ダイヤルを時計回りにまわすと最高速度が上がり、反時計回りにまわすと最高速度が下がります。



バッテリー残量の確認

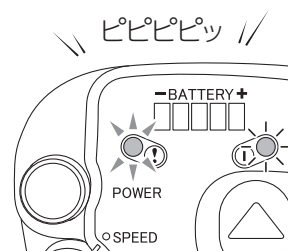
介助用操作部のバッテリー残量ランプで、バッテリー残量の確認ができます。

● バッテリー残量表示

満充電時は5つ点灯します。残量に応じてランプが右から消灯していきます。

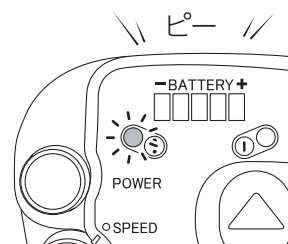
● バッテリー残量警告

バッテリー残量が10%以下になると、バッテリー残量ランプが全て消灯、警告ランプが点滅し、「ピピピピッ」というブザーが4回鳴ります。



● バッテリー切れ

バッテリー残量がなくなると、警告ランプが点灯に変わり、電源ランプが消えて、「ピー」とブザーが長く鳴ってから車いすが停止します。



オートパワーオフ機能

電源が入ったままスイッチの操作がない状態が10分間続くと、自動的に電源が切れて操作を受け付けなくなります。

電源が切れた場合は電源スイッチを一度切り、1秒以上待ってから電源を入れなおしてください。

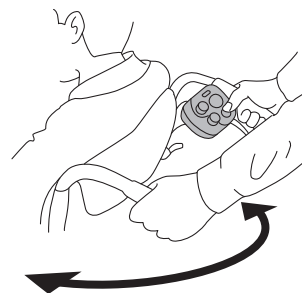
運転の基本

電動車いすを介助者が運転するとき、下記のような場面での基本的な操作を正しく理解して運転してください。

基本操作

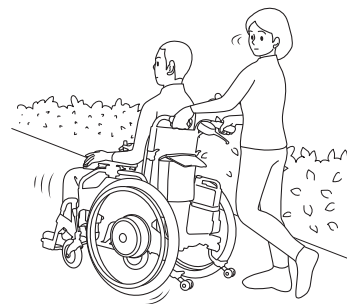
■方向変換、旋回

- 手動走行時、電動走行時ともに手押しハンドルで車いすの向きを変えます。
- 電動走行時は、前進または後進スイッチを押して車いすを進ませながら向きを変えます。



■急な坂道を下るとき

- 前進で下ると前のめりになるおそれがありますので、後進で下ってください。



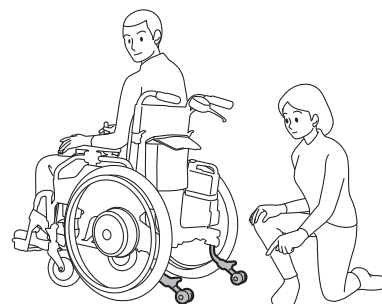
■段差を乗り越えるとき

- 介助用操作部の電源を切り、クラッチレバーを手動側にします。
- 段差に対して直角に通過できるように、車いすの向きを変えます。
- ティッピングプレートを前に押し出すように踏みながら、手押しハンドルを押し下げようとしてキャスターを浮かせて、段差を乗り越えます。



■大きな段差を乗り越えるとき

- 転倒防止バーを折りたたみ、『段差を乗り越えるとき』と同じようにして段差を乗り越えます。
- 段差を乗り越えたあとは、必ず転倒防止バーを元のように外に出してロックしてください。



車いすからの降車

降りてもらう前に、必ずフットサポートを跳ね上げて、足が地面に着くようにしてください。

警告

- **平坦な場所で車いすから降りてもらう。**

傾いた場所に駐車して車いすから椅子やベッドなどに乗り移ると、バランスを崩して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

- **車いすから椅子やベッドなどに乗り移るときは、必ずクラッチレバーを電動側にして、駐車ブレーキをかける。**

不意に車いすが動き出して、車いすから落ちてけがをするおそれがあります。

停車のしかた

- 1 | 車いすを平坦な場所に停めます。
- 2 | 駐車ブレーキをかけ、クラッチレバーが電動側にあることを確認します。
- 3 | 介助用操作部の電源を切ります。

車いすから降りてもらうとき

乗り移るときと同じ手順です。安全に降りられるよう、必要に応じてスペースを確保してください。

▶P.74 “スペースの確保”

バッテリーの取り外し

車いすから降りたあと、充電が必要な場合や、車いすを長期間使わない場合は、バッテリーを車いすから取り外して充電または保管します。 ▶P.81 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

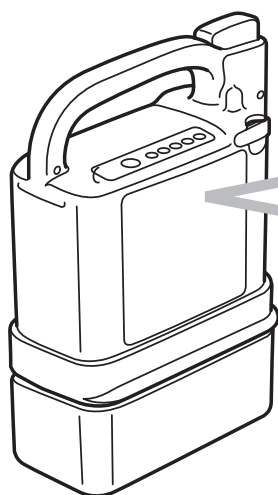
6 バッテリーと充電器の取り扱いについて

バッテリーの種類

バッテリーには次の2種類があります。

- ニッケル水素バッテリー (JWB2)
- リチウムイオンバッテリー (ESB1)

いずれも、マイコン内蔵乾式密閉型 (ドライタイプ) のバッテリーです。それぞれのバッテリーは特性や充電の方法が違いますので、最初にお使いになるバッテリーの種類を確認してください。



バッテリーのラベルを確認してください。

ニッケル水素バッテリーのラベルには
『Ni-MH』と表示されています。

リチウムイオンバッテリーのラベルには
『Li-ion 22』と表示されています。

ニッケル水素バッテリーとリチウムイオンバッテリーには、それぞれ専用の充電器が付属しています。お使いのバッテリーがニッケル水素バッテリーの場合は ▶P.91 “ニッケル水素バッテリー [型式: JWB2]” を、リチウムイオンバッテリーの場合は ▶P.101 “リチウムイオンバッテリー [型式: ESB1]” をお読みください。

要 点

バッテリーは、貴重な再生資源を含むリサイクル可能なバッテリーです。

バッテリーのリサイクルにご協力ください。

ご使用済みのバッテリーは取扱店で回収リサイクルしてください。

バッテリー、充電器の取り扱い

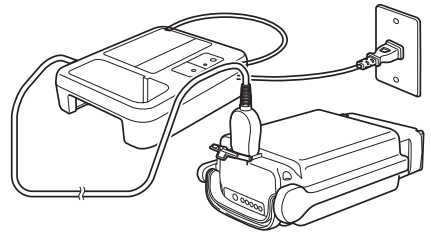
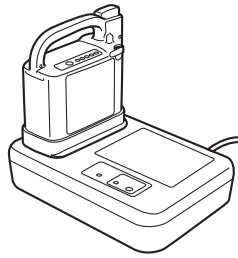
警告

● 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

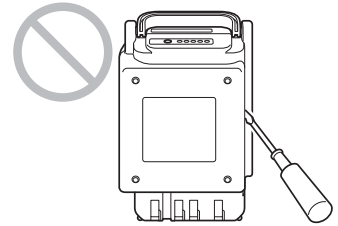
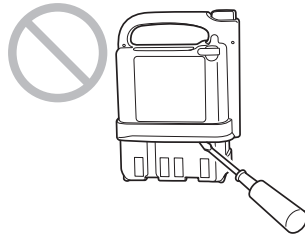
充電器は、身体的、感覚的、または精神的能力が低下している方、または経験および知識の不足した方（お子さまを含む）の使用を意図していません。このような方が使用する場合には、その安全に責任を持てる方が充電器の使用に関する監督または指示を行うことが条件となります。お子さまが充電器で遊ぶことのないよう、監督してください。

バッテリーまたは充電器の金属端子に指で直接触れたり、濡れたタオルで端子を清掃したりしないでください。感電やショートの原因になります。

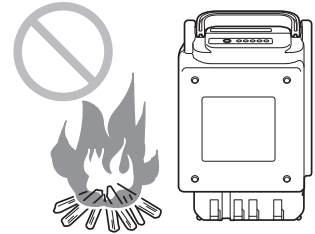
バッテリーを専用充電器以外のもの
で充電したり、指定の車いす
以外のものに使ったりしないで
ください。



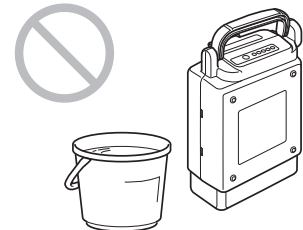
バッテリーの分解や改造をしない
でください。



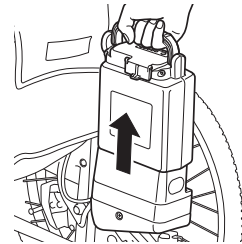
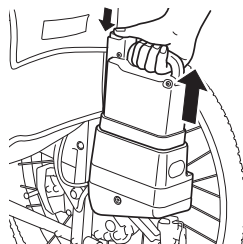
バッテリーを火に近づけたり火の
中に入れたりしないでください。



バッテリーを水に入れたり、バッ
テリーに水をかけたりしないで
ください。



車いすを自動車などで運ぶとき
には車いすからバッテリーを外し
てください。



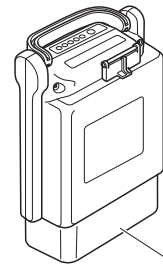
警告

● 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

バッテリーの端子を針金などでショートさせないでください。バッテリーを使わないときには、保護キャップをつけてください。

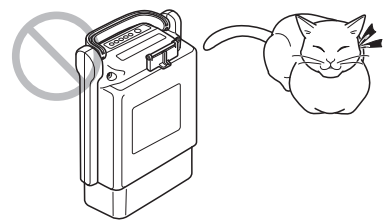
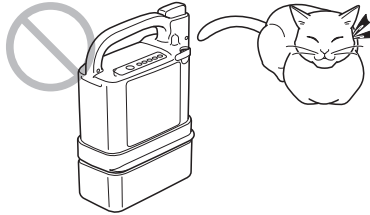


保護キャップ

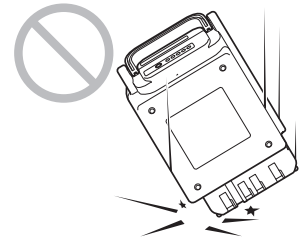
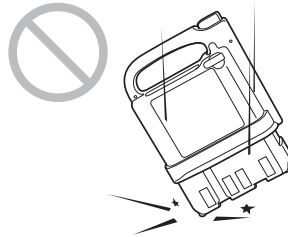


保護キャップ

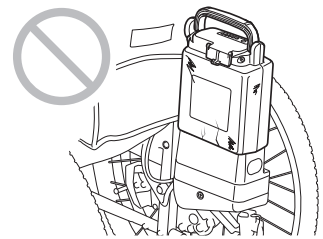
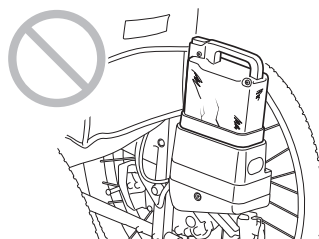
バッテリーは幼児やペットが近づくとくところ保管しないでください。



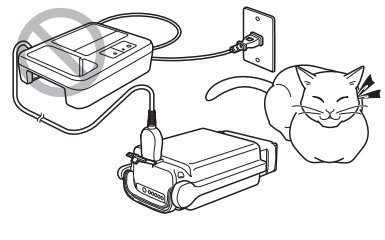
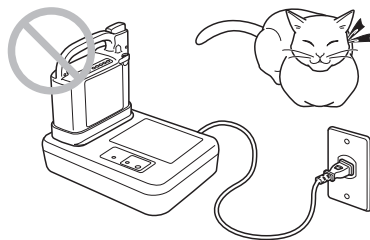
バッテリーを落としたり、衝撃を与えないでください。



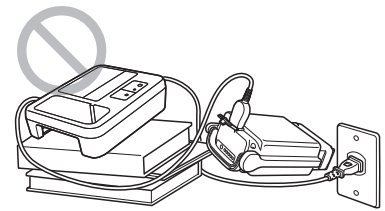
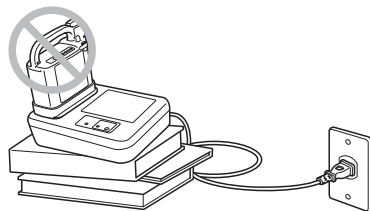
壊れたり傷んだバッテリーは使用しないでください。



幼児やペットが近づくとくところではバッテリーの充電をしないでください。



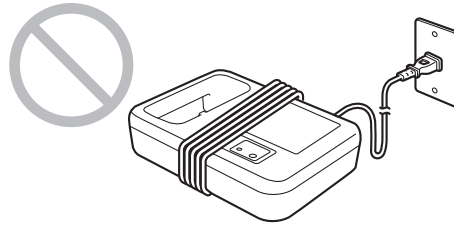
充電器は平坦な場所で使用し、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。



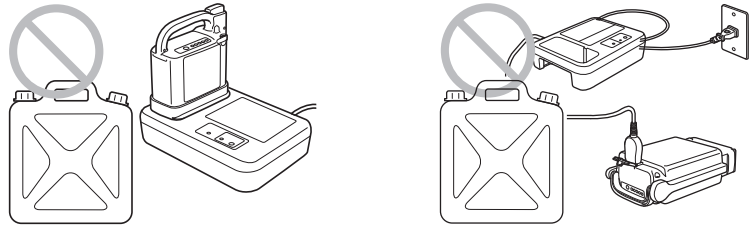
警告

● 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

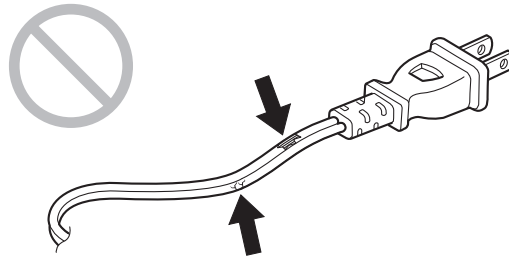
電源コードや充電コードを充電器に巻き付けた状態で充電しないでください。



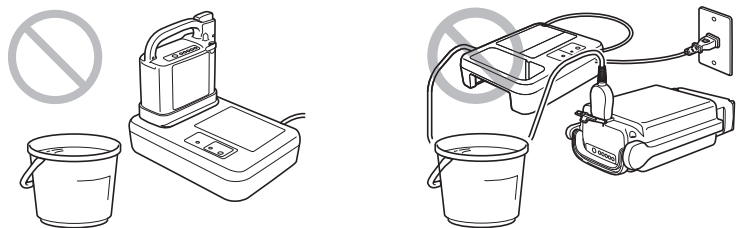
屋外や燃えやすいものの近くで充電器を使わないでください。



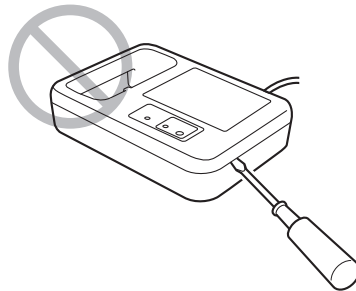
傷んだコードは使用しないでください。
また、埃や汚れ、オイル、水分等が付着した電源コードおよび充電プラグは使用しないでください。



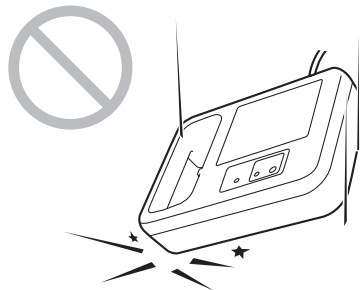
充電器を水に入れたり、充電器に水をかけたりしないでください。



充電器の分解・改造をしないでください。



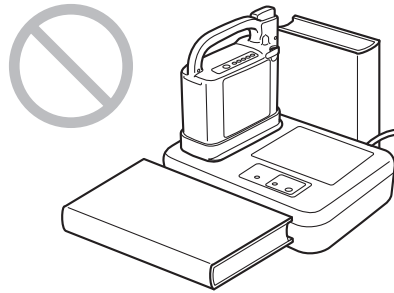
充電器を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。



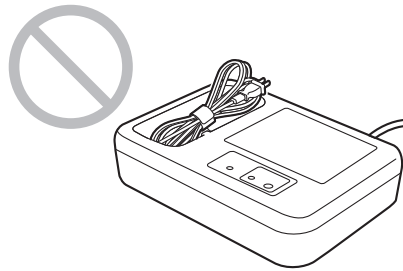
警告

- 間違った取扱いをすると、発熱・破裂や感電、ケガの原因になります。必ず下記事項をお守りください。

充電中は充電器の周りに物を置かないでください。
放熱のためのスペースを確保してください。



ニッケル水素バッテリー差込口にコード等、物を入れないでください。



バッテリーや充電器が変形していたり、いつもはしない臭いがするなど、今までとは異なることに気がついた時にはバッテリーや充電器を使わないで、取扱店に連絡してください。

リチウムイオンバッテリーの着脱時にグリップで指を挟まないように注意してください。指をけがするおそれがあります。

肌に長時間触れさせないでください。

充電中にバッテリー、充電器が熱くなります。そのため、肌に長時間接触していると肌が低温ヤケドする可能性があります。

バッテリーの着脱

警告

- リチウムイオンバッテリーを着脱するときに、バッテリーのグリップで指を挟まない。
指をけがするおそれがあります。
- 車いす側の差し込み口の中が汚れていたり、濡れていたりする状態でバッテリーを差し込まない。
短絡（ショート）するおそれがあり、発熱、発火、感電の原因となります。

注意

- 電源スイッチを入れた状態で、バッテリーを交換しない。
接点部の破損や車いすの故障の原因となるおそれがあります。

バッテリーの取り付けかた

バッテリーシートのタイプ、およびバッテリーの種類によって取り扱いが異なります。

一体型バッテリーシート： **一体型**

ニッケル水素バッテリー： **ニッケル**

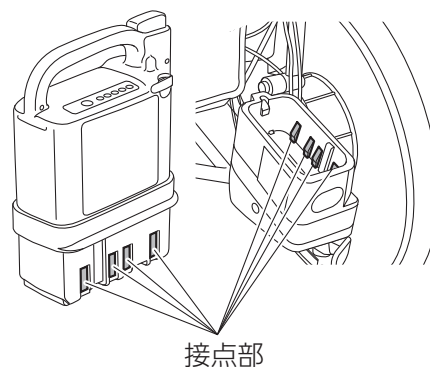
分離型バッテリーシート： **分離型**

リチウムイオンバッテリー： **リチウム**

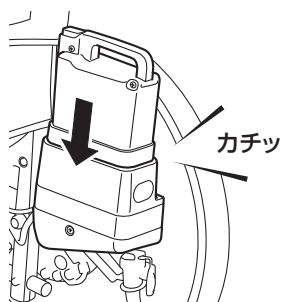
お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

一体型

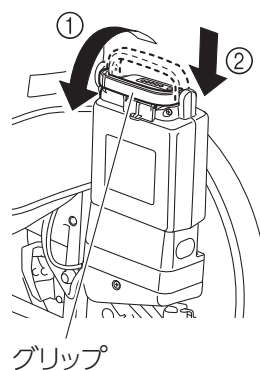
- 1 車いすの電源スイッチが切れていることを確認します。
- 2 バッテリーとバッテリーシートが濡れていないか、接点部が汚れていないかを確認します。
水濡れや汚れがある場合は、乾いた布でふき取ってください。



- 3 **ニッケル**
「カチッ」と音がするまでバッテリーを差し込みます。

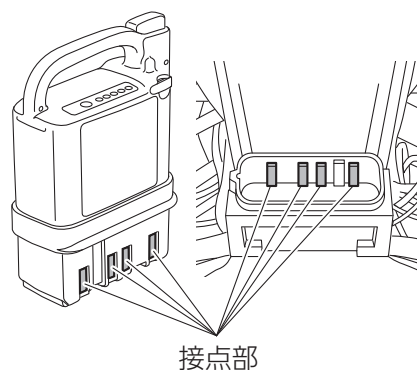


- リチウム**
バッテリーを差し込んでからグリップを倒し、上から押し込みます。

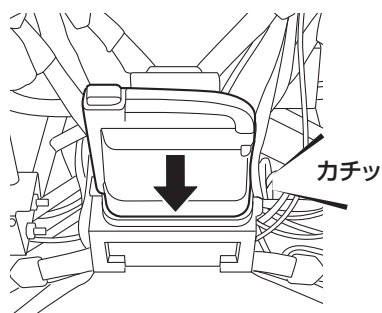


1 車いすの電源スイッチが切れていることを確認します。

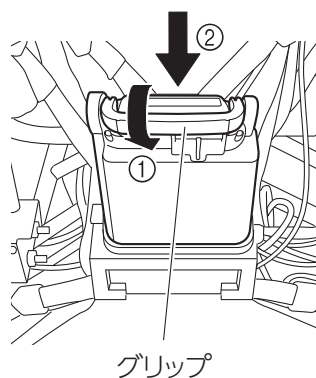
2 バッテリーとバッテリーシートが濡れていないか、接点部が汚れていないかを確認します。
水濡れや汚れがある場合は、乾いた布でふき取ってください。



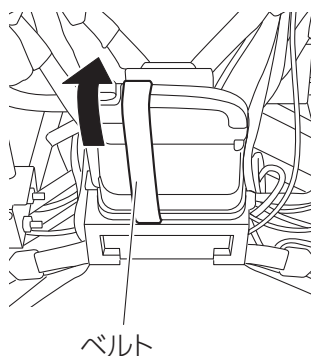
3 **ニッケル**
「カチッ」と音がするまでバッテリーを差し込みます。



リチウム
バッテリーを差し込んでからグリップを倒し、上から押し込みます。



4 ベルトで固定します。



バッテリーの取り外しかた

バッテリーシートのタイプ、およびバッテリーの種類によって取り扱いが異なります。

一体型バッテリーシート： **一体型**

ニッケル水素バッテリー： **ニッケル**

分離型バッテリーシート： **分離型**

リチウムイオンバッテリー： **リチウム**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

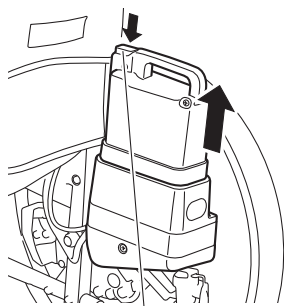
一体型

1 車いすの電源スイッチが切れていることを確認します。

2

ニッケル

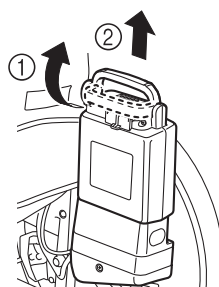
リリースボタンを押しながら、まっすぐ上に引き抜きます。斜めに引き抜かないでください。



リリースボタン

リチウム

グリップを立て、まっすぐ上に引き抜きます。斜めに引き抜かないでください。



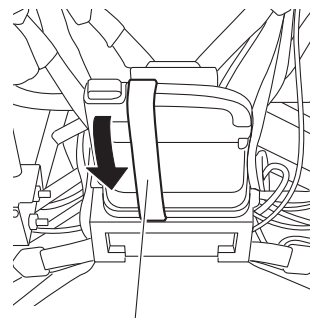
3

バッテリーに保護キャップを取り付けて保管します。

分離型

1 車いすの電源スイッチが切れていることを確認します。

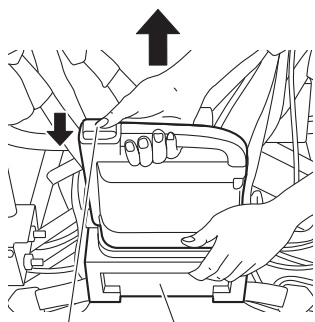
2 バッテリーを固定しているベルトを取り外します。



ベルト

3 ニッケル

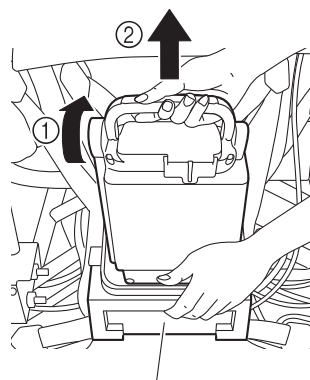
リリースボタンを押しながら、バッテリーシートに手を添えてまっすぐ引き抜きます。斜めに引き抜かないでください。



リリース ボタン バッテリー シート

リチウム

グリップを立て、バッテリーシートに手を添えてまっすぐ引き抜きます。斜めに引き抜かないでください。



バッテリーシート

4 バッテリーに保護キャップを取り付けて保管します。

6

バッテリーと充電器の取り扱いについて

ニッケル水素バッテリー〔型式：JWB2〕

特長

- バッテリーマネジメントコントロールシステム（BMC）を内蔵しています。（マイコン内蔵型）これは充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムです。
- 水銀・カドミウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。
- コンパクトで大容量です。（容量 24V×6.7Ah）
- 車いすで坂道を下ると内部モーターが発電を行い、充電作用が働きます。

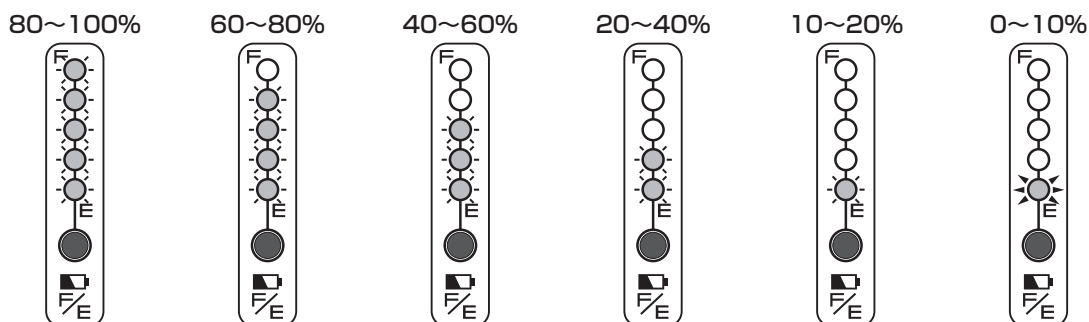
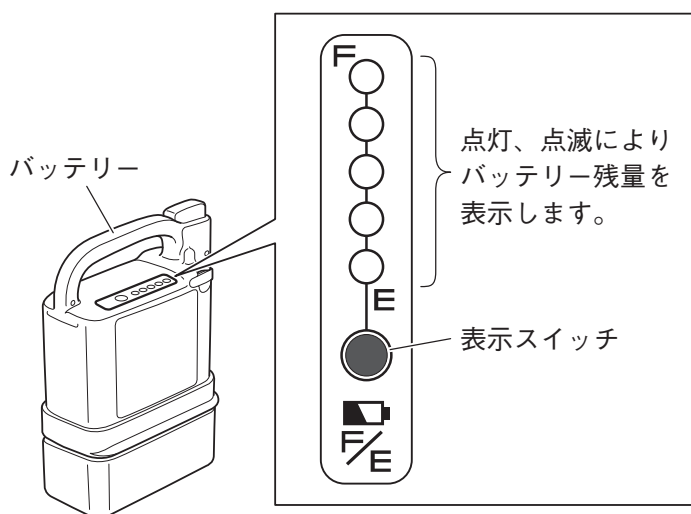
使い方

● 車いすへの取り付け、取り外し方法

ニッケル水素バッテリーの車いすへの取り付け、取り外し方法は ▶P.89 “バッテリーの取り外しかた” をご覧ください。

● バッテリー残量の確認方法

表示スイッチを押すとバッテリー残量が表示されます。



○：消灯

⦿：点灯

⦿：点滅

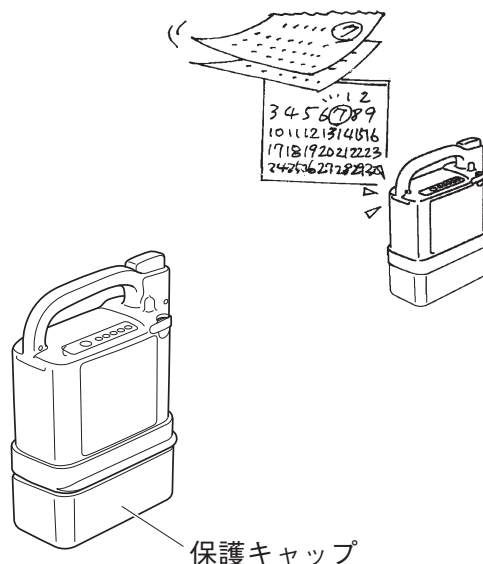
● バッテリーの保管方法

バッテリーを保管するときには、涼しくて乾燥した場所を選んで保管してください。(保管には気温が10℃～25℃の場所が適しています。)

長期間(30日以上)使用しないときは、バッテリーを満充電(容量いっぱいまで充電)して保管してください。

使用しないで3ヶ月以上保管をされる場合は、3ヶ月おきに満充電してください。

バッテリーを保管するときには、必ず保護キャップを取り付けてください。



特性と取り扱いについて

● 温度環境

温度環境によっては、走行できる距離が短くなる場合があります。

バッテリーの性能を生かして使うために、次のような条件で使うことをお奨めします。

車いすに取り付けて使うとき	: 気温が0℃から35℃の範囲
車いすから取り外して保管しておくとき	: 気温が10℃から25℃の範囲
充電するとき	: 気温が10℃から25℃の範囲

- 気温が高すぎたり、低すぎる場所でバッテリーを保管すると、劣化が早く進み、容量が早く減ってしまいます。
- 気温が低すぎる場所で車いすを使い続けると、容量が早く減ってしまいます。劣化については ▶P.93 “バッテリーの劣化について” をご覧ください。



車いすの運転中、ニッケル水素バッテリーの内部温度が低過ぎる状態になると、自走用操作部の液晶表示が警告画面に変わり、ブザーが鳴ります。

気温が氷点下になるような場所でバッテリーを保管しないでください。

● 内部温度異常の警告

バッテリー内部温度が0℃以下の状態が5秒間以上続くと、液晶画面に『C9』の表示が点滅し、「ピッピッ…」という連続音が繰り返されます。



● メモリー効果とリフレッシュ充電

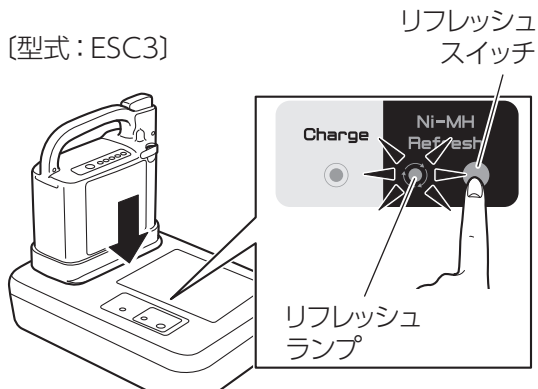
ニッケル水素バッテリーは、少しだけ使って充電するといった使い方を繰り返すと、実際に使える容量が減少する現象（メモリー効果）が発生します。

メモリー効果は、リフレッシュ充電（バッテリーに残っている電気を全て放電してから充電すること）で予防および解消ができます。

リフレッシュ充電が必要になると、バッテリーの中のマイコンが充電器に情報を送り、充電器のリフレッシュランプを点滅させます。

充電しようとしてバッテリーを充電器に差し込んだときに、充電器のリフレッシュランプが点滅した場合は、リフレッシュスイッチを押してリフレッシュ充電を実施してください。

リフレッシュ充電には、通常の充電に比べて長い時間が必要です。



リフレッシュ充電の詳細は ▶P.97 “リフレッシュ充電の方法” を参照してください。

● バッテリーの劣化について

バッテリーは消耗品です。バッテリーは、使うことによって、また時間が経過することによっても徐々に劣化し、容量が減少します。

劣化によって容量が減少する割合は、使い方によって異なります。

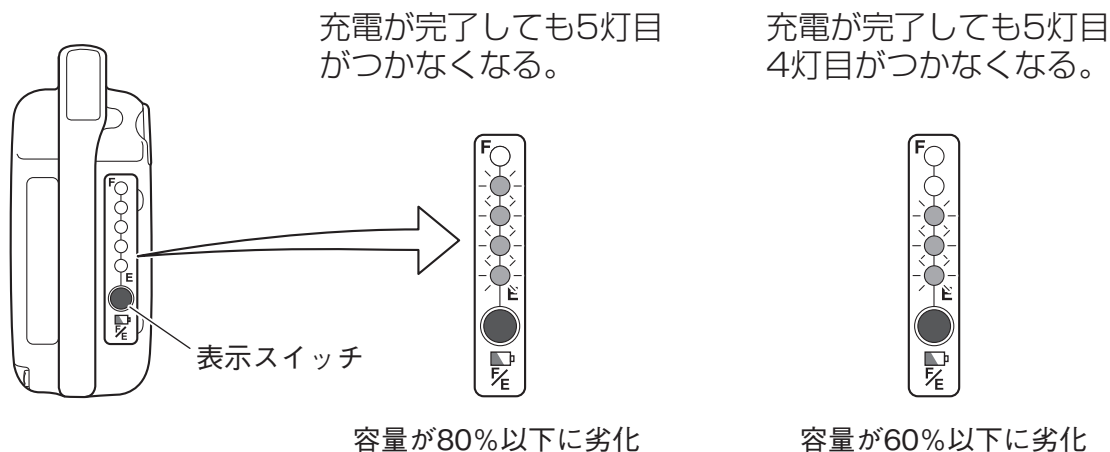
要 点

ニッケル水素バッテリーの劣化によって容量が減少する割合は、満充電から警告ランプが点滅するまで使ったと仮定した場合、充放電回数300回で新品時容量の約60%に減少します。

バッテリーの容量は、未使用であっても長期間保存した場合には減少します。

複数のバッテリーを使用の際は、交互にお使いください。

ニッケル水素バッテリーの劣化の割合は充電が終わったときに、表示スイッチを押すことで確認することができます。（絶対表示）



ニッケル水素バッテリー（JWB2）の充電方法

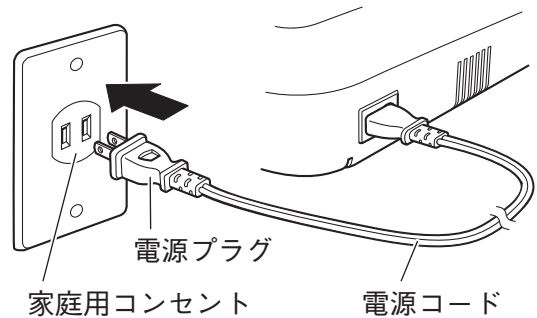
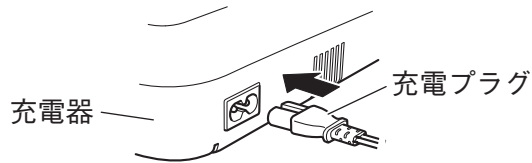
● 充電時間

充電時間：2.5 ～ 3時間（バッテリーを空の状態から充電する場合）

リフレッシュ充電時間：3 ～ 19時間（実際の時間はバッテリーの残量によって変わります）

● 充電の仕方

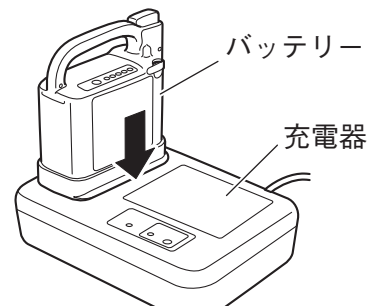
- 1 充電プラグを充電器に差し込み、電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。



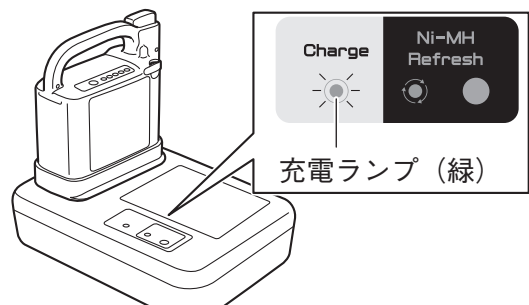
- 2 バッテリーを充電器に図のように差込んでください。

要点

バッテリー挿入後、充電ランプが点灯するまでに5秒程度かかります。



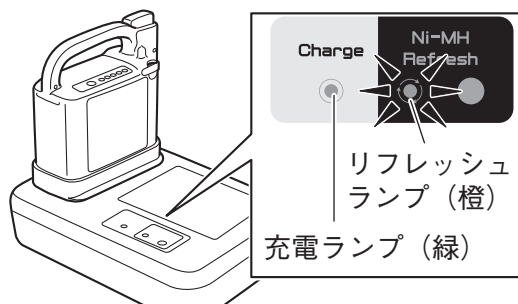
- 3 充電器の充電ランプ（緑）が点灯し、充電が始まります。
バッテリーの容量表示ランプが点滅し、充電量に従って点灯しているランプの数が増えていきます。



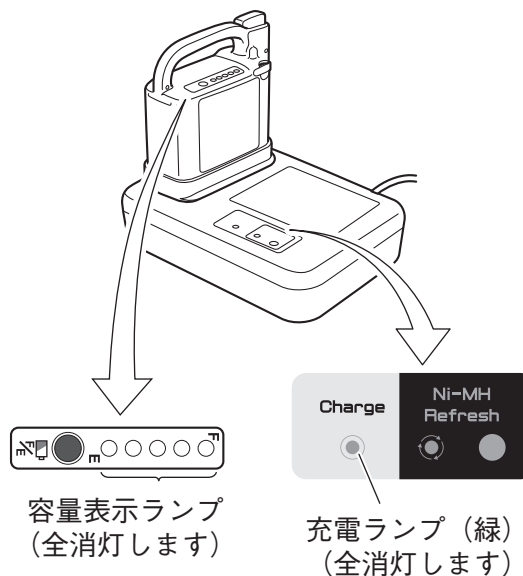
リフレッシュランプ（橙）が点滅したときには
▶P.97 “リフレッシュ充電の方法” をご覧ください。

要 点

充電開始から完了までにかかる時間は、バッテリーが空の状態から充電を始めたとして通常2.5～3時間です。
 高い温度の場所で充電するときや、新品のバッテリーを充電するときには、さらに時間がかかる場合があります。



4 充電が終わったことを確認してください。
 充電が完了するとバッテリーの容量表示ランプや充電器の充電ランプ（緑）が消えます。

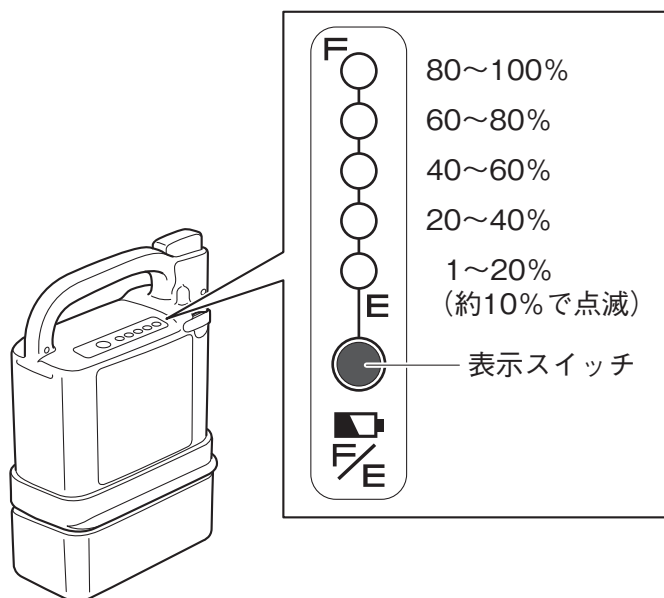


充電が終わったあとで、バッテリーの表示スイッチを押すと充電できた量を確認することができます。

全部のランプがつかないときは、

- 充電中にバッテリーの温度が上がりにぎて保護のために充電が中断した。
- バッテリーの劣化が進んで容量が減少してきている。

などの原因が考えられます。

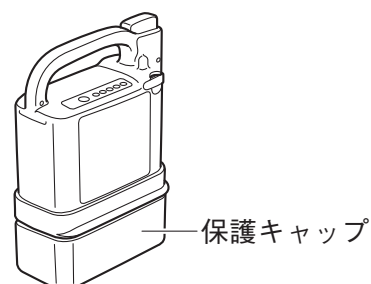


5 電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意

- 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

- 6 バッテリーを充電器から抜いてください。
バッテリーをそのまま保管する場合は、保護キャップをつけて保管してください。



警告

- 取り外したバッテリーには、必ず保護キャップをつけて保管してください。
接点部が露出しているとショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因になります。

要点

充電できない時は

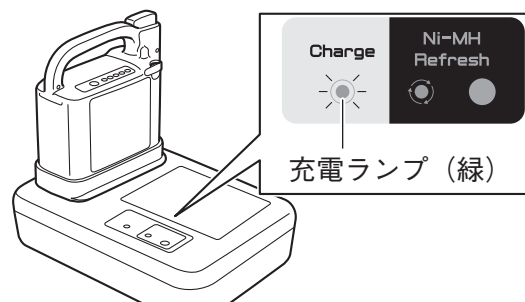
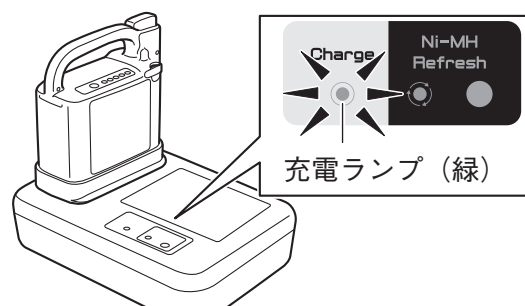
- ▶P.127 “こんなときは” を参照してください。

● 充電に適した温度

充電は、気温が10℃～25℃の環境で行ってください。

- バッテリーの保護のため、バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときには充電を始めずに待機状態になります。このとき、充電器の充電ランプ（緑）は点滅しています。

待機状態のときにバッテリーの温度が適温になると充電器の充電ランプは点滅から点灯に変わり、自動的に充電が始まります。（待機時間の長さは条件により異なります。）



- 充電中にバッテリー温度が上昇し50℃を超えるとバッテリー保護のために、充電が強制終了します。この場合、充電は完了していませんのでバッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。
新品のバッテリーや走行直後のバッテリーは、充電するときにバッテリー温度が上昇しやすいため充電が途中で終わってしまう現象が起きやすくなります。

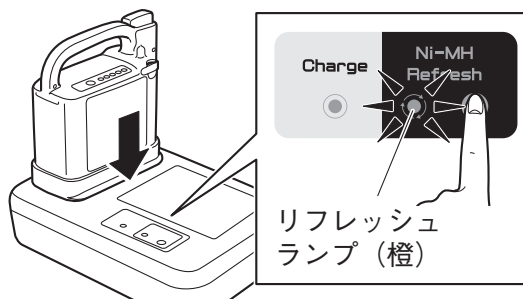
リフレッシュ充電の方法

ニッケル水素バッテリーはメモリー効果の解消と予防のためのリフレッシュ充電を行う必要があります。バッテリーを充電器にセットしたときにリフレッシュランプ（橙）が点滅した場合には、リフレッシュスイッチを押してリフレッシュ充電を行ってください。（充電回数が、ほぼ20～30回に1回の割合でリフレッシュランプが点滅します。リフレッシュランプが点滅しないときは、リフレッシュ充電をする必要はありません。）

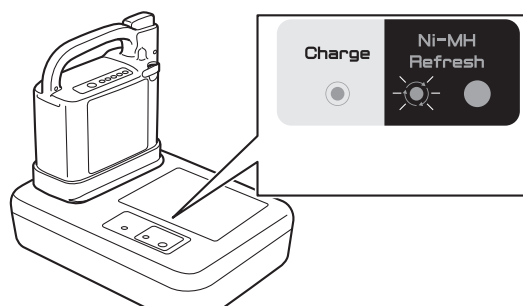
- 1 リフレッシュランプ（橙）が点滅中にリフレッシュスイッチを押してください。

要点

バッテリー挿入後、5秒程度で、一度充電ランプ（緑）が点灯しますが、リフレッシュ充電が必要な場合、充電ランプ（緑）点灯後にリフレッシュランプ（橙）が点滅します。



- 2 リフレッシュランプ（橙）が点滅から点灯にかわってリフレッシュ充電が始まります。



リフレッシュ充電中、バッテリーに残っていた電気を全て放電し終わるとリフレッシュランプ（橙）が消え、充電ランプ（緑）が点灯し、通常充電が始まります。リフレッシュ充電開始から通常充電完了までにかかる時間は、3～19時間です。

- リフレッシュ充電中にバッテリー温度が上がり、充電ランプ（緑）が点滅して充電が待機になることがあります。バッテリーの温度が適温になると、充電ランプが点滅から点灯に変わり、自動的に充電が始まります。
- バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときにリフレッシュ充電をすると、残っていた電気の放電が終わって通常の充電が始まるときに、待機状態になってしまうことがあります。
- リフレッシュスイッチを押し損ねた場合は、バッテリーを充電器から抜いてもう一度差し込んでください。リフレッシュ充電の合図が出て、リフレッシュ充電をすることができます。
- リフレッシュランプ（橙）が点滅した状態でリフレッシュスイッチを押さなかったときには、約1分間経過するとリフレッシュランプの点滅が消え、充電ランプが点灯し、通常充電が始まります。この場合は次の充電のときにふたたびリフレッシュランプが点滅します。

要点

上手な充電の仕方

- バッテリーは、車いすを使わない時間帯に充電することをおすすめします。
- リフレッシュ充電は、バッテリーに残った電気を一度放電した後に充電するため、バッテリー残量が多い場合に実施すると時間がかかります。

充電器 (ESC3) 表示ランプ (ニッケル水素バッテリー充電時)


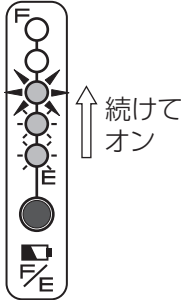


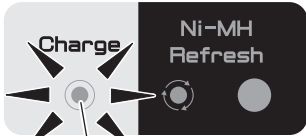
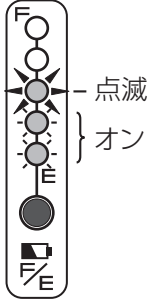

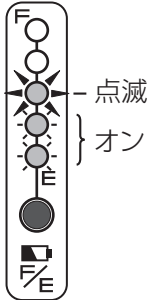
充電器 (ESC3) には、充電ランプ (緑) とリフレッシュランプ (橙) の2種類のランプがあり、各ランプの点灯、点滅によりバッテリーや充電の状態を示します。

ランプの表示については、以下の表で説明しています。

要 点

- 充電中に周囲温度が変化すると、スタンバイモード (待機状態) が作動して、充電表示ランプが (1秒に1回) 緑色に点滅することがあります。スタンバイモードの場合、充電は始まりません。充電に適した温度になると、充電表示ランプは緑色の点滅から点灯に変わり、充電が自動的に再開されます。
- スタンバイ状態が長く続くと、充電表示ランプが (1秒間に5回) の速さで緑色に点滅し始め、充電動作が終了します。このような場合、電源プラグを取り外してください。 ▶P.94 “ニッケル水素バッテリー (JWB2) の充電方法” に従って充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。
- 充電中でも、周囲温度の変化により充電器保護機能が作動する場合があります。この場合、充電表示ランプが赤色に点滅し、充電が停止します。このような場合、電源プラグを取り外してください。 ▶P.94 “ニッケル水素バッテリー (JWB2) の充電方法” に従って充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。

ニッケル水素バッテリー（JWB2）充電時

充電器ランプ表示	バッテリー容量表示ランプ	説明
<p>■ 充電ランプ（緑）が点灯</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>		<p>正常に充電されていることを示します。 充電が完了すると、充電ランプが消灯します。</p>
<p>■ 赤く点灯または点滅</p>  <p>充電ランプ（赤）</p>	 <p>オフ</p>	<p>充電器またはバッテリーの異常検出を示します。 電源プラグを抜いて充電を中止し、バッテリー、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。 再び充電ランプが赤色に点灯または点滅する場合は、機器の故障が考えられます。 電源プラグを抜いて充電を中止し、ご購入店または取扱店に相談してください。</p>
<p>■ 充電ランプ（緑）が点滅 （1秒に1回）</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>		<p>充電待機中を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バッテリーの温度が充電可能範囲内（0℃～40℃）にない場合、充電器が待機状態になり、充電ランプ（緑）が点滅し始めます。 • 待機中にバッテリーの温度が充電可能範囲内になると、充電が自動的に再開され、充電ランプ（緑）が点滅から点灯に変わります。
<p>■ 充電ランプ（緑）が点滅 （1秒に5回）</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>		<p>待機状態のタイムアウトを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 充電器が長時間待機状態のままになり、バッテリーの充電を停止しました。充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。

充電器ランプ表示	バッテリー容量表示ランプ	説明
<p>■ リフレッシュランプ（橙）が点滅</p>  <p>リフレッシュランプ (橙)</p>	 <p>点滅 オン</p>	<p>リフレッシュ充電が要求されています。リフレッシュランプが点滅している間にリフレッシュスイッチを押して、リフレッシュ充電を実施してください。</p> <p>リフレッシュスイッチを押さないと、1分後に通常の充電が開始されます。</p>
<p>■ リフレッシュランプ（橙）が点灯</p>  <p>リフレッシュランプ (橙)</p>	 <p>続けて オフ</p>	<p>リフレッシュ充電中であることを示します。残りの電力がリフレッシュ充電プロセスの一環として放電されています。放電が完了すると、通常の充電が開始されます。</p>

リチウムイオンバッテリー〔型式：ESB1〕

特長

- ニッケル水素バッテリーと比べて大きな電気容量をもっています。
- バッテリーマネジメントコントロールシステム（BMC）を内蔵しています。（マイコン内蔵型）これは充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムです。
- メモリー効果が一般的に起きないと言われているため、リフレッシュ充電は不要で、継ぎ足し充電することが可能です。
- 水銀・カドミウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。
- コンパクトで大容量です。
- 車いすで坂道を下ると内部モーターが発電を行い、充電作用が働きます。

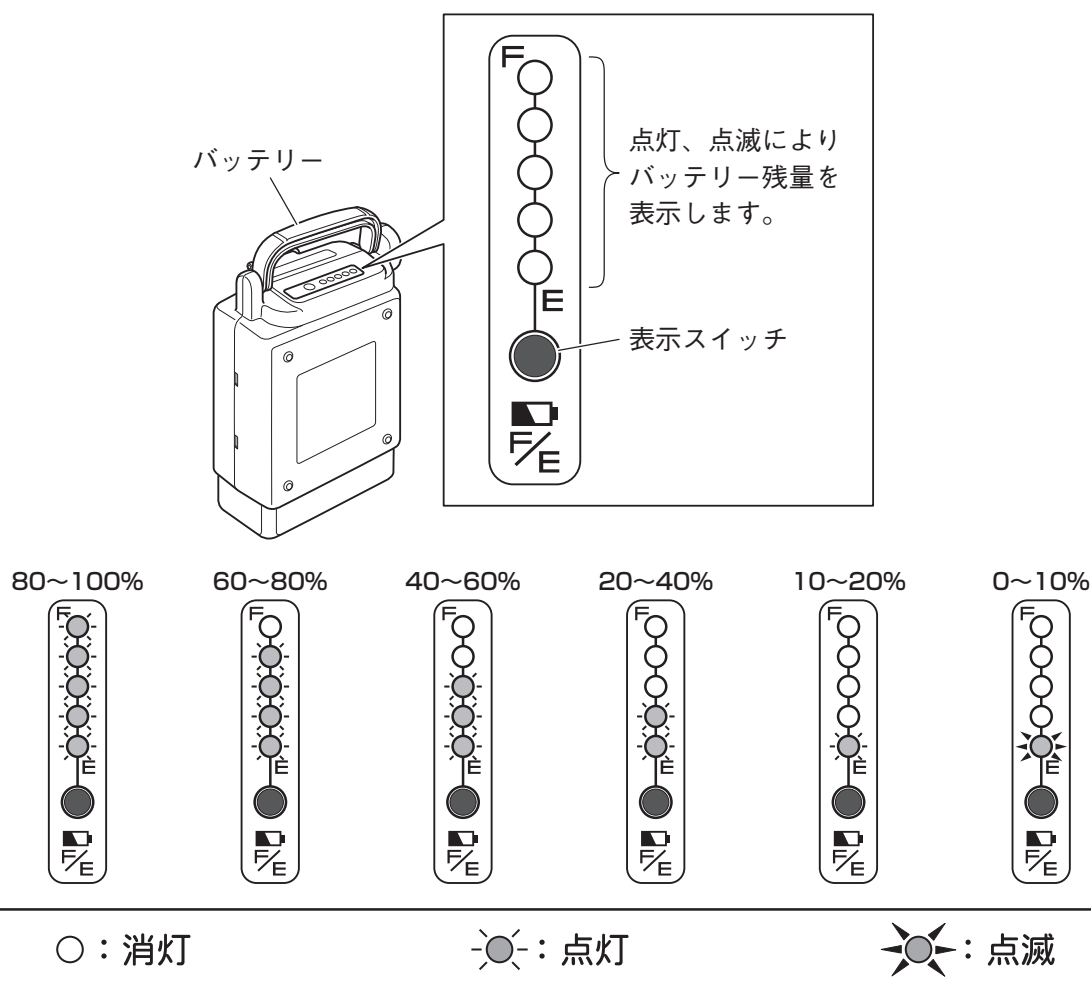
使い方

● 車いすへの取り付け、取り外し

リチウムイオンバッテリーの車いすへの取り付け、取り外しは ▶P.89 “バッテリーの取り外しかた” をご覧ください。

● バッテリー残量の確認方法

表示スイッチを押すとバッテリー残量が表示されます。



● バッテリーの保管方法

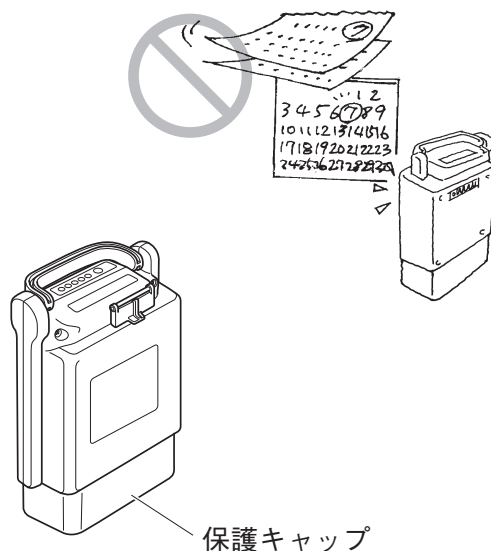
バッテリーを保管するときには、涼しくて乾燥した場所を選んで保管してください。(保管には気温が10℃～25℃の場所が適しています。)

長期間(30日以上)使用しないときは容量表示ランプが3つ点灯するように充電してから保管してください。

使用しないで3ヶ月以上保管する場合は、3ヶ月おきに容量表示ランプが3つ点灯になっているかを確認してください。

容量表示ランプが2つ点灯以下のときには3つ点灯になるまで充電してください。

バッテリーを保管するときには、必ず保護キャップを取り付けてください。



特性と取り扱いについて

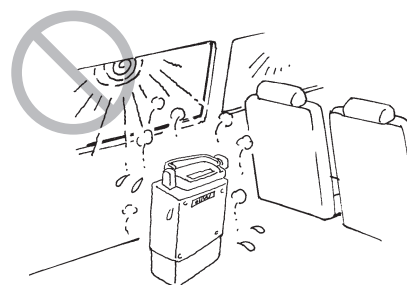
● 温度環境

温度環境によっては、走行できる距離が短くなる場合があります。

バッテリーの性能を生かして使うために、次のような条件で使うことをお奨めします。

車いすに取り付けて使うとき	: 気温が0℃から35℃の範囲
車いすから取り外して保管しておくとき	: 気温が10℃から25℃の範囲
充電するとき	: 気温が10℃から25℃の範囲

- 気温が高すぎたり、低すぎる場所でバッテリーを保管すると、劣化が早く進み、容量が早く減ってしまいます。
- 気温が低すぎる場所で車いすを使い続けると、劣化が早まり、容量が早く減ってしまいます。劣化については
▶P.103 “バッテリーの劣化について” をご覧ください。



要 点

車いすの運転中、リチウムイオンバッテリーの内部温度が高過ぎる、または低過ぎる状態になると、自走用操作部の液晶表示が警告画面に変わり、ブザーが鳴ります。

条件によっては運転中に車いすが停止する場合がありますので、下記のような状態のバッテリーを使用して運転することは避けてください。

- 直射日光があたる場所や車中などで保管して、内部温度が上がったバッテリー
- 過熱で充電を停止した直後の、内部温度が上がったバッテリー
- 気温が氷点下になるような場所で保管して、内部温度が下がったバッテリー

内部温度異常の警告

バッテリー内部温度が0℃以下、または45℃以上の状態が5秒間以上続くと、液晶画面に『C9』の表示が点滅し、「ピッピッ…」という連続音が繰り返されます。

\\ ピッピッ... //



車いすの停止

『C9』の警告が出ている状態で坂道を下るなどしてバッテリーに充電作用が働くと、バッテリー保護のため、車いすが停止する場合があります。

この場合、バッテリー内部温度が0℃以下であれば、車いすは「ピー」というブザー音と共に停止し、液晶画面には『E1』と『22』が交互に表示します。

また温度が45℃以上の場合は、車いすは「ピー」というブザー音と共に停止し、液晶画面には『E』が表示されます。

\\ ピー //



または



バッテリーの劣化について

バッテリーは消耗品です。バッテリーは、使うことによって、また時間が経過することによっても徐々に劣化し、容量が減少します。

劣化によって容量が減少する割合は、使い方によって異なります。

要 点

リチウムイオンバッテリーの劣化によって容量が減少する割合は、満充電から警告ランプが点滅するまで使ったと仮定した場合、充電回数700回で新品時容量の約60%に減少します。

バッテリー容量は、未使用であっても長期間保存した場合には、劣化して減少します。

複数のバッテリーを使用の際は、交互にお使いください。

要 点

リチウムイオンバッテリーは、充電が正常に終わった直後（満充電時）に表示スイッチを押すと、必ず容量表示ランプ5つ全てが点灯します。劣化が進んでも、満充電時に点灯するランプの数は5つです。リチウムイオンバッテリーは劣化の進み方がおだやかなため、この表示方式（相対表示）を採用しています。

● リチウムイオンバッテリーの最大使用期限

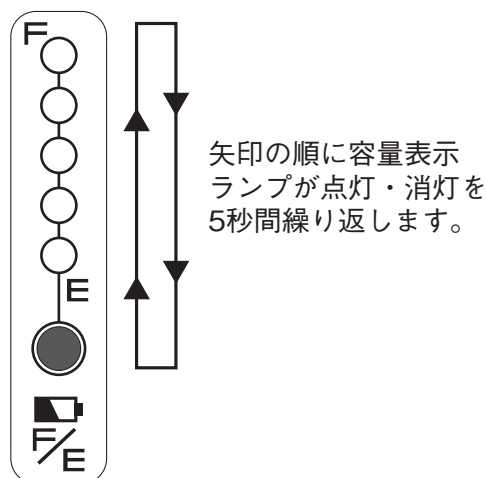
リチウムイオンバッテリー（ESB1）は、最初の充電開始から8年経過、積算充電容量8000Ah、またはバッテリー劣化度合い（※）が25%以下に達すると充電ができなくなります。

※バッテリー劣化度合いとは、バッテリーの劣化状況を新品に対する容量比で表したものです。

● 長期使用のお知らせ

最初の充電開始から7年9ヶ月、積算充電容量が7800Ah、またはバッテリー劣化度合いが50%に達すると、容量表示ランプでお知らせします。

充電完了時、充電プラグを抜いた後に右図のように容量表示ランプが点灯・消灯します。



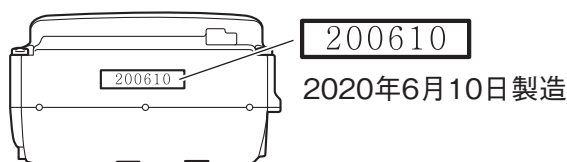
● 使用期限に達した場合

使用期限に達した場合は、充電時充電器のランプが点灯せず、バッテリーの容量表示ランプが点灯しなくなり充電できません。

要 点

● リチウムイオンバッテリーを使い始めた年月日を忘れてしまったら。

バッテリー底面に製造年月日が記載されています。参考にしてください。



● バッテリーは、工場出荷後の最初の充電日を使用開始日と認識します。
（上記製造年月日とは一致しません。）

● 積算充電容量が8000Ahに達した場合には、8年が経過していなくても使用できなくなります。
※積算充電容量8000Ahは、リチウムイオンバッテリー「ESB1」のバッテリー容量の約700倍（残量ゼロから満充電したときの約700回分）です。

リチウムイオンバッテリー（ESB1）の充電方法

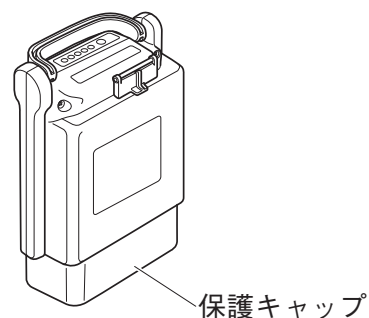
リチウムイオンバッテリーには、バッテリーを車いすから取り外して充電する方法（卓上充電）とバッテリーを車いすに装着したまま充電する方法（車載充電）の2つの方法があります。

● 充電時間

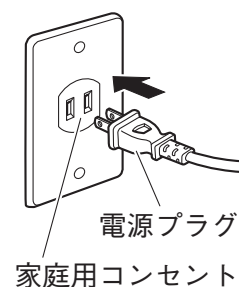
充電時間：4時間（バッテリーを空の状態から充電する場合）

● 卓上充電のしかた

- 1 バッテリーに保護キャップがついていることを確認してください。
ついていない場合には、必ず保護キャップをつけてください。

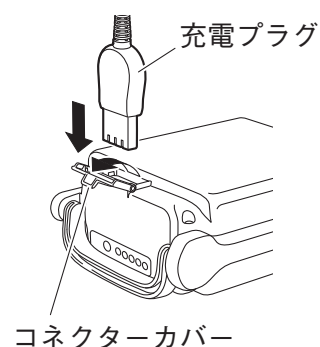


- 2 充電器（ESC3）の電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。



- 3 バッテリーを寝かせた状態にしてください。

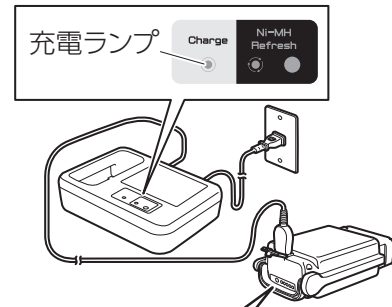
- 4 コネクターカバーをあげ、充電プラグをバッテリーの充電用コネクターに差し込んでください。



5 充電器の充電ランプが緑色に点灯することを確認してください。

要点

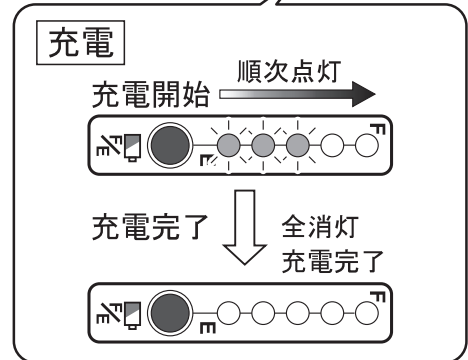
充電プラグを差し込んだ後、充電ランプが点灯するまで5秒程度かかります。



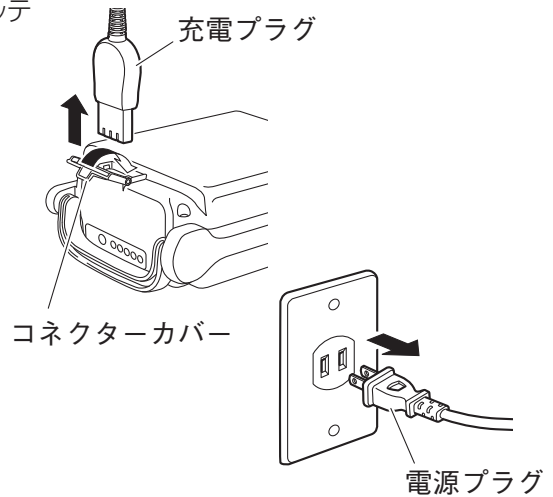
6 充電中は、充電状況をバッテリーの容量表示ランプで確認することができます。

充電が終わると容量表示ランプが消えます。

充電開始から完了までにかかる時間は、バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、通常4時間前後です。



7 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜き、バッテリーのコネクターカバーをしっかりとめてください。



注意

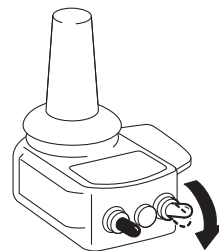
- 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

● 車載充電のしかた

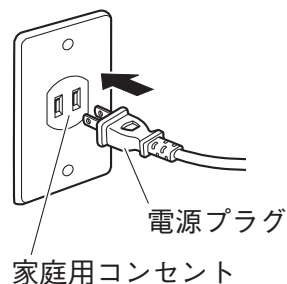
- 1 充電の準備をします。
背もたれの荷物やバックなど充電ケーブルが引っかかるおそれがあるものをあらかじめ取り除いてください。
室内の平坦な場所に車いすを置き、駐車ブレーキをかけてください。



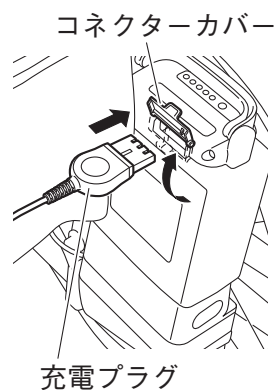
- 2 車いすの電源スイッチを切ってください。
危険防止のために車載充電中はスイッチを操作しても電源は入りません。



- 3 充電器 (ESC3) の電源プラグを家庭用コンセントに接続してください。



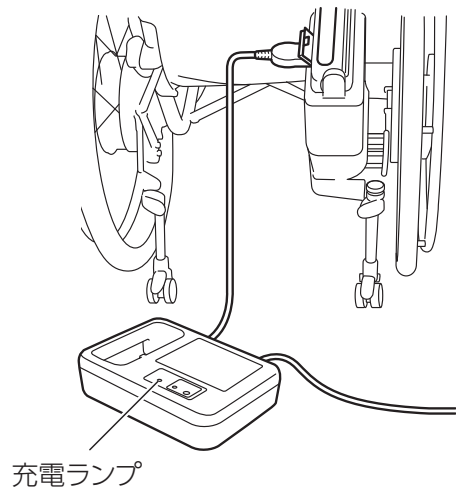
- 4 コネクターカバーをあげ、充電器の充電プラグをバッテリーの充電用コネクターに差し込んでください。



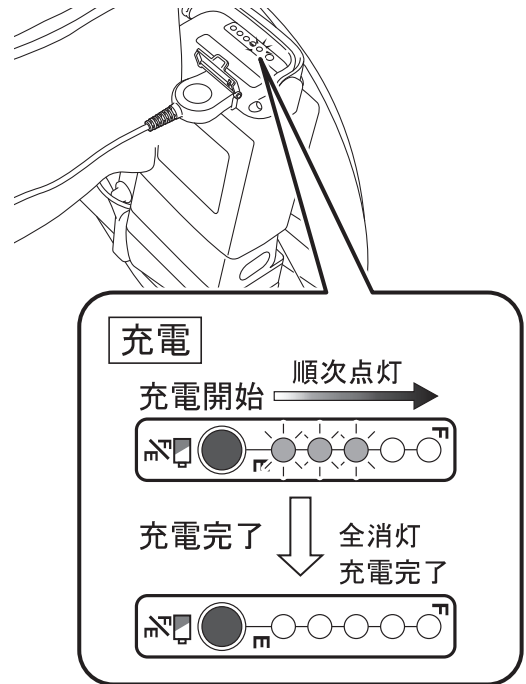
5 充電器の充電ランプが緑色に点灯することを確認してください。

要 点

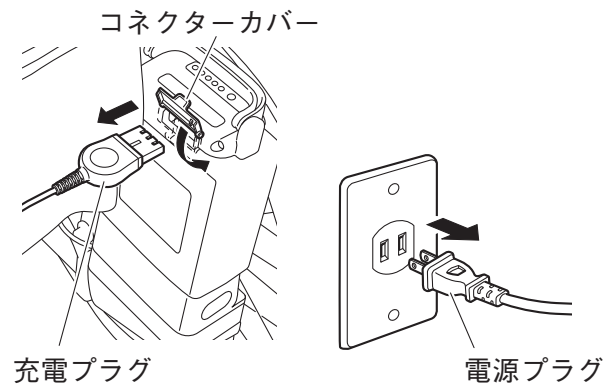
充電プラグを差し込んだ後、充電ランプが点灯するまで5秒程度かかります。



6 充電中は、充電状況をバッテリーの容量表示ランプで確認することができます。充電が終わると容量表示ランプが消えます。充電開始から完了までにかかる時間は、バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、通常4時間前後です。



7 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜き、バッテリーのコネクターカバーをしっかりと閉めてください。



注意

- 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

要点

充電できない時は

- ▶P.127 “こんなときは” を参照してください。

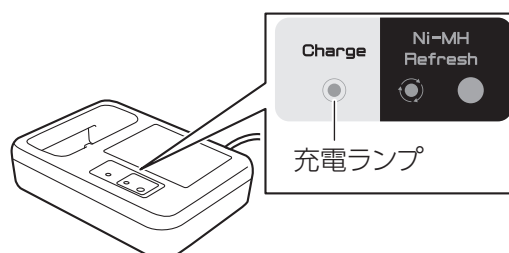
充電に適した温度

充電は、気温が10℃～25℃の環境で行ってください。

- バッテリーの保護のため、バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときには充電を始めずに待機状態になります。このとき、充電ランプは緑色に点滅しています。

待機状態のときにバッテリーの温度が適温になると、充電ランプは緑色の点滅から緑色の点灯に変わり、自動的に充電が始まります。(待機時間の長さは条件により異なります。)

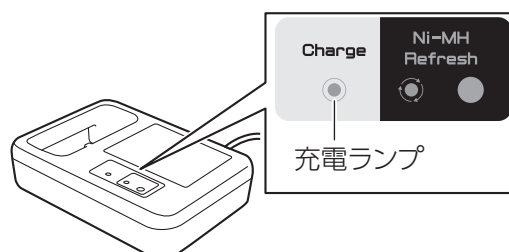
- 充電中にバッテリー温度が上昇し45℃を超えるとバッテリーの保護のために、充電が強制終了します。この場合、充電は完了していませんのでバッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。



充電器 (ESC3) 表示ランプ (リチウムイオンバッテリー充電時)

充電器 (ESC3) には、充電ランプ (緑) があり
充電ランプの点灯、点滅によりバッテリーや充電状態を示します。

ランプの表示については、以下の表で説明しています。



要点

- 充電中に周囲温度が変化すると、スタンバイモード (充電待機) が作動して、充電表示ランプが (1秒に1回) 緑色に点滅することがあります。スタンバイモードの場合、充電は開始されません。充電に適した温度になると、充電表示ランプは緑色の点滅から点灯に変わり、充電が自動的に再開されます。
- スタンバイ状態が長く続くと、(1秒間に5回) の速さで緑色に点滅し始め、充電動作が終了します。このような場合、充電プラグと電源プラグを取り外してください。▶P.105 “リチウムイオンバッテリー (ESB1) の充電方法” に従って充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。
- 充電中でも、周囲温度の変化により充電器保護機能が作動する場合があります。この場合、充電表示ランプが赤色に点滅し、充電が停止します。このような場合、充電プラグと電源プラグを取り外してください。▶P.105 “リチウムイオンバッテリー (ESB1) の充電方法” に従って充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。

リチウムイオンバッテリー（ESB1）充電時

充電器ランプ表示	バッテリー容量表示ランプ	説明
<p>■ 充電ランプ（緑）が点灯</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>		<p>正常に充電されていることを示します。 充電が完了すると、充電ランプが消灯します。</p>
<p>■ 充電ランプ（緑）が点滅 （1秒に1回）</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>		<p>充電待機中を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バッテリーの温度が充電可能範囲内（0℃～40℃）にない場合、充電器が待機状態になり、充電ランプ（緑）が点滅し始めます。 • 待機中にバッテリーの温度が充電可能範囲内になると、充電が自動的に再開され、充電ランプ（緑）が点滅から点灯に変わります。
<p>■ 充電ランプ（緑）が点滅 （1秒に5回）</p>  <p>充電ランプ（緑）</p>		<p>待機状態のタイムアウトを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 充電器が長時間待機状態のままになり、バッテリーの充電を停止しました。充電器を取り付けなおし、再度バッテリーを充電してください。
<p>■ 赤く点灯または点滅</p>  <p>充電ランプ（赤）</p>		<p>充電器またはバッテリーの異常検出を示します。</p> <p>電源プラグを抜いて充電を中止し、バッテリー、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。</p> <p>再び充電ランプが赤色に点灯または点滅する場合は、機器の故障が考えられます。</p> <p>電源プラグを抜いて充電を中止し、ご購入店または取扱店に相談してください。</p>

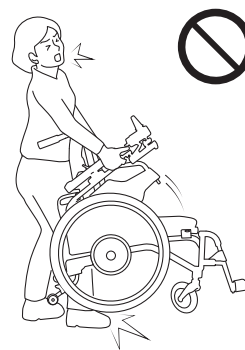
7 運搬、手入れ、保管

車いすを車などに載せて運ぶときや、長期間使用しないときは、手順を守って正しく取り扱ってください。
取り外したバッテリーの取り扱いや長期保管について ▶P.81 “バッテリーと充電器の取り扱いについて”

警告

- 跳ね上げ式アームサポートを装備した車いすを持ち上げるときは、絶対にアームサポートを持たない。

不意にアームサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。



- 車いすを持ち上げるときは、バッテリー、自走用操作部、車いすのケーブルやコードなどを持たない。

車いすから機器が外れ、けがや機器の損傷の原因となります。

- 車いすを逆さまにしない。

逆さまにした場合は、部品などが落ちて、けがや機器の損傷の原因となります。

注意

- 車いす本体に衝撃を与えたり、落としたりしない。

フレーム、キャスター、ユニット部、操作部、バッテリーなどの破損の原因となります。

車いすの折りたたみ

車いすは、フレームを折りたたむことで運搬や保管がしやすくなります。JWX-1 PLUS+をご使用の方は、装着しているフレームの取扱説明書をご確認ください。

フレームのたたみかた

JWアクティブ PLUS+を最も小さく折りたたんだとき（フレームの折りたたみ、フットレッグサポートの取り外し、転倒防止バーの折りたたみ、手押しハンドルの折りたたみを行なった状態）の寸法については、仕様諸元をご覧ください。

▶P.125 “仕様諸元”

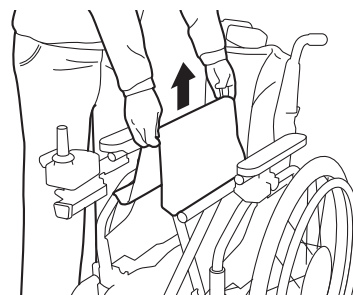
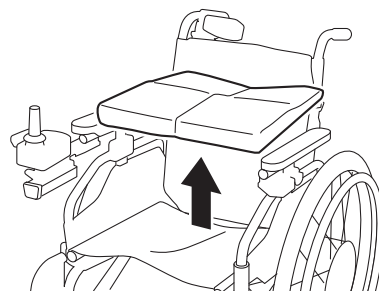
- 1 車いすを平坦な場所に止め、電源を切ります。
- 2 バッテリーを取り外し、バッテリーに保護キャップを取り付けます。
- 3 フットサポートを跳ね上げます。
- 4 シートのクッションを取り外します。

要 点

最も小さく折りたたむ場合は、『手順5』の前に転倒防止バーを折りたたみます。

▶P.29 “転倒防止バー”

- 5 イラストのようにシートの中心を引き上げて、フレームを内側に折りたたみます。



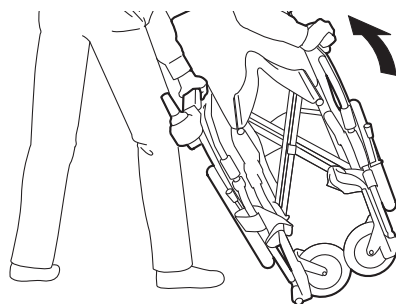
注意

- シートは必ず上側に引き上げた状態で折りたたむ。

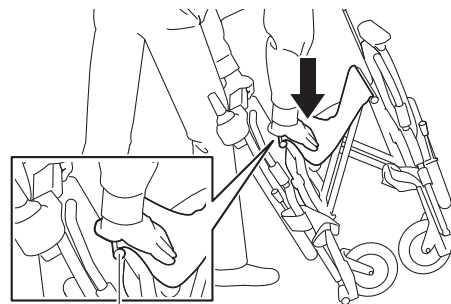
シートの破損の原因となるおそれがあります。

フレームの広げかた

1 フレームをつかんで、車いすの片輪を浮かせます。



2 イラストのように座パイプを下に押し、フレームを外側に広げます。



座パイプ

3 外した部品を元の場所に取り付けます。

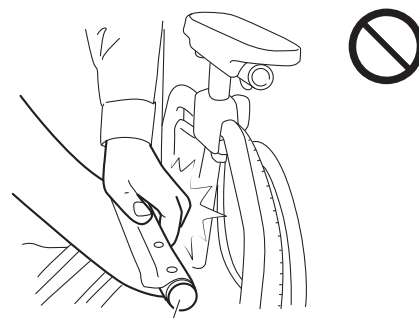
警告

- 走行前に、折りたたんだフレームは完全に元に戻す。

完全に戻っていないと、走行が安定せずご自身がけがをするおそれがあります。

- 座パイプの横や下へ手や指を入れない。

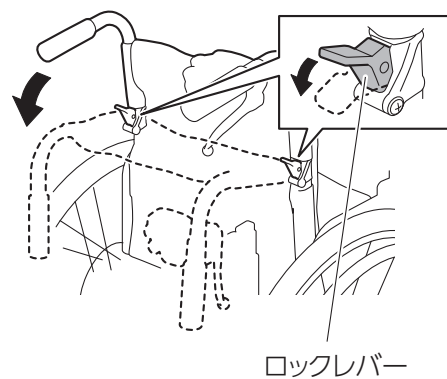
指を挟んで、指をけがするおそれがあります。



座パイプ

手押しハンドルの折りたたみかた・戻しかた

- 1 左右のロックレバーを押し下げ、手押しハンドルを後方に倒します。



- 2 元に戻すときは、ハンドルを元の位置まで起こすと、「カチッ」と音がしてロックされます。

- 3 ハンドルを揺らして、確実にロックされていることを確認してください。

警告

- 手押しハンドルがロックされていることを確認してから操作する。

ロックされていないと、正しい姿勢を保持することができず、けがをするおそれがあります。

自動車などへの積載

本書では、車いすを折りたたんで積載する場合の手順を記載しています。車いすに対応した福祉車両を使用する場合は、福祉車両の取扱説明書をご確認ください。

注意

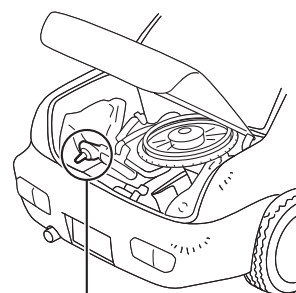
- バッテリーや車いすを運搬するときは、高温になる場所や直射日光が当たる場所に置かない。
故障やバッテリーの劣化を早める原因となります。

車いすの積み込みかた

- 1 車いすを平坦な場所に停め、電源を切ります。
- 2 左右の駐車ブレーキがかかっていること、クラッチレバーが電動側にあることを確認します。
- 3 バッテリーを取り外し、バッテリーに保護キャップを取り付けます。
- 4 必要に応じて車いすを折りたたみます。 ▶P.112 “車いすの折りたたみ”
- 5 車いすのフレーム部分を両手で持って、立てた状態で積み込みます。
- 6 揺れたり、周囲のものに当たったりしないように、クッションなどの緩衝材やベルトを使って固定します。

要点

やむを得ず横にして載せる場合は、自走用操作部が上になる向きに寝かせ、自走用操作部が周囲のものに当たらないように固定してください。



自走用操作部が上側

車いすの降ろしかた

- 1 車いすのフレーム部分を両手で持って、平坦な場所に降ろします。
- 2 車いすを折りたたんで積み込んでいた場合は、フレームを元に戻し、外した部品を元の場所に取り付けます。 ▶P.113 “フレームの広げかた”
- 3 転倒防止バーが外に出た位置でロックされていることを確認します。

警告

- **必ず転倒防止バーが出ていることを確認してから車いすに乗る。**

転倒防止バーが折りたたまれた状態で走行すると、車いすが転倒するおそれがあります。

- **フットレグサポートを取り外したり、手押しハンドルを折りたたんだりした状態で絶対に走行しない。**

ご自身けがをするおそれがあります。

航空機での取り扱い

航空機を利用する場合、航空会社によって電動車いすの取り扱いが異なる場合があります。電動車いすを使用することを事前に連絡し、航空会社の指示にしたがってください。

特にバッテリーは、荷物としての預け入れや機内への持ち込みが制限されることがあります。必ず事前に航空会社へご相談ください。

お使いの電動車いすとバッテリーについて、航空会社には必要に応じて下記の仕様をお伝えください。

● 電動車いす

JWアクティブ PLUS+

JWX-1 PLUS+

● ニッケル水素バッテリー（ラベルに『Ni-MH』と表示）

型式 JWB2

電圧 24V

容量 6.7Ah

種類 マイコン内蔵乾式密閉型（ドライタイプ）

● リチウムイオンバッテリー（ラベルに『Li-ion』と表示）

型式 ESB1

電圧 25.2V

容量 10.08Ah

種類 マイコン内蔵乾式密閉型（ドライタイプ）

要 点

旅行などの一時的な場合も含め、JWアクティブ PLUS+およびJWX-1 PLUS+を海外でご使用いただく場合は、サービスサポートの対象外とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

車いすのお手入れ

注意

- ホースで直接水をかけて洗ったり、スチーム洗浄したりしない。

電子機器を傷め、故障の原因となります。

- ガソリンやシンナーなどの溶剤でふかない。

塗料や樹脂部分を傷めるおそれがあります。

フレーム、駆動部の手入れ

● 泥や汚れ

日常的な軽微な汚れは、よく絞った布でふき取ってください。

● 水濡れ

濡れた箇所は、水分をふき取って乾燥させてください。

● 洗剤の使用

洗剤を使用する場合は、中性洗剤を水で薄め、浸した布をよく絞ってからふいてください。

● 消毒

本製品を除菌する際は、用途に応じたアルコール系除菌剤をご使用ください。ご使用の際は、消毒剤のメーカーの指示に従い、放置時間、濃度等をご確認の上、タオルに消毒剤を含ませて拭き取ってください。消毒後はきれいな水に浸したタオルをよく絞り、絞ったタオルで残りのアルコールを拭き取ってください。

クッションカバーなどの洗濯

車いすのフレームによって洗濯できるものが異なります。

JWアクティブ PLUS+ Pタイプ: **Pタイプ**

JWアクティブ PLUS+ Sタイプ: **Sタイプ**

お使いのタイプがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

洗濯表示はJIS規格に則って表示されています。ご購入いただいた時期によって、表示方法が異なる場合があります。

旧表示 (2016年11月以前)

新表示 (2016年12月以後)



Pタイプ

バックサポート (背もたれ) クッション、シートクッション、フットサポートベルトカバーは、手洗い、またはドライクリーニングが可能です。

ほかの淡色のものと分けて洗ってください。

Sタイプ

バックサポート (背もたれ) クッション、シートクッションカバーは、手洗い、またはドライクリーニングが可能です。

ほかの淡色のものと分けて洗ってください。

● バックサポートクッション

小物入れが付いています。中に入れているものは取り出してください。

● シートクッションカバー

裏面のファスナーを開け、中の成形板とスポンジを取り出してください。

元に戻すときは、スポンジ、成形板の順に入れます。

車いすの保管

警告

- **保管中は、必ず車いすからバッテリーを取り外す。**

不意に電源スイッチが入り車いすが動き出して、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。湿気などで絶縁不良となり、発熱、発火の原因となります。

- **取り外したバッテリーを保管するときは、必ず保護キャップを取り付ける。**

接点部が露出していると短絡（ショート）するおそれがあり、発熱、発火、感電の原因となります。

注意

- **保管中は、必ず車いすからバッテリーを取り外す。**

バッテリーの劣化を早める原因となります。

- **濡れたままや汚れが付着したまま長期保管しない。**

故障の原因となります。

- **雨に濡れる場所や湿度の高い場所に保管しない。**

故障の原因となります。

- **高温になる場所や直射日光が当たる場所に保管しない。**

故障やバッテリーの劣化を早める原因となります。

保管のしかた

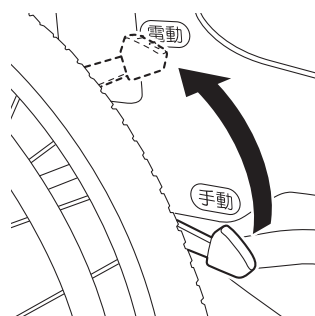
車いすを長期間使用しないときは、下記の状態であることを確認し、屋内の湿気が少ない場所に保管してください。

また、必要に応じて車いすを折りたたみ、固定してください。 ▶P.112 “車いすの折りたたみ”

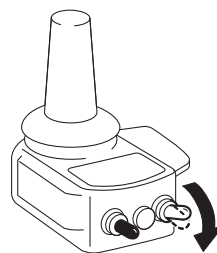
◀ 駐車ブレーキがかかっている



◀ クラッチレバーが電動側にある



◀ 電源スイッチを切っている



◀ バッテリーを取り外してある

取り外したバッテリーの長期保管に関しては、下記を参照し、正しく取り扱ってください。

ニッケル水素バッテリーをお使いの場合 ▶P.92 “バッテリーの保管方法”

リチウムイオンバッテリーをお使いの場合 ▶P.102 “バッテリーの保管方法”

◀ 水濡れや汚れがない

水滴や汚れはふき取ってから保管してください。 ▶P.118 “車いすのお手入れ”

8 寸法、仕様諸元

この章では、車いす各部の寸法と仕様諸元を記載しています。

寸法 (単位: mm)

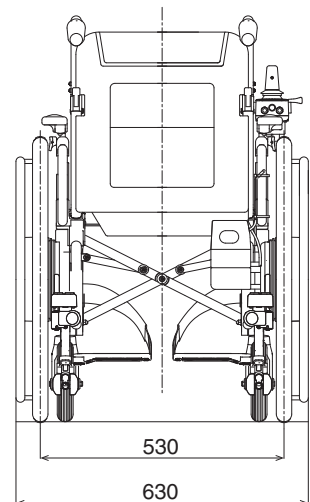
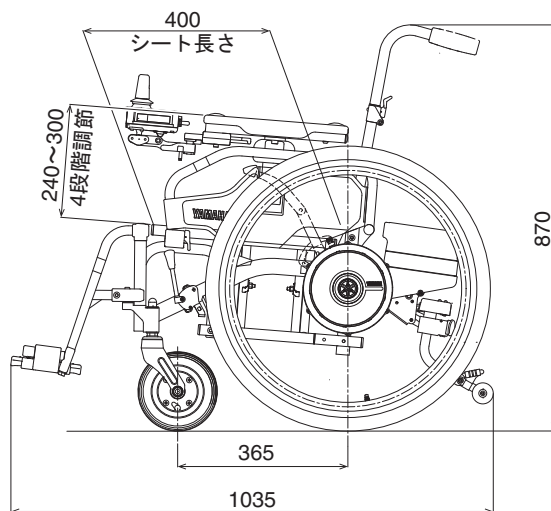
車いす各部の寸法はフレームによって異なるだけでなく、タイヤサイズによっても異なります。下記の図では24インチ仕様の数値を表示し、22インチ仕様で数値が異なる場合は () で示しています。

JWアクティブ PLUS+ Pタイプ: **Pタイプ**

JWアクティブ PLUS+ Sタイプ: **Sタイプ**

お使いのタイプ、タイヤサイズがわからないとき ▶巻末 “仕様早見表”

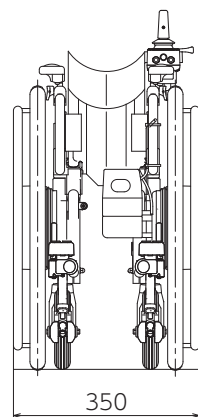
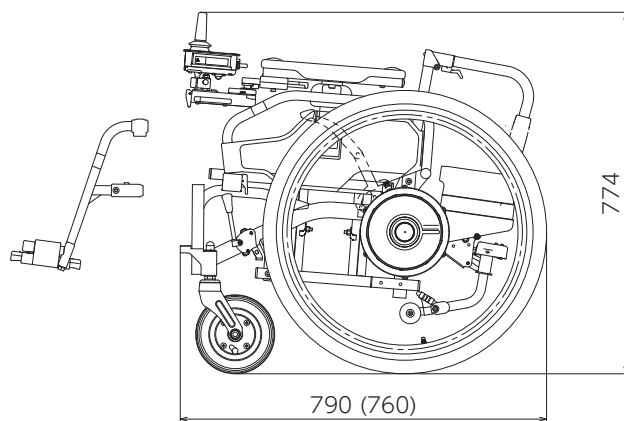
Pタイプ



座幅: 390
前座高: 440
後座高: 410

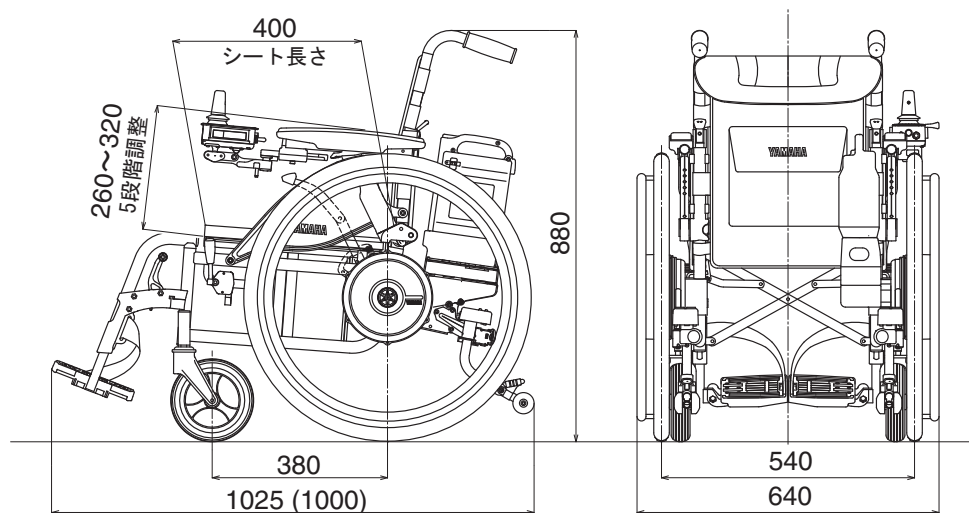
● 最小パッケージ寸法

フットレグサポートを取り外し、転倒防止バー、手押しハンドル、車いす本体を最も小さく折りたたんだ状態の寸法です。



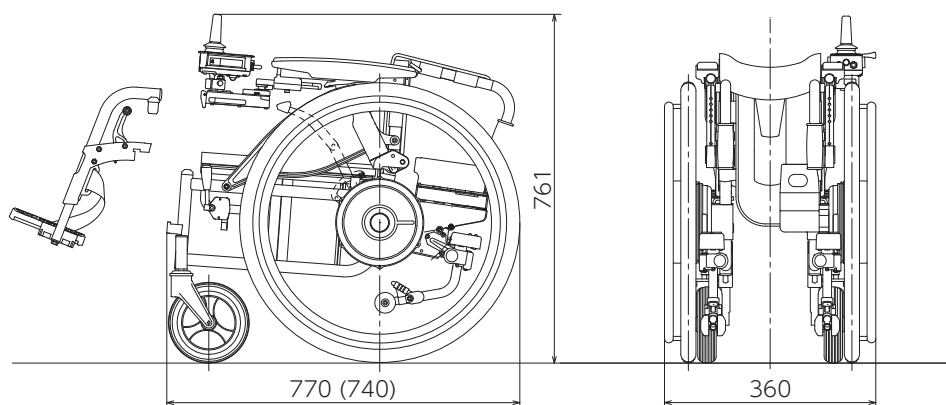
Sタイプ

座幅： 400
前座高： 440
後座高： 410



● 最小パッケージ寸法

フットレグサポートを取り外し、転倒防止バー、手押しハンドル、車いす本体を最も小さく折りたたんだ状態の寸法です。



仕様諸元

仕様によって数値が異なります。

お使いの車いすの仕様がわからないとき ▶巻末“仕様早見表”

4.5km/h仕様

機種			自操用軽量型電動車いす									
			完成車				電動ユニット					
			JWアクティブ PLUS+ Pタイプ		JWアクティブ PLUS+ Sタイプ		JWX-1 PLUS+					
全長 × 全幅 × 全高			1035 × 630 × 870mm		1000 × 640 × 880mm		1025 × 640 × 880mm		–	–	–	
シート構造および寸法 (シート幅 × シート奥行 × バックサポート高) ^{注1}			クッション式 (取外可) 390 × 400 × 410mm		クッション式 (取外可) 400 × 400 × 410mm		–		–	–		
重量	バッテリー含む	ニッケル水素搭載時	31.6kg	31.8kg	30.3kg	30.5kg	18.0kg	18.2kg	18.4kg			
		リチウムイオン搭載時	32.1kg	32.3kg	30.8kg	31.0kg	18.5kg	18.7kg	18.9kg			
	バッテリー含まない		28.7kg	28.9kg	27.4kg	27.6kg	15.1kg	15.3kg	15.5kg			
タイヤ	後輪	タイヤサイズ	37-501 (22×1 ³ / ₈)	37-540 (24×1 ³ / ₈)	37-501 (22×1 ³ / ₈)	37-540 (24×1 ³ / ₈)	37-451 (20×1 ³ / ₈)	37-501 (22×1 ³ / ₈)	37-540 (24×1 ³ / ₈)			
		空気圧	450kPa (4.5kg/cm ² , 65PSI)				420kPa (4.2kg/cm ² , 60PSI)		450kPa (4.5kg/cm ² , 65PSI)			
		前輪 (キャスト)	7インチ	7インチ	7インチ	7インチ	–	–	–			
	駆動方式		後輪直接駆動									
制動方式		電磁ブレーキ+モーター回生制動										
操舵方式		ジョイスティック操舵										
制御方式		マイクロコンピューター制御										
実用登降坂角度		6° (勾配 約10%)										
走行距離	連続走行距離 ^{注2}	ニッケル水素使用時	15km									
		リチウムイオン使用時	26km									
	連続走行距離 ^{注3}	ニッケル水素使用時	15km									
		リチウムイオン使用時	27km									
最小回転半径			760mm		720mm		装着する車いすによって異なります					
段差乗越高さ			25mm ^{注2}				装着する車いすによって異なります					
溝乗越幅			100mm ^{注2}				装着する車いすによって異なります					
最高速度	自走操作	前進	第1速	1.7km/h								
			第2速	2.4km/h								
			第3速	3.1km/h								
			第4速	3.8km/h								
			第5速	4.5km/h								
	自走操作	後退	第1速	0.9km/h								
			第2速	1.2km/h								
			第3速	1.6km/h								
			第4速	1.9km/h								
			第5速	2.3km/h								
介助操作	前進	1.0km/h ~ 4.9km/h										
	後退	0.4km/h ~ 1.9km/h										
耐荷重			–				125kg ^{注4}					
使用者最大体重 (積載物も含む)			100kg				装着する車いすによって異なります					

注1 ; JIS T9203 (2010) 指定寸法

注2 ; JIS T9203 (2010) による測定方法

注3 ; ヤマハパターン走行 : 24インチ、バッテリー新品・満充電、気温15 ~ 25℃、体重75kg、直線平坦路連続走行

注4 ; JW-X-1 PLUS+ユニットの耐荷重は125kg (乗員、荷物、フレーム重量を含む) ですが、詳細はフレーム強度も含め車いすメーカーにご確認ください。

6km/h仕様

機種			自操用軽量型電動車いす							
			完成車				電動ユニット			
			JWアクティブ PLUS+ Pタイプ		JWアクティブ PLUS+ Sタイプ		JWX-1 PLUS+			
全長 × 全幅 × 全高			1035 × 630 × 870mm		1000 × 640 × 880mm		1025 × 640 × 880mm		-	-
シート構造および寸法 (シート幅 × シート奥行 × バックサポート高) 注1			クッション式 (取外可) 390 × 400 × 410mm		クッション式 (取外可) 400 × 400 × 410mm				-	-
重量	バッテリー含む	ニッケル水素搭載時	31.6kg	31.8kg	30.3kg	30.5kg	18.2kg	18.4kg		
		リチウムイオン搭載時	32.1kg	32.3kg	30.8kg	31.0kg	18.7kg	18.9kg		
	バッテリー含まない			28.7kg	28.9kg	27.4kg	27.6kg	15.3kg	15.5kg	
タイヤ	後輪		22インチ	24インチ	22インチ	24インチ	22インチ	24インチ		
		タイヤサイズ	37-501 (22×1 ³ / ₈)	37-540 (24×1 ³ / ₈)	37-501 (22×1 ³ / ₈)	37-540 (24×1 ³ / ₈)	37-501 (22×1 ³ / ₈)	37-540 (24×1 ³ / ₈)		
		空気圧	450kPa (4.5kg/cm ² , 65PSI)							
	前輪 (キャスト)		7インチ	7インチ	7インチ	7インチ	-	-		
バッテリー (マイコン内蔵型)	ニッケル水素 (JWB2)		(24V 6.7Ah) × 1個 (5時間率)							
	リチウムイオン (ESB1)		(25.2V 10.08Ah) × 1個 (5時間率)							
充電器 (ESC3)	ニッケル水素バッテリー (JWB2) 充電時		定格出力29V 2.6A マイコン制御による自動充電							
	リチウムイオンバッテリー (ESB1) 充電時		定格出力29.2V 3A マイコン制御による自動充電							
駆動モーター (ACサーボモーター)			24V 120W×2 (30分定格出力)							
駆動方式			後輪直接駆動							
制動方式			電磁ブレーキ+モーター回生制動							
操舵方式			ジョイスティック操舵							
制御方式			マイクロコンピューター制御							
実用登降坂角度			6° (勾配 約10%)							
走行距離	連続走行距離 ^{注2}	ニッケル水素使用時	15km							
		リチウムイオン使用時	26km							
	連続走行距離 ^{注3}	ニッケル水素使用時	16km							
		リチウムイオン使用時	29km							
最小回転半径			760mm		720mm		装着する車いすによって異なります			
段差乗越高さ			25mm ^{注2}				装着する車いすによって異なります			
溝乗越幅			100mm ^{注2}				装着する車いすによって異なります			
最高速度	自走操作	前進	第1速	1.7km/h						
			第2速	2.6km/h	2.7km/h	2.6km/h	2.7km/h	2.6km/h	2.7km/h	
			第3速	3.6km/h	3.7km/h	3.6km/h	3.7km/h	3.6km/h	3.7km/h	
			第4速	4.5km/h	4.7km/h	4.5km/h	4.7km/h	4.5km/h	4.7km/h	
			第5速	5.5km/h	5.7km/h	5.5km/h	5.7km/h	5.5km/h	5.7km/h	
		後退	第1速	0.9km/h						
			第2速	1.4km/h						
			第3速	1.8km/h						
			第4速	2.3km/h						
			第5速	2.8km/h						
	介助操作	前進	1.0km/h ~ 4.9km/h							
		後退	0.4km/h ~ 1.9km/h							
耐荷重			-				125kg ^{注4}			
使用者最大体重 (積載物も含む)			100kg				装着する車いすによって異なります			

注1: JIS T9203 (2010) 指定寸法

注2: JIS T9203 (2010) による測定方法

注3: ヤマハパターン走行: 24インチ、バッテリー新品・満充電、気温15 ~ 25°C、体重75kg、直線平坦路連続走行

注4: JW-1 PLUS+ユニットの耐荷重は125kg (乗員、荷物、フレーム重量を含む) ですが、詳細はフレーム強度も含め車いすメーカーにご確認ください。

9 こんなときは

この章では、機能や設定の変更に関する情報と、お困りの場合の対処方法などについてまとめています。
わからないこと、解決できないことがありましたら、取扱店にお問い合わせください。

自走用操作部の設定変更

本製品は、パラメーター設定機能、または専用ソフト『JW Smart Tune』によって、車いすに乗る人の身体の具合や使いかたに合わせて設定を変更できます。

設定変更は、理学療法士や作業療法士など専門家の指導に基づいて、取扱店にて行なってください。

走行パラメーター

加速のしやすさやジョイスティックの反応具合など、運転に関わる設定です。

速度や加速度

例えば…

- ・ 前進するときにはゆっくり加速したい
- ・ もう少し早く向きを変えられるようにしたい

ジョイスティックの感度

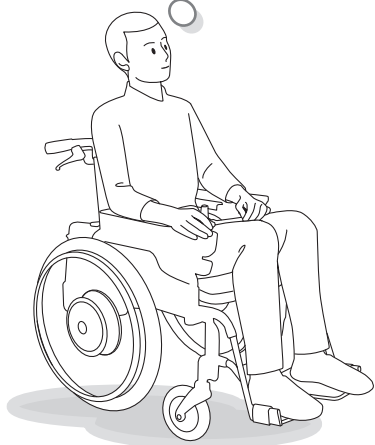
例えば…

- ・ 最高速度が出る傾け具合を変えたい
- ・ 手先のブレに反応しないようにしたい

ジョイスティックの入力方向

例えば…

- ・ 後進のときにジョイスティックを傾ける向きを変えたい



JW Smart Tune
で

解決

速度のでかた、加減速の具合、
ジョイスティックの入力を検知する範囲などを

お乗りの方に合わせて変更することができます

機能パラメーター

液晶表示の明るさや、操作音など操作に付随する各機能の設定です。

● オートパワーオフ機能

- 設定1： ジョイスティックを10分間操作しないでいると、電源が切れます。(初期設定)
- 設定2： ジョイスティックを60分間操作しないでいると、電源が切れます。
- 設定3： 自動的に電源が切れません。

● 操作音

- 設定1： 操作音あり (初期設定)
- 設定2： 電源を入れたときと速度切替スイッチの操作音、クラッチレバーが手動側にある状態でのジョイスティック操作時に鳴るブザーを消音にできます。

要 点

ホーンとエラーを知らせるブザー音は消音になりません。

● 液晶表示の明るさ

- 設定1： ふつう (初期設定)
- 設定2： 少し暗い
- 設定3： 暗い

● 電磁ブレーキのタイミング

- 設定1： 車いすが停止してから10秒後に電磁ブレーキが作動します。(初期設定)
- 設定2： 車いすが停止してすぐに電磁ブレーキが作動します。

故障と思ったら

故障などの症状と対処をまとめています。

ご自身で解決できない場合は、取扱店へ相談、修理の依頼をしてください。



自走用操作部表示



介助用操作部表示



エラーコード・液晶表示一覧

表示	ブザー	表示される条件	表示時の車いすの状態	対処方法、説明
	ピピッ (4回繰り返し)	クラッチレバーが手動側にある状態でジョイスティック、または前進・後進スイッチを操作する。	<ul style="list-style-type: none"> 走行しない。 少し動いて停止する。 	クラッチレバーを電動側にしてください。 解消されない場合は故障の可能性あります。取扱店にご相談ください。
	ピー	ジョイスティック、速度切替スイッチまたは前進・後進スイッチを操作しながら電源を入れる。	走行しない。	ジョイスティック、速度切替スイッチ、または前進・後進スイッチを触らずに電源を入れなおしてください。 解消されない場合は故障の可能性あります。取扱店にご相談ください。
	ピピーピピー… (繰り返し)	転倒防止バーが折りたたまれている。	そのまま走行できる。	転倒防止バーを出してください。 両方の転倒防止バーが外に出てロックされると、警告表示が解除されます。
		自走用操作部または介助用操作部の電源が入っている状態で、もう一方の操作部の電源を入れる。	エラーコードが出ている操作部の操作を受け付けない。	自走用操作部と介助用操作部両方の電源を切ってから、使用する操作部の電源を入れなおしてください。
	ピップピッ… (繰り返し)	モーターに負荷が掛かり、内部温度が上昇する。	モーター出力が制限される。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。 電源を切り、モーターの温度が下がってから電源を入れなおすと、警告表示が解除されます。

表示	ブザー	表示される条件	表示時の車いすの状態	対処方法、説明
	ピーピー… (繰り返し)	モーターに負荷が掛かる。	そのまま走行できる。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。 負荷が軽くなると、警告表示が解除されます。
	ピッピッ… (繰り返し)	一定時間モーターに高い負荷が掛かる状態が維持される。	モーター出力が制限される。	高い負荷が連続する走行はしないでください。 負荷が軽くなると、警告表示が解除されます。
	ピー	モーターの内部温度が上昇する。	停止する。	電源を切り、モーターの温度が下がってから電源を入れなおすと、警告表示が解除されます。
	ピッピッ… (繰り返し)	バッテリーの内部温度が通常範囲を超える。	バッテリー電流が制限される。	適切な温度環境で車いすをご使用ください。 ニッケル水素バッテリーをご使用の場合 ▶P.92 リチウムイオンバッテリーをご使用の場合 ▶P.102
	ピピピピッ (4回繰り返し)	バッテリー残量が10%以下になる。	そのまま走行できる。	速やかにバッテリーを充電または交換してください。
	ピー	バッテリー残量が0%になる。	停止する。	速やかにバッテリーを充電または交換してください。 バッテリーに問題がない場合は取扱店にご相談ください。
		リチウムイオンバッテリーの内部温度が通常範囲を超える。	停止する。	適切な温度環境でご使用ください。 ▶P.102
		いたずら防止機能が作動している。	走行しない。	いたずら防止機能を解除してください。 ▶P.34
	ピー	電子部品に異常がある。		取扱店にご相談ください。

走行時

こんなとき	確認してください	対処方法、説明
ジョイスティック 操作に反応しない、電源が入らない	バッテリーが正しく差し込まれていますか。	バッテリーを差し込みなおしてください。
	オートパワーオフ機能で電源が切れたままになっていませんか。	電源を入れなおしてください。
スピードが出ない、パワー不足	速度切替スイッチで速度設定を下げていませんか。	速度設定を上げてください。
	駐車ブレーキがかかったままになっていませんか。	駐車ブレーキを解除してください。
	バッテリーが冷えていませんか。	適切な温度環境でご使用ください。 ニッケル水素バッテリーをご使用の場合 ▶P.92 リチウムイオンバッテリーをご使用の場合 ▶P.102
	速度や加速度に関する設定変更をしていませんか。	取扱店にご相談ください。
走行距離が短い	バッテリーが十分に充電されていますか。	バッテリーを充電または交換してください。 また、ニッケル水素バッテリーをご使用の場合は、リフレッシュ充電で改善される場合があります。 ▶P.93
	バッテリーが劣化していませんか。	バッテリーを交換してください。 また、ニッケル水素バッテリーをご使用の場合は、リフレッシュ充電で改善される場合があります。 ▶P.93
	上り坂の運転が多かったり、重い荷物を載せたりして運転していませんか。	上り坂の走行や重い荷物の積載を避けるなどして、負荷を軽くしてください。
	タイヤの空気圧が下がっていませんか。	適正空気圧にしてください。 ▶P.47
	タイヤの空気圧が下がっていませんか。	適正空気圧にしてください。 ▶P.47
手動操作が重い	駐車ブレーキがかかったままになっていませんか。	駐車ブレーキを解除してください。

こんなとき	確認してください	対処方法、説明
自走用操作部の 操作音がしない	操作音に関する設定変更をして いませんか。	操作音が鳴るようにしたい場合は、取扱店にご相談 ください。
振動や異音が する	車軸取り付け部が緩んでいま せんか。	取扱店にご相談ください。
	車いすフレームやキャスターに グラつきはありませんか。	取扱店にご相談ください。
	異音が駆動部から出ていま せんか。	取扱店にご相談ください。

介助操作時

こんなとき	確認してください	対処方法、説明
前進、後進スイッチが反応しない	オートパワーオフ機能で電源が切れたままになっていませんか。	電源を入れなおしてください。
ブレーキの効きが悪い	ブレーキレバーの遊びが大きくなっていませんか。	取扱店にご相談ください。
	左右のブレーキの効きが不均等になっていませんか。	取扱店にご相談ください。
ブレーキをかけると音が出る	長時間ブレーキをかけ続けていませんか。	ブレーキのかけ具合によって音が出る場合があります。 音がひどい場合は取扱店にご相談ください。
		ブレーキ機構内部が磨耗、損傷している可能性があります。 取扱店にご相談ください。

充電時（ニッケル水素バッテリー）

こんなとき	充電器LED	バッテリー LED	確認してください	対処方法、説明
充電されない	消灯	消灯	電源コードは接続されていますか？	電源コードを電源に接続してください。
	消灯	消灯	他のバッテリーは充電できますか？	充電できる場合、充電器は正常です。充電できない場合、充電器が故障している可能性があります。故障に関しては、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	緑色に点滅 (1秒に5回)	消灯		待機状態が長く続いたため、充電を停止しています。バッテリー温度が下がるのを待ってから、再度充電してください。
	赤色に点滅 (1秒に5回)	消灯	ニッケル水素バッテリーとリチウムイオンバッテリーが同時に接続されていますか？	両方が同時に接続されている場合は、片方を取り外してください。
			他のバッテリーは充電できますか？	充電できる場合、充電器は正常です。充電できない場合、充電器が故障している可能性があります。故障に関しては、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	赤色に点滅 (1秒に1回)	消灯		充電器が故障している可能性があります。電源プラグを抜き、バッテリーの充電を停止して、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	赤色に点灯	消灯		バッテリーが故障している可能性があります。電源プラグを抜き、バッテリーの充電を停止して、ご購入店または取扱店に相談してください。

こんなとき	充電器LED	バッテリー LED	確認してください	対処方法、説明
待機状態が長引く	緑色に点滅 (1秒に1回)	残量表示ランプが点灯	バッテリーの温度は適切ですか？	これは、故障を示すものではありません。バッテリーが適切な温度に達するまでお待ちください。
		残量表示ランプが点灯	周囲温度は適切ですか？	適切な温度環境でバッテリーを充電してください。
途中で充電が停止する	消灯	残量表示ランプが途中まで点灯	バッテリーの温度は適切ですか？	バッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。
充電に時間がかかりすぎる	橙色に点灯	残量表示ランプが点灯、順次消灯	バッテリーをリフレッシュ充電していますか？	バッテリーが放電しています。リフレッシュ充電には3～19時間かかります。
充電が完了すると、すべてのランプが点灯しなくなる	消灯	残量表示ランプが途中まで点灯	バッテリーを使用した回数または日数を確認してください。	バッテリーが劣化している可能性があります。300回くらいの充放電で新品時容量の60%に減少します。
バッテリー、充電器が熱くなる	ランプ表示は、状況によって異なる	残量表示ランプが点灯		50℃くらいになる場合がありますが、異常ではありません。 異常に高温になる場合や高温状態が続く場合は、ご購入店または取扱店へお問い合わせください。
充電器から異臭がする	ランプ表示は、状況によって異なる	残量表示ランプが点灯		初回使用時からしばらくは臭気が発生する場合がありますが、徐々に臭わなくなります。継続的に臭気を感じる場合は、充電器が故障している可能性がありますので、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。

充電時（リチウムイオンバッテリー）

こんなとき	充電器LED	バッテリー LED	確認してください	対処方法、説明
充電されない	消灯	消灯	電源コード、充電プラグは接続されていますか？	接続してください。
	消灯	消灯	他のバッテリーは充電できますか？	充電できる場合、充電器は正常です。充電できない場合、充電器が故障している可能性があります。故障に関しては、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	緑色に点滅 (1秒に5回)	消灯		待機状態が長く続いたため、充電を停止しています。バッテリー温度が下がるのを待ってから、再度充電してください。
	赤色に点滅 (1秒に5回)	消灯	ニッケル水素バッテリーとリチウムイオンバッテリーが同時に接続されていますか？	両方が同時に接続されている場合は、片方を取り外してください。
			他のバッテリーは充電できますか？	充電できる場合、充電器は正常です。充電できない場合、充電器が故障している可能性があります。故障に関しては、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。
	赤色に点滅 (1秒に1回)	消灯		充電器が故障している可能性があります。電源プラグを抜き、バッテリーの充電を停止して、販売店にお問い合わせください。
	赤色に点灯	消灯		バッテリーが故障しているまたはバッテリーが使用期限に達している可能性があります。電源プラグを抜き、バッテリーの充電を停止して、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。

こんなとき	充電器LED	バッテリー LED	確認してください	対処方法、説明
待機状態が長引く	緑色に点滅 (1秒に1回)	残容量表示ランプが点灯	バッテリーの温度は適切ですか？	これは、故障を示すものではありません。バッテリーが適切な温度に達するまでお待ちください。
		残容量表示ランプが点灯	周囲温度は適切ですか？	適切な温度環境でバッテリーを充電してください。
途中で充電が停止する	消灯	残容量表示ランプが途中で点灯	バッテリーの温度は適切ですか？	バッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。
バッテリー、充電器が熱くなる	ランプ表示は、状況によって異なる	残容量表示ランプが点灯		50℃くらいになる場合がありますが、異常ではありません。 異常に高温になる場合や高温状態が続く場合は、ご購入店または取扱店へお問い合わせください。
充電器から異臭がする	ランプ表示は、状況によって異なる	残容量表示ランプが点灯		初回使用時からしばらくは臭気が発生する場合がありますが、徐々に臭わなくなります。継続的に臭気を感じる場合は、充電器が故障している可能性がありますので、ご購入店または取扱店にお問い合わせください。

よくある質問

お客様からよく寄せられる質問と、その回答を一部記載します。最新の情報は、ヤマハ発動機電動車いすのウェブサイト（下記URL）からご確認くださいことができます。

<https://www.yamaha-motor.co.jp/wheelchair/qa/>



バッテリーについて

Q バッテリーを使わずに保管しておいて大丈夫ですか？

A バッテリーは消耗品です。
未使用であっても長期間保存した場合は、バッテリーは劣化し容量は減少します。複数のバッテリーをお持ちの場合は交互にお使いください。

Q 継ぎ足し充電しても大丈夫ですか？

A 大丈夫です。
ヤマハのバッテリーはマイコン内蔵型であり、使用状況を監視しています。ニッケル水素バッテリーをお使いの場合は、充電器のリフレッシュランプが点滅したら必ずリフレッシュ充電をしてください。

Q バッテリーの充電に時間がかかるのですが？

A バッテリーが新しいうちや気温が高い場所での充電、走行直後の充電などでは、充電中バッテリーの温度が上がりやすく、高温でバッテリーが傷むのを防ぐために、充電時間がさらに延びたり、満充電になる前に充電が終わったりする場合があります。バッテリーの温度が下がったことを確認してから、再度充電してください。

Q 充電が完了しても容量表示ランプが5つ点灯になりません。

A 理由は2つ考えられます。
1つ目はバッテリーの劣化です。ニッケル水素バッテリーをお使いの場合、内蔵されたマイコンがバッテリーの劣化度合いを把握し、劣化度合いに応じたランプを表示します。このため、容量が新品時の80%以下になると充電が完了しても5灯目は点灯しなくなります。さらに劣化して60%以下になると4灯目も点灯しなくなります。4灯目が点灯しなくなったら、寿命の目安としてください。
2つ目はバッテリーの温度上昇による充電停止です。気温の高い環境下での充電や新品のバッテリーを充電したときに起こる現象です。バッテリーを一旦充電器から外してから再度充電してください。

Q バッテリーの買い換えの目安はどのくらいですか？

A バッテリーの寿命は使用状況や保存状態、走行状態、気温、充電のしかたなどにより異なります。バッテリーは消耗品ですので、1回の充電で走れる距離が著しく短くなってきたら寿命と考え、新しいバッテリーに交換してください。ヤマハ電動車いす用バッテリーの寿命の目安は下記のとおりです。

なお、ニッケル水素バッテリーの場合、メモリー効果によってバッテリーの性能が落ちている場合もあります。このようなときは、リフレッシュ充電をしてから寿命の判断をしてください。

・ ニッケル水素バッテリー … 充放電回数約300サイクル（新品時容量の約60%に劣化）

・ リチウムイオンバッテリー … 充放電回数約700サイクル

※1サイクル=バッテリーを使い切ってから満充電にすること。

※数値は目安であり、保証する値ではありません。

飛行機搭乗時、海外での使用について

Q 航空会社から証明書の提出を求められたのですが？

A ウェブ上で証明書のPDFデータをダウンロードすることができます。

ヤマハ発動機電動車いすのウェブサイトから、『よくあるお問合わせ』>『旅行・飛行機搭乗時』へとおすすみください。

Q 海外でバッテリーを充電できますか？変圧器は必要ですか？

A 充電器はAC100～240V、50／60Hzに対応しています。

電源プラグ変換アダプタをご準備いただければ、変圧器は必要ありません。

水濡れについて

Q 雨が降っているときに外出してもいいですか？

A 小雨程度であればバッテリーや駆動部に水がかかっても壊れることはありません。

使用後は、水分をふき取って乾燥させてください。ただし、雨天時の外出はタイヤが滑りやすくなったり、視界が悪くなったりして危険性が増します。出来るだけ外出を避けていただくか、やむを得ない場合は慎重に運転してください。

Q バッテリーや駆動部に浸水してしまったら？

A バッテリー、充電器、電動車いすの駆動部などに浸水してしまった場合は、使用をやめ、すぐに取扱店にご相談ください。

浸水したあとに作動していても、後日故障を起こす可能性があります。

車いす、バッテリーの処分

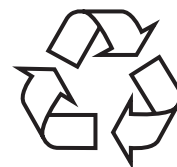
● 車いす本体の処分

車いす本体の処分方法は、自治体によって扱いが異なります。自治体の規則にしたがって処分してください。

不明な点がありましたら、取扱店にご相談ください。

● バッテリーの処分

ニッケル水素バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーは、貴重な再生資源を含むリサイクル可能なバッテリーです。使用しなくなったバッテリーは、取扱店にお持ちいただき、リサイクルにご協力ください。



お問い合わせと保証

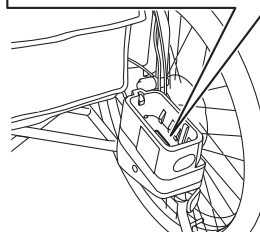
● お問い合わせ

お使いの車いすに関するお問い合わせや、調整、点検、修理などのアフターサービスは、下記の取扱店が承ります。

お問い合わせの際、車いすの製造番号をお尋ねする場合がございます。製造番号はバッテリーシートの内側にラベルが貼り付けられていますので、あらかじめ番号を控えていただくことをおすすめします。

取扱店

XOF□-□□□□□□



● 保証について

保証期間中、お買い上げいただいたJWアクティブ PLUS+、JWX-1 PLUS+に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、不具合部品の交換または補修により無料で修理を行ないます。JWX-1 PLUS+の場合、保証の対象は、電動ユニット、自走用操作部、介助用操作部および充電器で、JWアクティブ PLUS+の場合は、これらにフレームを含みます。なお、バッテリー、タイヤ、チューブなどの消耗品は保証の対象にはなりません。詳しくは保証書をご覧ください。

10 定期点検のすすめ

ヤマハ電動車いす及び電動ユニットの設計上の標準使用期間は6年（タイヤ、キャスター、バッテリー等の消耗品除く）です。

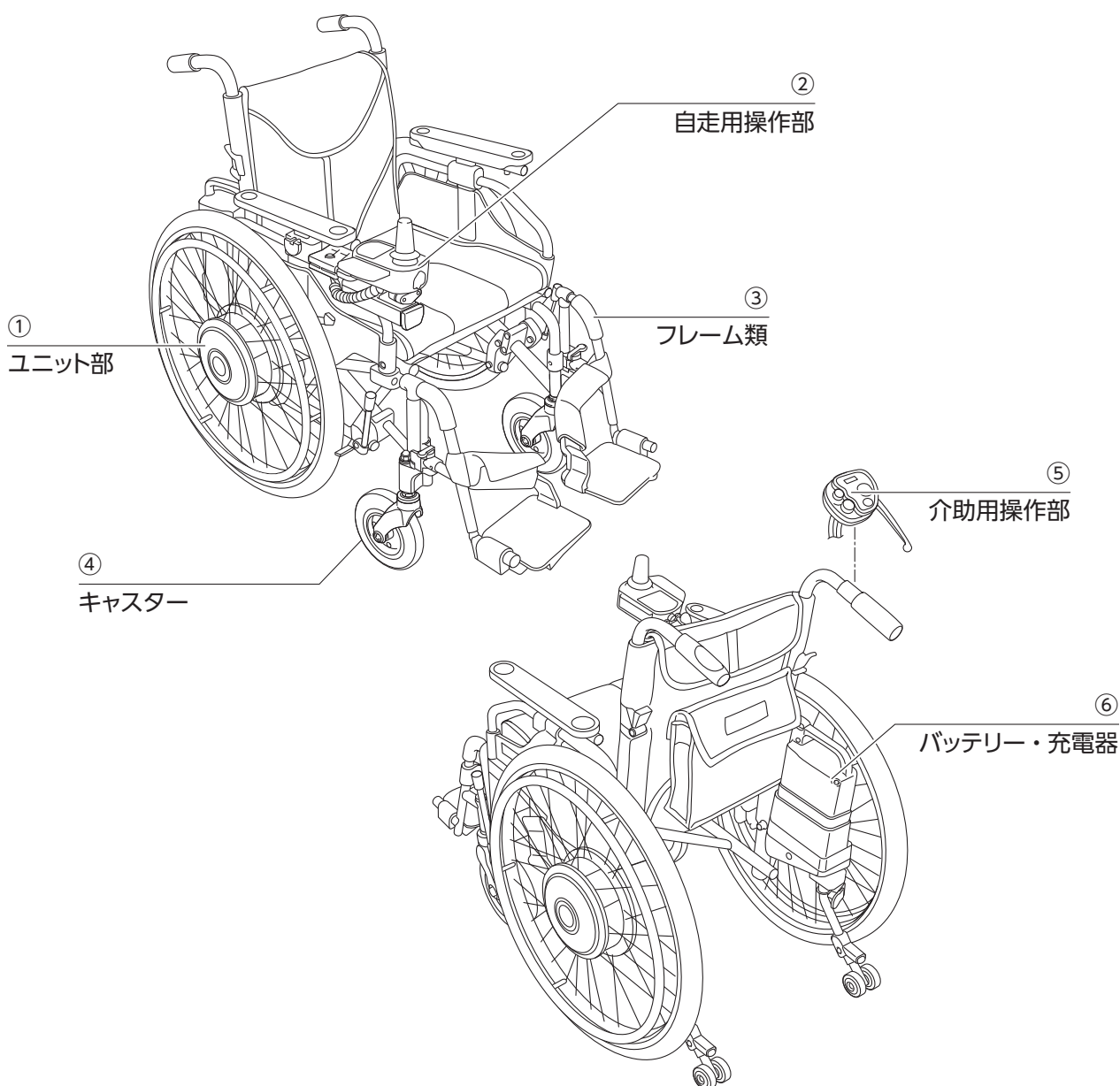
標準使用期間とは、定期的に点検整備を行った場合に、製品の性能が維持できると考えられる期間です。

ただし、使用状況や走行距離により6年を待たずに製品が使用できなくなる場合があります。

標準使用期間を経過したヤマハ電動車いす及び電動ユニットは、買い替えをおすすめします。

安全で快適な車いすをお使いいただくために、6ヶ月ごとに取扱店で点検をお願いします。（点検は有料です）

点検内容





警告

- **車いすに異常がある状態で使用しない。**

走行中に車いすが壊れて、車いすが転倒や転落するおそれがあります。

- **キャスター及びタイヤは消耗品です。**

溝の減りやヒビ割れがある場合、速やかに交換してください。

キャスターに関しては、JWアクティブ PLUS+の場合、溝の減りやヒビ割れがなくとも2年を目安に交換してください。JWX-1 PLUS+の場合、各フレームメーカーへお問い合わせください。

要 点

JWX-1 PLUS+のフレームについては各フレームメーカーへお問い合わせください。

作業実施記号の意味

別冊の点検整備記録簿へ記入してください。

整備作業区分	チェック記号	意味	作業例
締付	T	点検の結果、締付けた。 (緩んだ箇所を増し締めする作業)	ホイールナットの増し締め
修理	△	点検の結果、修理した。 (損傷などのために部品を修理する作業)	配線の取り直し
交換	×	点検の結果、交換した。 (損傷などのために部品を交換する作業)	タイヤの交換
調整	A	点検の結果、調整した。 (機能調整のため、遊び、角度などを基準に戻す作業)	介助ブレーキの調整
分解	○	分解作業を含む場合、記号を○で囲む (例:清掃時に分解作業をした場合、(○C))	ジョイスティック部の異物除去
清掃	C	点検の結果、清掃した。 (ほこり、ゴミなどの汚れを取り除く作業)	バッテリー端子の清掃
異常なし	レ	点検の結果、異常がなかった。	

整備記録簿の記入要領

一次頁の記入例をご参照くださいー

- ① 点検日：点検を行った年月日を記入します。
- ② 依頼No.：修理を行う取扱店で任意で決めた管理No.を記入します。
- ③ 取扱店名称：点検を行った取扱店の名称を記入します。
- ④ お客様氏名：点検を依頼したお客様の氏名を記入します。
- ⑤ 製造番号：点検を行う車両の製造番号を記入します。
製造番号はバッテリーシートの内側にラベルで貼り付けています。
- ⑥ フレームメーカー：ユニットを組付けているフレームのメーカーを記入します。
JWアクティブ PLUS+、タウンニジョイX PLUS+の場合、“ヤマハ”と記入。
- ⑦ 特記事項：点検結果の補足情報や、お客様にアドバイスする内容、注意事項を必要に応じて記入します。
- ⑧ 点検者印：点検者のご捺印箇所になります。
- ⑨ 担当者印：点検者と担当者が異なる場合、担当者のご捺印箇所になります。
- ⑩ お客様印：お客様（ご依頼者）のご捺印箇所になります。

点検後の整備記録簿の原本はお客様控え、複写は取扱店控えとして保管してください。

整備記録簿記入例

点検日: _____ 依頼No: _____

取扱店名称	製造番号	バッテリー / 充電器 有・無 / 有・無	お客様氏名	フレームメーカー
-------	------	--------------------------	-------	----------

点検整備記録簿

点検日: _____ 依頼No: _____

取扱店名称	製造番号	バッテリー / 充電器 有・無 / 有・無	お客様氏名	フレームメーカー
-------	------	--------------------------	-------	----------

リヤホイール等を使用している緩み防止ナットは再利用不可です。点検等で取り外した際は、新品交換となります。

No	点検箇所	点検結果
1	リヤタイヤ	タイヤの摩耗・溝の減り・ヒビ割れ・損傷・空気圧
2	リヤホイール	取り付け状態・緩み・バルブ・キャップ
3	ダストカバー ^{※1}	ダストカバーの欠品・破損
4	スポーク	変形・損傷・緩み・ガタ
5	リム	振れ・変形
6	ハンドリム	取り付け状態・緩み・損傷・バリ、さざくれ
7	ユニット取り付け軸	取り付け状態・緩み・ガタ
8	転倒防止バー	作動状態・取り付け状態・変形・損傷・緩み・ガタ
9	転倒防止バー	キャストの上がる高さ(100mm以下) ^{※3} ・ローラの状態
10	補助輪(ローラ)	が後輪の後端より後ろであること
11	バッテリーシート	端子の曲がり・損傷・変形・腐蝕状態
12	スイッチ部 ^{※2}	電源・モード切替スイッチの作動
13	配線	配線コネクタ部の接続状態・ケーブル類の突っ張り・挟まり
14	クラッチレバー ^{※1}	作動状態・変形・損傷(手動/電動の切替確認)
15	クラッチワイヤー ^{※1}	変形・損傷・抜け
16	クラッチワイヤー ^{※1}	配線の状態(折りたたみ時の配線の巻込、噛込)
17	リモコン本体 ^{※1}	取り付け状態・緩み・変形・損傷
18	スイッチ部 ^{※1}	スイッチ(電源・速度)の作動・ゴムキャップの状態
19	ジョイスティック ^{※1}	操作レバーの作動
20	ワイヤーリード ^{※1}	断線の有無・配線の状態
21	取り付けブラケット ^{※1}	取り付け状態・緩み・ガタ・変形・損傷
22	フレーム本体	変形・損傷・緩み(ボルト、ナットなど)・バリ、さざくれ
23	フレーム本体	背折れ部ロック機構、折りたたみ機構
24	フットサポート	変形・損傷・緩み・ガタ(調整後、固定される事)
25	フットサポート	下面の高さが地面から50mm以上であること
26	フットレグサポート	変形・損傷
27	アームサポート	変形・損傷・高さ調整機能
28	サイドガード	変形・損傷
29	押し手ハンドル	変形・損傷・緩み・ガタ(ボルト、ナットなど)・グリップ
30	駐車ブレーキ	変形・損傷・緩み・確実に停止できる(空気圧確認)
31	シート	変形・損傷・緩み

No	点検箇所	点検結果
32	キャストタイヤ	タイヤの摩耗・溝の減り・ヒビ割れ・損傷
33	キャストタイヤ	滞りに回転するが(異物なき事)
34	タイヤ取り付け部	緩み・ガタ・異音(ボルト、ナットなど)
35	フォーク	取り付け状態・損傷・ガタ・異音
36	リモコン本体 ^{※1}	取り付け状態・緩み・変形・損傷・操作パネル
37	スイッチ部 ^{※1}	スイッチ(電源・速度調整ダイヤル・前後スイッチ)
38	介助用ブレーキ ^{※1}	レバーの遊び(15~25mm)・効き具合・鳴き
39	ブレーキワイヤー ^{※1}	損傷・折損・配線の状態
40	バッテリー・充電器	端子・レバー・ボディの損傷 充電中に異常発熱はないか 異常発熱の実施内容 診断結果を記入してください 簡易バッテリー 診断表示 劣化度合い表示 使用回数表示
41	走行確認	前後左右、停止動作などに問題ない事、異音・異常振動無き事
42	履歴確認 ^{※1}	エラー履歴に問題がない事を確認(セルフダイアグノーシス)
43	バッテリーバッグ ^{※2}	バッグの破れ・損傷、上下ベルトの緩み・たるみ
44	バッテリーバッグ ^{※2}	可動部への接触、巻き込み、折りたたみ時の挟まり

作業実施記号
該当なし: / 交換: X 清掃: C
補付: △ 調整: △ 異音なし: /
修理: △ 分解: O

※1: PLUS+シリーズのみの項目です ※2: アンスシリーズのみの項目です
※3: 転倒防止バーが接触した際に、キャストと地面との間隔が100mm以下

特記事項

タイヤの空気圧が下がっている状態でした。
タイヤの空気圧の低下は、走行性や乗り心地の悪化につながります。
また、駐車ブレーキが正常に効かない場合もあります。
タイヤの空気は定期的に入れるようお願いいたします。

お客様印

点検者印 担当者印

原本: お客様控え 複写: 取扱店控え

特記事項

タイヤの空気圧が下がっている状態でした。
タイヤの空気圧の低下は、走行性や乗り心地の悪化につながります。
また、駐車ブレーキが正常に効かない場合もあります。
タイヤの空気は定期的に入れるようお願いいたします。

お客様印

点検者印 担当者印

原本: お客様控え 複写: 取扱店控え

仕様早見表

お使いになる電動車いすのタイプ・仕様に応じて印をつけることによって、お使いの製品のタイプ・仕様がわかりやすくなります。製品をお受け取りの際、必要に応じて取扱店の説明をお受けください。

モデル	<input type="checkbox"/> JWアクティブ PLUS+ Pタイプ <input type="checkbox"/> JWアクティブ PLUS+ Sタイプ <input type="checkbox"/> JWX-1 PLUS+	タイヤサイズ	<input type="checkbox"/> 20インチ <input type="checkbox"/> 22インチ <input type="checkbox"/> 24インチ
速度仕様	<input type="checkbox"/> 4.5km/h仕様 <input type="checkbox"/> 6km/h仕様	バッテリー	<input type="checkbox"/> ニッケル水素バッテリー <input type="checkbox"/> リチウムイオンバッテリー
介助用操作部	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	介助用ブレーキ	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
自走用操作部 ブラケット	<input type="checkbox"/> 標準（縦型）ブラケット <input type="checkbox"/> スライドブラケット	バッテリーシート	<input type="checkbox"/> 一体型 <input type="checkbox"/> 分離型

販売店様・
レンタル店様

必要に応じて仕様早見表を記入して、お客様に製品をお渡しく下さい。

お客様がお使いのタイプ・仕様がわからなくなったとき、仕様早見表を見ていただくことにより、タイプ・仕様を理解しやすくなります。



JWアフィリエイト 取扱説明書
JW X1

2024年4月発行

不許複製

編集発行 ヤマハ発動機株式会社

X0F-28199-18



202404-0.3×1 CR